

筑後西部第2地区遺跡群(Ⅱ)

筑後市大字津島所在遺跡の調査(2)

筑後市文化財調査報告書
第26集

2000

筑後市教育委員会

筑後西部第2地区遺跡群(Ⅱ)

津島皿ヶ町遺跡第1次調査



2000

筑後市教育委員会

序

この報告書は、平成9年度に行った、津島皿ヶ町遺跡の調査の成果をまとめたものです。

筑後西部第2地区のは場整備に伴って、多くの遺跡が発掘調査されました。これから年次計画で報告書を刊行してまいりますがその結果、この地域の歴史が少しづつひもとかれていくことでしょう。

この報告書が各方面で些少なりとも活用されれば、望外の喜びです。最後になりましたが、本報告書の刊行にあたり、ご助力ご協力いただいたみなさまに、厚く御礼申し上げます。

平成12年3月

筑後市教育委員会

教育長　牟田口和良

例　言

1. 本書は平成9年度に調査を行った「津島皿ヶ町遺跡第1次調査」の成果をまとめたものである。
2. 発掘調査および出土遺物の整理等は筑後市教育委員会が行った。調査関係者は序章に記したとおりである。なお、出土遺物・実測図・写真等は筑後市教育委員会において収蔵・保管している。
3. 本書に使用した図面のうち、遺構実測図は永見秀徳、立石真二、末吉隆弥（現 川崎町教育委員会）、江崎貴浩、奥村太郎が、遺物実測図は永見、平塚アケミ、江藤玲子、末吉が作成した。また、製図は永見、平塚、江藤が行った。
4. 本書に使用した遺構写真・遺物写真是永見が撮影した。
5. 本書での報告にあたり、遺構番号を次のように決定した。調査時につけた仮番号を生かし、頭に調査次数、遺構種別を加えた。つまり第1次調査のS-1が竪穴住居であった場合、1 S I 0 1となる。
6. 本書に用いた方位はすべてG.N.を、水準はT.P.を基準としている。なお、遺構の主軸等の方位は実測図上で分度器を用いて計測した。北から45°東にあたる場合、N-45°-Eと表記した。
7. 本書の執筆・編集は永見が行った。

目　次

序　章　はじめ	1
第Ⅰ章　位置と環境	3
第Ⅱ章　調査成果	8
(1)遺構	9
(2)出土遺物	17
第Ⅲ章　考察	91
終　章　結語	97

序章 はじめに

本書は平成9年度に発掘調査を行った、津島皿ヶ町遺跡の調査成果を収録している。今回の調査は、平成9年度県営扱い手育成基盤整備事業筑後西部第2地区に伴い、工事によって消滅する部分について記録保存の措置をとったものである。今回調査対象地となった部分は支線排水路の予定地となっており、水路の掘削によって遺跡が消滅することになった。

調査にいたる経過については、既刊の「筑後西部第2地区遺跡群[1]」に詳しいので、そちらを参照されたい。なお、整理作業は平成10年度から平成11年度にかけて、筑後市教育委員会文化財整理室で行った。

なお、調査組織は以下のとおりである。

(現地調査 平成9年度)

総括	筑後市教育委員会 教育長	森田 基之
	教育部長	津留 忠義
庶務	社会教育課長	山口 逸郎
	社会教育係長	田中 清通
	社会教育係	田中 剛 (文化財担当) 小林 勇作 (文化財専門職)
		上村 英士 (次々)
		立石 真二 (文化財学芸員)
		柴田 剛 (次々)
調査担当	社会教育係	永見 秀徳 (文化財専門職)

(整理作業 平成10年度)

総括	筑後市教育委員会 教育長	牟田口 和良
	教育部長	下川 雅晴
庶務	社会教育課長	山口 逸郎
	社会教育係長	田中 清通
	社会教育係	田中 剛 (文化財担当) 小林 勇作 (文化財専門職)
		上村 英士 (次々)
		立石 真二 (文化財学芸員)
		柴田 剛 (次々)
調査担当	社会教育係	永見 秀徳 (文化財専門職)

(整理作業 平成11年度)

総括	筑後市教育委員会 教育長	牟田口 和良
	教育部長	下川 雅晴
庶務	社会教育課長	庄村 國義
	文化係長	田中 優一
	文化係	小林 勇作 (文化財専門職)

上村 英士（文化財専門職）

立石 真二（文化財学芸員）

柴田 剛（　　々　　）

調査担当

文化係

永見 秀徳（文化財専門職）

なお、発掘調査前の協議から、現地調査、報告書作成に到るまで、次の方々から貴重な御助言、御指導をいただいた。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）

佐田 茂（佐賀大学）、水野正好・泉拓良・酒井龍一・西山要一・植野浩三（以上、奈良大学）、西健一郎・李タウン（以上、九州大学）、川述昭人・橋口達也・佐々木隆彦・新原正典・池辺元明・小田和利・小川泰樹・斎藤麻矢（以上、福岡県教育庁）、赤崎敏男・大塚恵治・中川寿賀子・山田朗子（以上、八女市教育委員会）、平島勇夫・山田元樹・坂井義哉（以上、大牟田市教育委員会）、岡美詠子（大川市教育委員会）、塙本映子（三潴町教育委員会）、東竜男（山川町教育委員会）、猿渡真弓（高田町教育委員会）、尾崎源太郎（広川町教育委員会）、田中康信（瀬高町教育委員会）、大島真一郎（黒木町教育委員会）、永田寧（立花町教育委員会）、萩原裕房・桜井康治・富永直樹・小澤太郎・白木守（以上、久留米市教育委員会）、石井扶美子（夜須町教育委員会）、吉留秀敏（福岡市教育委員会）、山本信夫・城戸康利・中島恒次郎・山村信榮・井上信正・高橋学（以上、太宰府市教育委員会）、田村悟（直方市教育委員会）、笠原勝彦（故人）・末吉隆弥（以上、川崎町教育委員会）、前田達男・木嶋眞治（以上、佐賀市教育委員会）、山城敏昭（熊本県教育委員会）、森田浩史（宮崎県田野町教育委員会）、白岩修（宮崎県木城町教育委員会）、古賀信幸・古賀真木子（以上、山口市教育委員会）、村川俊明（京都府精華町教育委員会）、狹川真一（元興寺文化財研究所）、西川寿勝（大阪府教育委員会）、上野裕子（貝塚市教育委員会）、半沢幹雄・知和名明美（以上、千葉県教育委員会）、竹内靖長（松本市教育委員会）、田村昌宏（石川県埋蔵文化財センター）、岡田雅人（草津市教育委員会）、金聖範（国立慶州文化財研究所）、李夕湖（国史編纂委員会）

第Ⅰ章 位置と環境

1：筑後市の位置関係

福岡県南部から佐賀県東北部に広がる筑後平野は、平坦で肥沃な土地、豊かな水資源に恵まれていて、先史時代から活発な人間生活が営まれてきた地域である。

筑後市は、一級河川である矢部川の中流右岸に位置しており、筑後平野南半部のほぼ中央にあたる。東は八女市、八女郡広川町、北は久留米市、三潴郡三潴町、西は三潴郡大木町、南は山門郡瀬高町、同三橋町に接している。市を南北にJR鹿児島本線と国道209号線が貫き、東西に国道442号線が走る。2本の国道は、市の中央部の山ノ井で交差している。周辺都市との直線距離は、八女市5km、大川市11km、久留米市12km、大牟田市20km、福岡市45kmである。

2：自然環境

筑後市域の地形は駿迎山系から派生する「八女丘陵」と呼ばれる洪積台地と扇状地性低地で、その大部分を占めている。

市の北東部の旧洪積台地は標高30mから40mで、市域内では最も標高の高い地域である。丘陵の標高は、南に行くにつれて低くなる傾向がある。しかも、先端部は緩やかに低地に接続し、その境界が明瞭でない場合も多い。また、南西部を中心に広がる扇状地性低地は有数のクリーク地帯となっていたが、近年のは場整備事業等でクリークは急速にその数を減少させている。

降水量については、6、7月の梅雨期に多いが、台風襲来期は場合によっては梅雨期より多いこともあります。偏異率が高い。また冬季の降水量（降雪量含む）は少なく、更に夏期の降水量は非常に不安定である。夏期は水稻耕作にとって最も水が重要な時期であるが、殆ど降らなかったり、また降りすぎたりという水害が水田灌漑用水供給の不安定性を生じさせた。これが花宗川、山ノ井川という独特の水利慣行を生み出している。矢部川の水利慣行は全国一複雑であるともいわれている。

3：歴史環境

・先土器時代

筑後平野は「筑後川の賜」であり、この肥沃な土地には古から人々が暮らしていた地域である。この筑後地域で今まで旧石器が発見された場所、遺跡は60ヶ所を超えており、しかし、明確な旧石器包含層から検出された遺跡は皆無に等しく、大半が表探か、後世の造構への混入品である。筑後市内城でも残念ながらこの旧石器時代に関しての遺跡は検出していない。しかし、表探等では藤数坂口遺跡G地点より、角錐状石器が1点出土しており、太古のこの地に人類がいた確かな証拠といえるだろう。

・縄文時代

これまで知られていた、縄文時代の遺跡は「裏山遺跡」や「坊田・空山・石塚遺跡」に加えて、近年の発掘調査で新しい遺跡が知られるようになった。「久恵中野遺跡」や「鶴田岸添遺跡」、「志前田遺跡」や「志西野々遺跡」等である。これらの遺跡では早期のものとみられる石組炉が確認されている。いずれも市の南部域である点に注目したい。また、晩期末の夜白式土器が「常用長田遺跡」から出土している。しかし、早期以外では造構の確認例はない。

・弥生時代

市内域において、前半期の遺跡は、その殆どが市の南部に分布する。おそらくは水田耕作を行うにあたり、より河川に近い所に住み着いたと理解するのが適当であろう。中期後半になると、市内域にまんべんなく遺跡が分布するようになり数も飛躍的に増加する。後期になると新しいムラの形成はあまり見られなくなる。これは、当時の技術で新しくムラを形成できる場所が無くなってきたのであろう。

この時代の市内域の遺跡には常用の「常用遺跡群」、「梅島遺跡」、上北島の「上北島平塚遺跡」、尾島の「裏山遺跡」、水田の「山伏遺跡」、蔵敷の「蔵敷遺跡群」「蔵敷森ノ木遺跡」、下北島の「下北島久代遺跡」等多数の遺跡が上げられる。

・古墳時代

この時代、八女丘陵にも多数の古墳が造築される。筑後市内域でもこの丘陵地に阿蘇凝灰岩を素材とする武装石人や、直弧文を飾した家型石棺を有する「石人山古墳」、珠文鏡や馬具等を出土した「瑞王寺古墳」、他に「千人塚古墳」、「欠塚古墳」等があげられる。

この時代のムラの生活は弥生時代とさほど変わらないが、5世紀にはいると住居端に「カマド」が造られるようになる。また、使用される土器に朝鮮半島から伝わった「須恵器」が加わるようになる。

この時代の市内域の遺跡としては蔵敷の「蔵敷森ノ木遺跡」、常用の「梅島遺跡」、北上島の「狐塚遺跡」、西半田の「田佛遺跡」、高江の「高江遺跡」、欠塚の「前津塚山遺跡」等があげられる。

・奈良時代

近年の調査により、筑後市内からも西海道の一部が発見されており、ほぼ市の中央を南北に縱断する事が確認された。更に、「延喜式」に見える「葛野駅」は、筑後市内にあったと推測されている。また、筑後という地名（国名）が歴史上に初見するのもこの時代である。

この時代の筑後市内の遺跡としては前津の「前津中ノ玉遺跡」、若菜の「若菜森防遺跡」、羽犬塚の「羽犬塚中道遺跡」、「羽犬塚射場ノ本遺跡」、上北島の「井原口遺跡」等があげられる。

・平安時代

桓武天皇による平安京遷都から鎌倉幕府が成立するまでの390余年を平安時代といふ。際限のない増税のため口分田の維持が不可能となり、三世一身の法、墾田永年私財法が打開策として採られるが、これによって公地公民制は崩れ、新たに莊園が成立する。この莊園制は貴族や社寺のみを利するようになったが、莊園こそがこの時代の特徴といつても過言ではないだろう。

この時代の筑後市内域においての莊園の存在は、今のところ明らかではない。この時代の筑後市内域の遺跡としては、「鶴田市ノ塚遺跡」、「高江柳遺跡」、「井田堀越遺跡」等があげられる。

・中世（鎌倉・室町・戦国時代）

筑後市は平家のゆかりの深い地域である。1185年の壇ノ浦で完敗した平家の残党や、元九州鎮定の役人であった平宗清らが落ちのびてきたという。その後1192年、源頼朝によって鎌倉に幕府が開かれ武士による政治が始まる。筑後市内においてはこの鎌倉期の1226年に水田天満宮が創建される。これに属する莊園として、現在の筑後市下妻、馬間田、富安一帯の下妻莊、並びに天満宮近辺水田の水田莊が成立する。また市の北半は、熊野の坂東寺の莊園である広川莊となっていた。

1333年、鎌倉幕府は滅亡し、後醍醐天皇による建武の新政が開始されるが、3年後には足利尊氏により室町幕府が開かれた。これより南北朝の争乱が始まる。

この当時、筑後市内では水田莊と広川莊の間で激しい境界争いが行われた。文献に現れるのは北水田蓮信と大島居信高の間で行われた争いが最初である。結局これは1339年に和解をすることであ

合意している。1369年、信高が境界付近に老松社を造立しようとしたところ、広川荘の熊野神社の神官らが出向いてきて妨害を働いたことをきっかけとして一段と争いが激しくなる。この争いは1381年、大島居龟松丸の雜掌貞蓮と広川荘の地頭代光顯の間で和与がなされ、ようやく境半田論争について和解が成立する。

この時代の市内域の遺跡としては「長崎坊田遺跡」、「熊野屋敷遺跡」、「藏敷赤坂遺跡」、「島田外屋敷遺跡」、「井田西中野遺跡」、「上北島前田遺跡」があげられる。

参考文献

「梅島遺跡」 筑後市教育委員会 1992

筑後市文化財報告書第6集 「藏敷遺跡群」 筑後市教育委員会 1990

筑後市文化財報告書第3集 「瑞王寺古墳」 筑後市教育委員会 1984

筑後市文化財報告書第8集 「欠塚古墳」 筑後市教育委員会 1993

筑後市文化財報告書第1集 「狐塚遺跡」 筑後市教育委員会 1970

筑後市文化財報告書第5集 「田佛遺跡」 筑後市教育委員会 1988

筑後市文化財報告書第7集 「高江遺跡」 筑後市教育委員会 1991

筑後市文化財報告書第4集 「前津中ノ玉遺跡」 筑後市教育委員会 1987

筑後市文化財報告書第17集 「羽犬塚射場ノ本遺跡」 筑後市教育委員会 1995

筑後市文化財報告書第10集 「四ヶ所古四ヶ所遺跡」 筑後市教育委員会 1994

「山梶窓」 筑後市教育委員会・筑後郷土史研究会 1979

「筑後市史」 筑後市史編纂委員会 1998

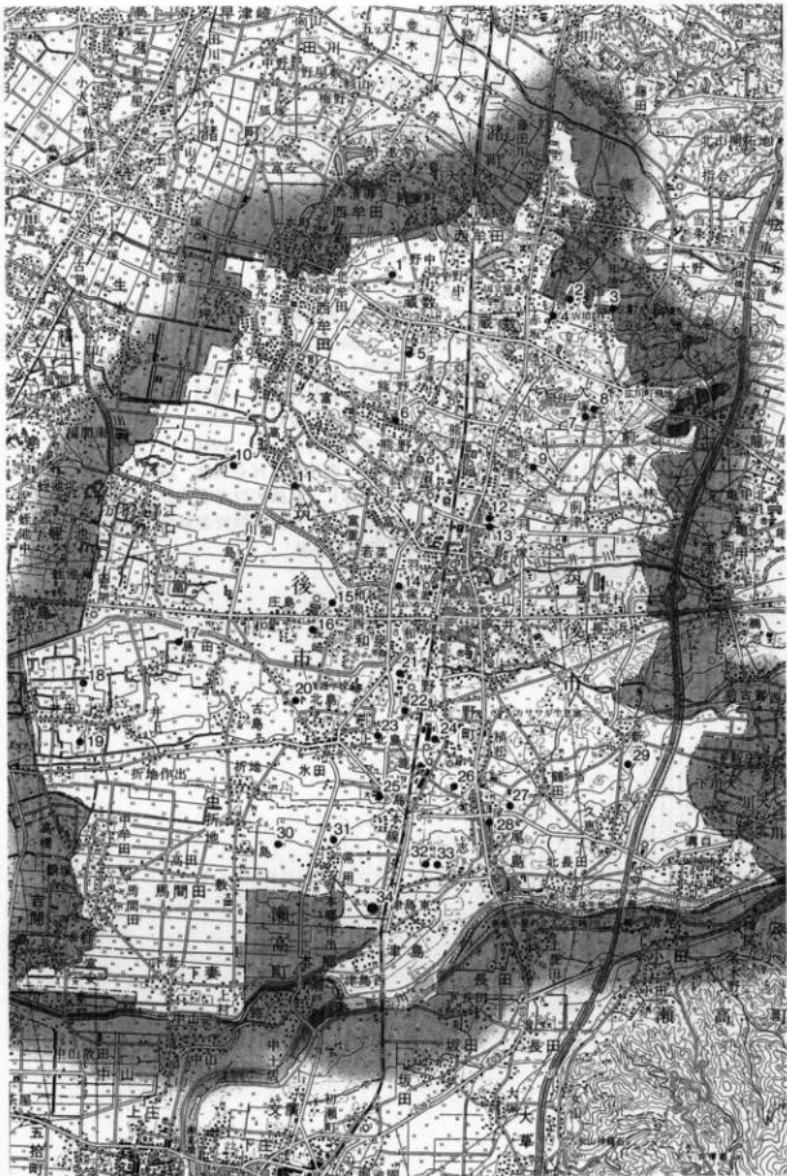


Fig. 1 周辺遺跡分布図 (1 / 50,000)

周辺遺跡分布図 遺跡名一覧

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 田佛遺跡 | 18 井田西中野遺跡 |
| 2 千人塚古墳（一ト塚古墳） | 19 井田堀越遺跡 |
| 3 石人山古墳 | 20 下北島久テ遺跡 |
| 4 蔵敷赤坂遺跡 | 21 井原口遺跡 |
| 5 蔵敷森ノ木遺跡（藏敷遺跡群） | 22 狐塚遺跡 |
| 6 熊野屋敷遺跡 | 23 上北島前田遺跡 |
| 7 前津塚山遺跡 | 24 上北島平塚遺跡 |
| 8 欠塚古墳 | 25 水田山伏遺跡 |
| 9 前津中ノ玉遺跡 | 26 裏山遺跡 |
| 10 高江柳遺跡 | 27 鶴田岸添遺跡 |
| 11 高江遺跡 | 28 鶴田市ノ塚遺跡 |
| 12 羽犬塚中道遺跡 | 29 久恵中野遺跡 |
| 13 羽犬塚射場ノ本遺跡 | 30 梅島遺跡 |
| 14 若菜森坊遺跡 | 31 常用長田遺跡（常用遺跡群）※ |
| 15 長崎坊田遺跡 | 32 志西野々遺跡 |
| 16 坊田・空山・石塚遺跡 | 33 志前田遺跡 |
| 17 島田外屋敷遺跡 | 34 津島皿ヶ町遺跡 |

※ 常用長田遺跡（31）は、当市教育委員会刊行の「長崎坊田遺跡（筑後市文化財調査報告書第23集）1999」の中で常用北長田遺跡（No.93・No.96）としていたが、所在地が筑後市大字常用字長田であることが判明したため、常用長田遺跡とあらためる。

第Ⅱ章 調査成果



Fig. 2 津島皿ヶ町遺跡第1次調査位置図 (1/2,500)

今回の調査では、水路部分のみの調査となつたことから、当然の制約として非常に細長い調査区を設定せざるを得なかつた。また水路の形状から、造構の分布する範囲のうち、調査区は東端で鋭角に屈折するL字形となつた。したがつて、多くの造構が造構全体の掘削を断念しており、部分掘削となつてゐる。調査区のおおよその大きさは、東西方向の部分が幅3m延長40mで、南北方向は幅2m延長35mであった。ただし西端部と南端部は、大きな溜まり状の造構や溝状造構を確認したため、それぞれ南と西に調査区を一部拡張している。

また、遺跡の全体像についても、それを論及するにはとうてい及ばず、極めて雑薄な調査成果のみを報告することを、はじめにお断りしたい。また、遺物については、弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての限られた時期幅の中に収まる遺物群であったため、可能な限り図化して掲載した。そのために、かなりの細片であつても図化していることを留意されたい。

(1)遺構

今回の調査では、2条の溝状遺構・掘立柱建物2棟・廃棄土壌3基などを確認した。以下、遺構種類別に報告したい。

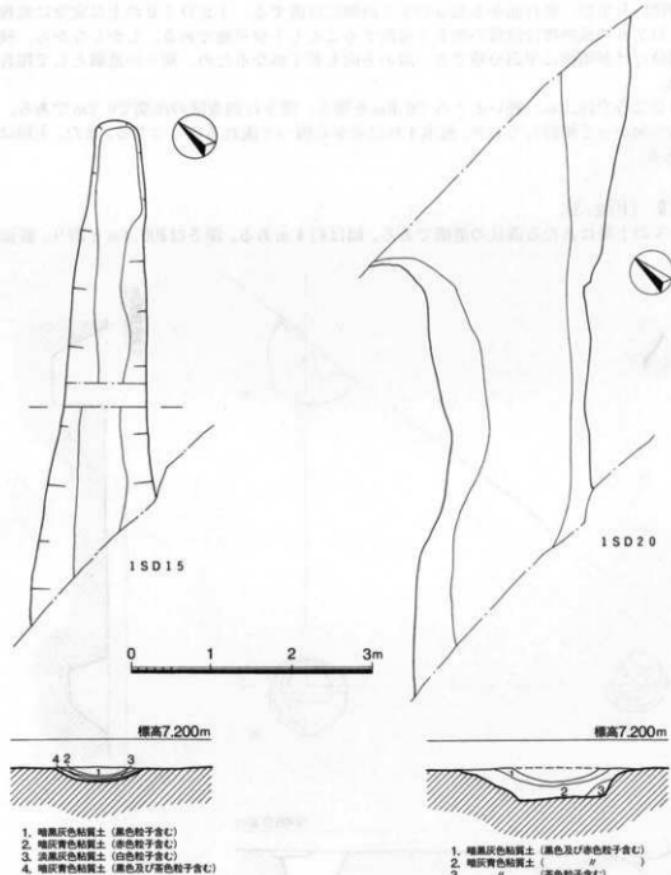


Fig.3 溝状遺構 (1SD15・1SD20) 実測図 (1/60)

溝状遺構

溝状遺構は2条を確認した。ただし、完全に重複するため、1遺構の埋土の違いと理解すべきかも知れない。ただ、調査時の所見として、埋土の状況が際立って異なっていて、しかも方向が若干ずれることから別遺構として調査を行った。

1 S D 1 5 (Fig.3, Pl.2)

調査区が深いL字型に折れ曲がる部分のすぐ西側に位置する。1 S D 2 0 の上に完全に重複しており、1 S D 2 0 の最終埋没段階の埋土と解釈することも十分可能である。しかしながら、検出段階でその部分だけが明瞭に平面分層でき、溝の方向も若干異なるため、別々の遺構として報告することとした。

幅は広いところで14.0m、狭いところで6.0mを測る。深さは調査区の南端で0.2mである。底面は北から南へ向かって傾斜しており、通水すれば北から南へと流れることになる。また、主軸はN-49°-Eである。

1 S D 2 0 (Fig.3)

1 S D 1 5 の下層にあたる溝状の遺構である。幅は約4mある。深さは約0.4mを測り、断面はお

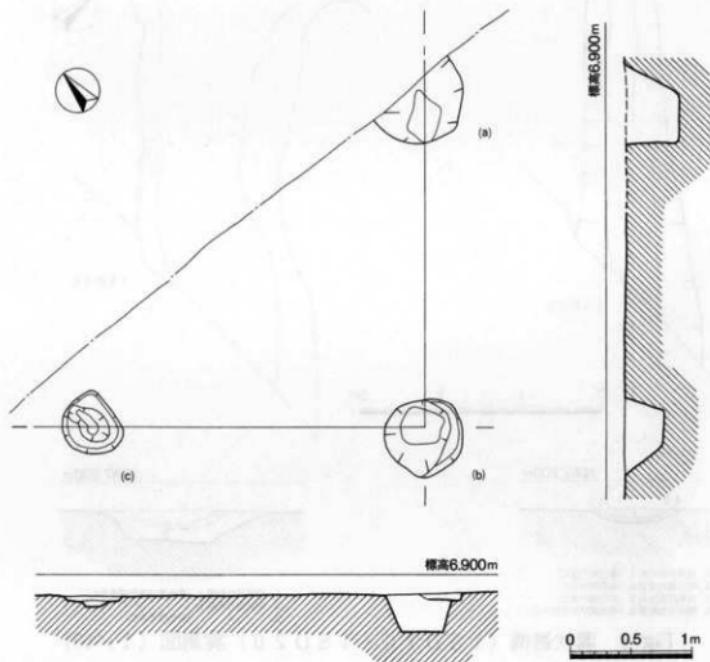


Fig.4 1 S B 2 2 実測図 (1/40)

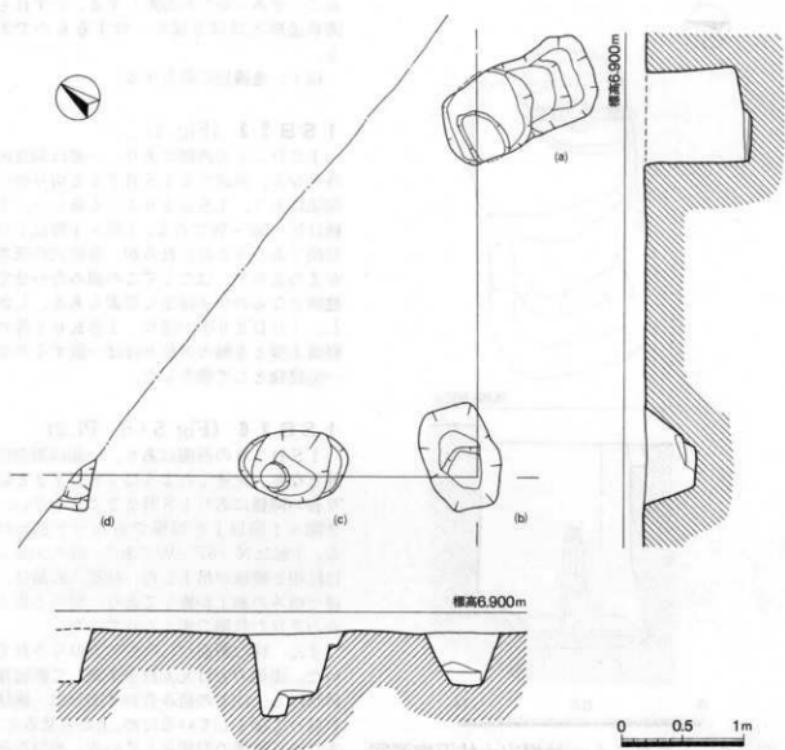


Fig.5 1SB26 実測図 (1/40)

よそ逆台形を呈している。また、主軸はN-41°-Eである。底面は1SD15とは異なり、ほぼ平坦であり一定方向への傾斜は認められない。

土層断面から埋没過程を復原すると、最底1回の掘り直しが認められるようである。(土層図の3層目から2層目の間)ただし、これが人為的なものか、自然の流水によるものかは不明である。

柵列状遺構

今回は、柵列となる可能性のある遺構を、1遺構のみ報告する。1SA09は調査区の西寄りにあり、柵列は南北方向に展開していて、主軸の方位はN-8°-E。柱間は約1.8mで調査区の中では2間を確認できる。柱穴の深さは0.1m~0.2mである。

掘立柱建物

今回、掘立柱建物は2棟を報告するが、建物として認知できるかどうかきわどいものも含んでい

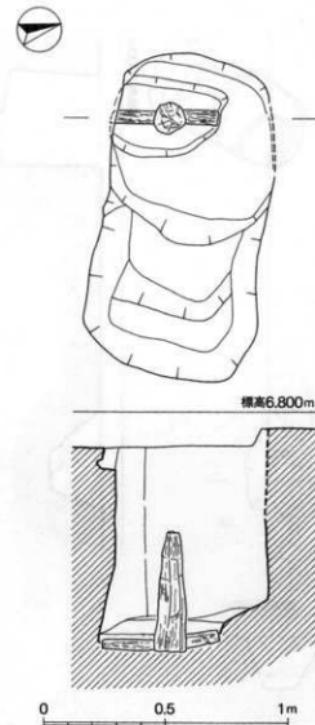


Fig. 6 1SB26(a)柱根出土状況実測図
(1/20)

した痕跡は認められなかった。

廃棄土壌

廃棄土壌は、今回の調査で5基確認した。しかし、うち1基は大半が調査区外であったため図示していない。

以下、図示可能な4基を中心に報告する。

1SK05 (Fig.7, Pl.4・5)

東西方向の調査区のはば中央にあり、平面形はやや崩れた長方形である。主軸はN-31°-Wである。主軸方向に1.7m、短軸方向に0.9mを測り、深さは0.5mである。中央部西寄りが一段低くなっている。南東隅に小さな棚を地山削りだしでつくっている。

埋没過程は大きく3段階に分けられるため、それに従って層序別に掘り下げて、出土遺物も層序ごとに取り上げた。

ることをあらかじめお断りする。いずれも溝状造構とはば方位が一致するものである。

以下、遺構別に報告する。

1SB22 (Fig.4)

1SD20の西側にあり、一部は調査区外となる。後述する1SB26と切り合い関係にあり、1SB26よりも新しい。主軸はN-50°-Wである。1間×1間以上の規模であろうと思われるが、各柱穴の深さがまちまちで、はたしてこの組み合わせで建物となるのが不確定な要素もある。しかし、1SD20等の溝や、1SK05等の廃棄土壌と主軸の方位がほぼ一致するので一応建物として報告した。

1SB26 (Fig.5・6, Pl.2)

1SD20の西側にあり、一部は調査区外となる。先述したように1SB22と切り合い関係にあり1SB22よりも古い。2間×1間以上の規模であろうと思われる。主軸はN-67°-Wである。柱穴(a)からは柱根と礎板が出土した。柱根の底部は、ほど組みの加工が施してあり、礎板と組み合わせられた状態で据えられていた。

また、柱は断面が八角形に面取りされていた。礎板の方は丸太材を半裁して断面蒲鉾状にし、柱との組み合わせ部分は、両側を削って細くしているため、上から見ると、あたかも杵様の形状をしている。平坦な面を下にして柱と組み合わせられており、組み合わせて据えてあるだけで特に両者を固定

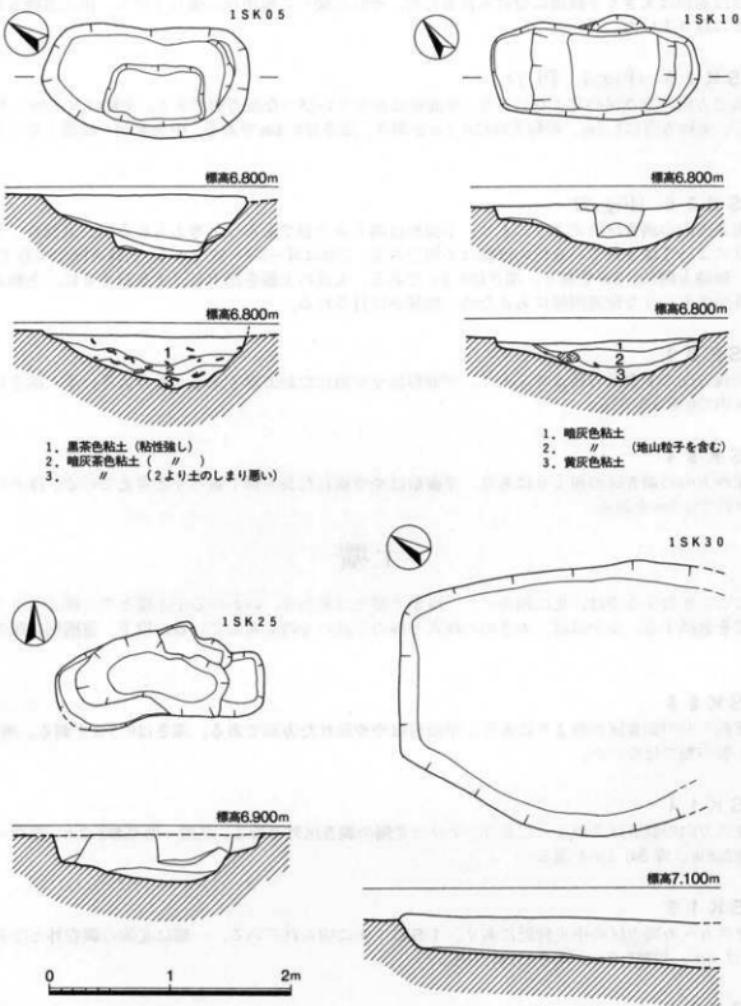


Fig. 7 廃棄土壤実測図 (1 / 40)

1 SK 10 (Fig. 7, Pl. 5・6)

東西方向の調査区の西よりにあり、平面形はやや崩れた長方形である。主軸はN-43°-Wである。主軸方向に1.7m、短軸方向に0.7mを測り、深さは0.4mである。中央部が一段低くなっている。

埋没過程は大きく3段階に分けられるため、それに従って層序別に掘り下げて、出土遺物も層序ごとに取り上げた。

1 SK 2 5 (Fig. 7, Pl. 7)

南北方向の調査区の北によりあり、平面形はかなりいびつな長方形である。主軸はN-89°-Wである。主軸方向に1.7m、短軸方向に0.7mを測り、深さは0.4mである。中央部が一段低くなっている。

1 SK 3 0 (Fig. 7)

南北方向の調査区の北によりあり、平面形は隅丸長方形であろうと考えられるが、東側を1 SD 2 0 によって壊されているため詳細は不明である。主軸はN-30°-Wである。主軸方向に現存で2.5m、短軸方向に2.2mを測り、深さは0.4mである。大量の土器を出土し、1 SD 2 0 に、主軸がほぼ直交するような位置関係にあるため、関係が注目される。

1 SK 0 3

東西方向の調査区の西によりあり、平面形はやや崩れた長方形であろうと考えている。深さは調査区内で0.6mを測る。

1 SK 0 4

東西方向の調査区の西によりあり、平面形はやや崩れた長方形であろうと考えている。深さは調査区内で0.3mを測る。

土壙

ここで報告するのは、先に報告した、廐棄土壙とは異なり、いわゆる小土壙とでも呼ぶべきものまでを包括する。なかには、大きめの柱穴と極めて近いものも含んでいる。以下、遺構別に報告する。

1 SK 0 6

東西方向の調査区の西によりあり、平面形はやや崩れた方形である。深さは0.3mを測る。所謂、小土壙の類ではないか。

1 SK 1 4

東西方向の調査区の西によりあり、半分は北側の調査区外となる。北西-南東軸2.3m、南西-北東軸2.8m、深さ0.1mを測る。

1 SK 1 9

東西方向の調査区の中央付近にあり、1 SD 1 8 に切られている。一部は北側の調査外となる。長軸2.5m、短軸1.7m、深さ0.1mを測る。

1 SK 2 1

東西方向の調査区の中央付近にあり、1 SK 1 9 に切られている。長軸0.7m、短軸0.6m、所謂、小土壙の類ではないか。

1 SK 2 4

東西方向の調査区の中央にあり、半分は南側の調査区外となる。平面形はやや崩れた方形である。

深さは0.2mを測る。所謂、小土壌の類ではないか。

1SK34

南北方向の調査区の北よりにあり、半分は西側の調査区外となる。平面形はやや崩れた円形である。深さは0.8mを測る。

1SK36

南北方向の調査区の中央やや北よりにあり、1SK25に切られている。平面形はやや崩れた方形で、深さは0.3mを測る。所謂、小土壌の類ではないか。

1SK39

南北方向の調査区の中央やや南よりにあり、平面形はやや崩れた方形である。深さは0.5mを測る。所謂、小土壌の類ではないか。

1SK43

南北方向の調査区の中央にあり、半分は西側の調査区外となる。大きな溜まり状の遺構である。調査区内で南北5.5m、東西軸1.8m、深さ0.1mを測る。

1SK44

南北方向の調査区の中央やや北よりにあり、深さは0.2mを測る。所謂、小土壌の類ではないか。

1SK46

南北方向の調査区の南よりにあり、半分は西側の調査区外となる。平面形はやや崩れた長方形である。調査区内で、長軸1.0m、短軸0.5m、深さ0.7mを測る。

1SK47

東西方向の調査区の東よりにあり、1SK30に切られている。所謂、小土壌の類ではないかと思われる。

1SK51

東西方向の調査区の中央やや西よりにあり、半分は北側の調査区外となる。所謂、小土壌の類ではないかと思われ、調査区内で、長軸0.6m、短軸0.4m、深さ0.3mを測る。

1SK53

東西方向の調査区の中央にあり、長軸0.6m、短軸0.4m、深さ0.6mを測る。所謂、小土壌の類ではないかと思われる。

1SK58

南北方向の調査区の北よりにあり、平面形はやや崩れた長方形である。長軸1.1m、短軸0.6m、深さ0.5mを測る。

1SK64

南北方向の調査区の北よりにあり、平面形は円形である。直径は0.6m、深さは0.5mを測る。

1 S K 6 9

南北方向の調査区の南よりにあり、長軸0.8m、短軸0.4m、深さ0.2mを測る。平面形は、南北方向がわずかに長い長方形である。

1 S K 7 0

南北方向の調査区の南よりにあり、平面形は、南北方向がわずかに長い長方形である。長軸1.4m、短軸0.6m、深さ0.2mを測る。廃棄土壌の可能性がある。

1 S K 7 1

南北方向の調査区の南よりにあり、1 S D 7 5 を切っている。調査区内で長軸1.2m、深さ0.4mを測る。

1 S K 7 4

東西方向の調査区の中央やや西よりにあり、平面形は、東西方向が長い長方形である。廃棄土壌の可能性がある。

柱穴

本来、建物や構造として認知できない柱穴は単独で報告しないが、出土遺物を報告する関係でここに構造の概略を報告する。

1 S P 4 2

南北方向の調査区の中央やや西よりにあり、1 S K 4 3 を切っている。深さは0.2mを測る。調査区内には、関連する他の柱穴は見当たらない。

土器溜まり

調査区の西端で、大きな落ち状の遺構を確認した。多量の土器を包含していたので、土器溜まりとして報告したい。

1 S D 3 5

南北方向の調査区の中央やや西端にあり、深さは調査区内で0.5mを測る。調査区内で確認できた規模は南北5.4m、東西10.2mである。

(2)出土遺物

出土遺物には、弥生土器・土師器・須恵器などがある。以下、出土遺構別に紹介したい。なお、遺物の個々についての詳細については、遺物観察表を参照されたい。

1 S D 0 1 出土遺物 (Fig.8)

弥生土器が出土した。図示できるのは、甕1点のみである。口縁部は逆L字状を呈する。所謂「須久式」系統の甕であろう。口縁部の上面は、ほぼ平坦で水平である。屈曲部の内側は、わずかにつまみ出している。

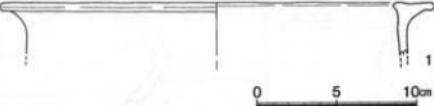


Fig. 8 1 S D 0 1 出土遺物実測図 (1/3)

1 S D 1 5 出土遺物 (Fig.9)

弥生土器が出土した。器種は甕・壺・鉢・器台・高環・面子がある。

2~20は甕である。2は口縁部を深い「く」の字状に折曲げるタイプで、口縁端部は水平に近くなる。3~5は口縁部が逆L字状を呈する。1 S D 1 5 出土の1の資料と同タイプにあたる。ただし5は、口縁端部がやや反り上がるタイプである。6~14は口縁部を「く」の字状に折曲げるタイプである。そのうち6・7は器壁が厚く、口縁端部に面をもつが、8~14は口縁部を丸くおさめる。また、13は口縁端部を肥厚させるもので、14には屈曲の内側に稜線がみられる。15・16は体部の小片で、ともに外面に貼付け突帯を有する。17~19は底部の小片である。20は口縁部の小片で緩やかに屈曲する。

22~24は鉢である。24は「く」の字状の口縁部をもつ。

25は壺の底部である。

26・27は器台の口縁部である。いずれも口縁端部に面を持つタイプで、26は端部を内側につまみだし、27はつまむことによって端部を薄く仕上げている。

28~30は高環である。28は口縁部の小片で、端部には刻み目を施す。29・30はともに脚底部の小片である。

31~33は面子ではないかと考えている。

1 S D 2 0 出土遺物 (Fig.10~12)

弥生土器・土師器・石製品が出土した。器種は、弥生土器が甕・鉢・器台・高環・ミニチュア・面子などがあり、土師器には甕・浅鉢などがある。

34~50は弥生土器の甕である。34~37は口縁部が逆L字状を呈するもので、所謂「須久式」系統の土器にあたるが、36は口縁端部がやや反り上がるタイプである。37は、「く」の字状に折曲げるタイプに、やや近いタイプである。38~43は口縁部を「く」の字状に折曲げるタイプである。ただし、38はかなり器壁が厚い。また、41は口縁部が極端に薄く、42は口縁部が水平近くまで深く折り曲げられている。44~49は底部である。44は所謂上げ底状の底部をもつ資料で、比較的古相を呈しているのではないかと考えている。また、49は凸レンズ状の座りの悪い底部となるものである。

51~59は、土師器の甕であると考えているが、一部には弥生終末期の土器を含んでいる可能性がある。51は大型の甕で、口縁部の中程の内外面に小さな段を有する。これは二重口縁を模したものであろう。56はほぼ完形で、口縁端部を僅かにつまみ上げ、体部が倒卵形を呈する、典型的な布留系の甕である。内面も屈曲部のやや下から以下は、箇ヶゼリを施している。60は大型の甕であるが、

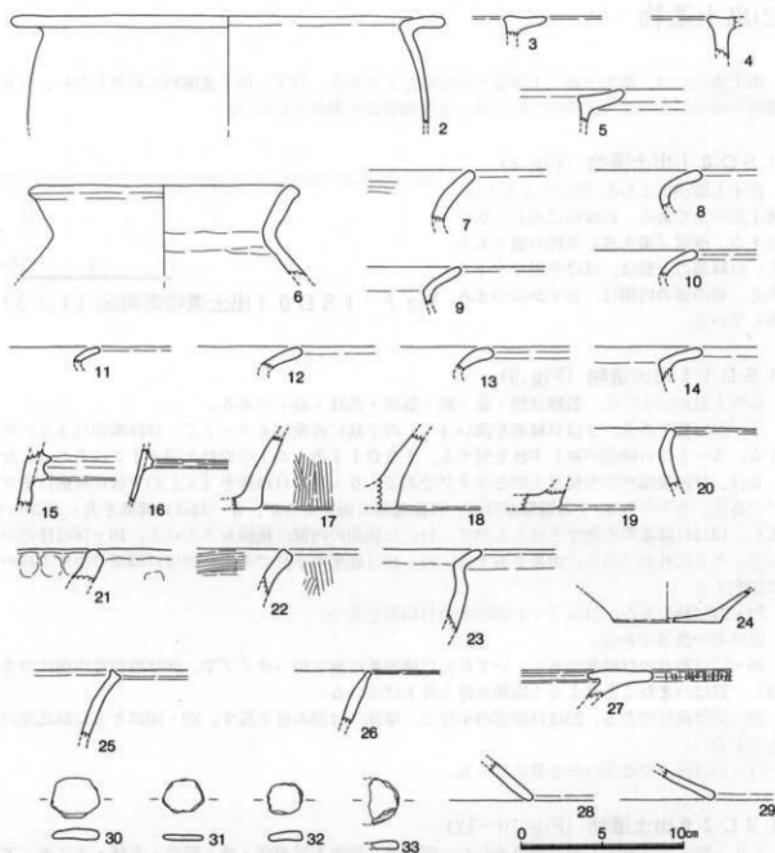


Fig.9 1 SD 15 出土遺物実測図 (1/3)

51と異なり体部内面には56と同じく範ヶズリを施している。

61~64は土師器の浅鉢である。61・62は口縁部は大きく外方に開くが、62は途中に段を持ち、あたかも二重口縁のようである。

65・66は土師器の鉢である。66は大きな口縁部が特徴的である。

67・68は弥生土器の鉢である。ともに体部が内湾し、平底である。外面には刷毛目を施す。68は内面に工具をあてた痕跡が認められる。

69~72は弥生土器の器台である。73~76は高環であるが、74は弥生土器、その他は土師器である。73は大きく開く体部を持ち、比較的大型のものである。また、77は台付鉢であろうと考えている。

78・79はミニチュア土器でともに手づくね成形である。78は口縁部が波打っており、成形が荒い印象を受ける。

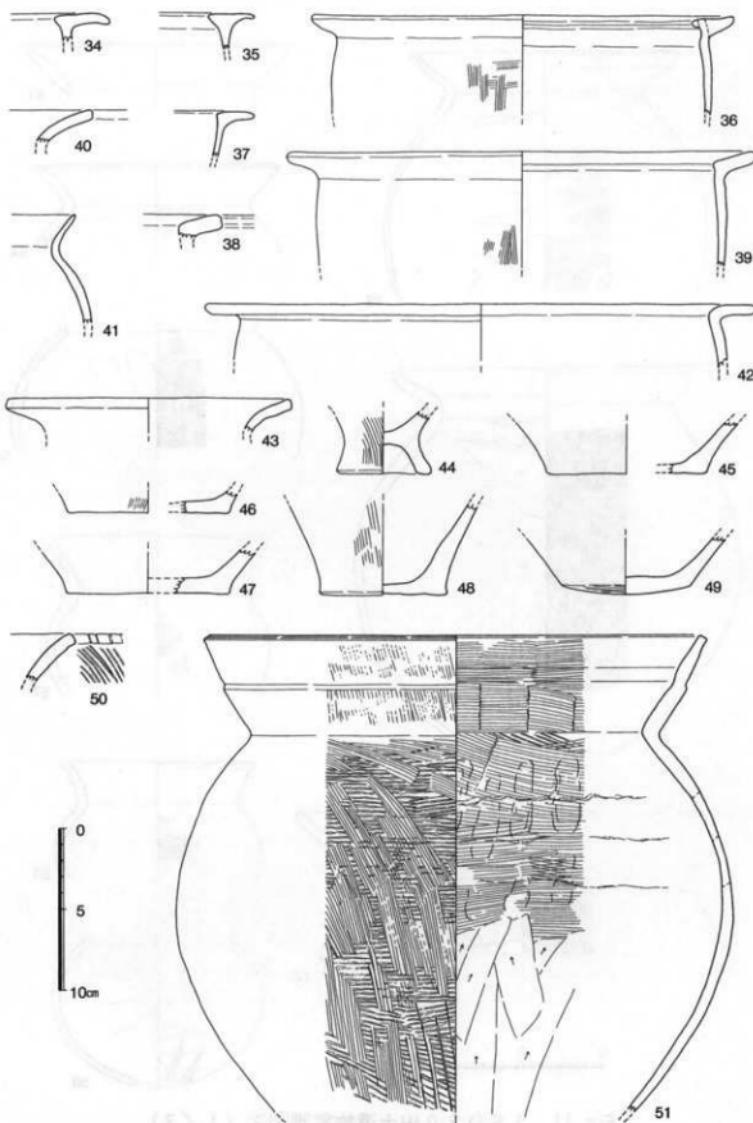


Fig. 10 1 S D 2 0 出土遺物実測図① (1 / 3)

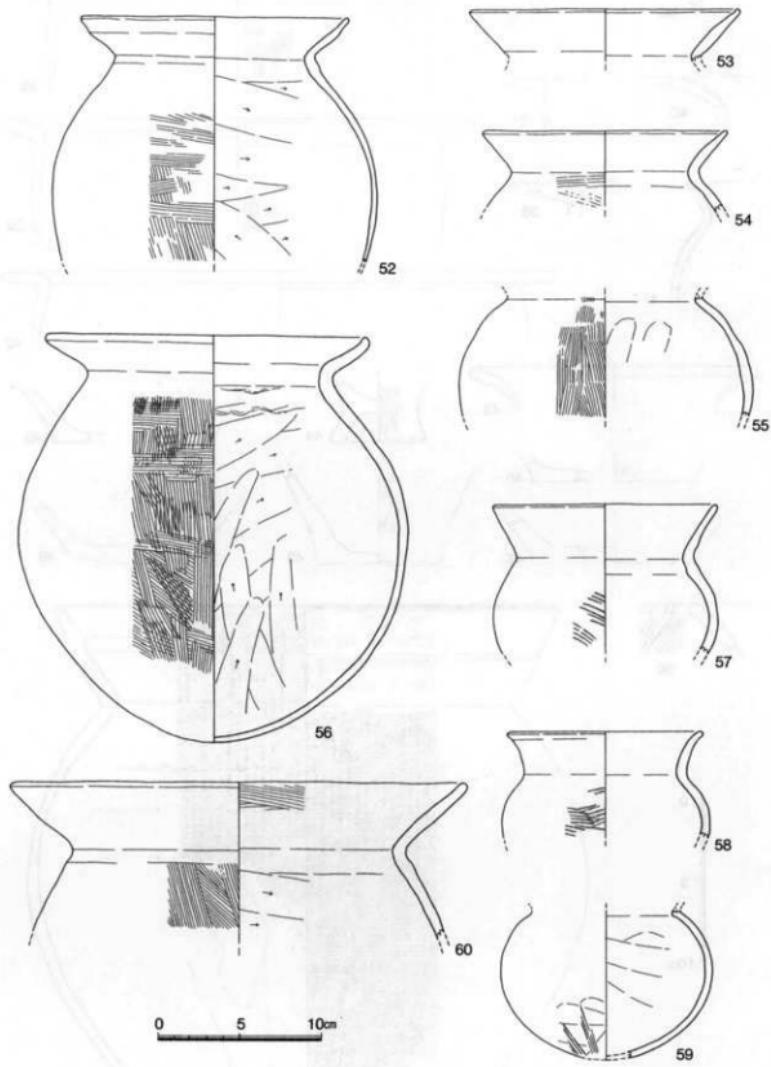


Fig. 11 1 S D 2 0 出土遺物実測図② (1/3)

(C) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60)

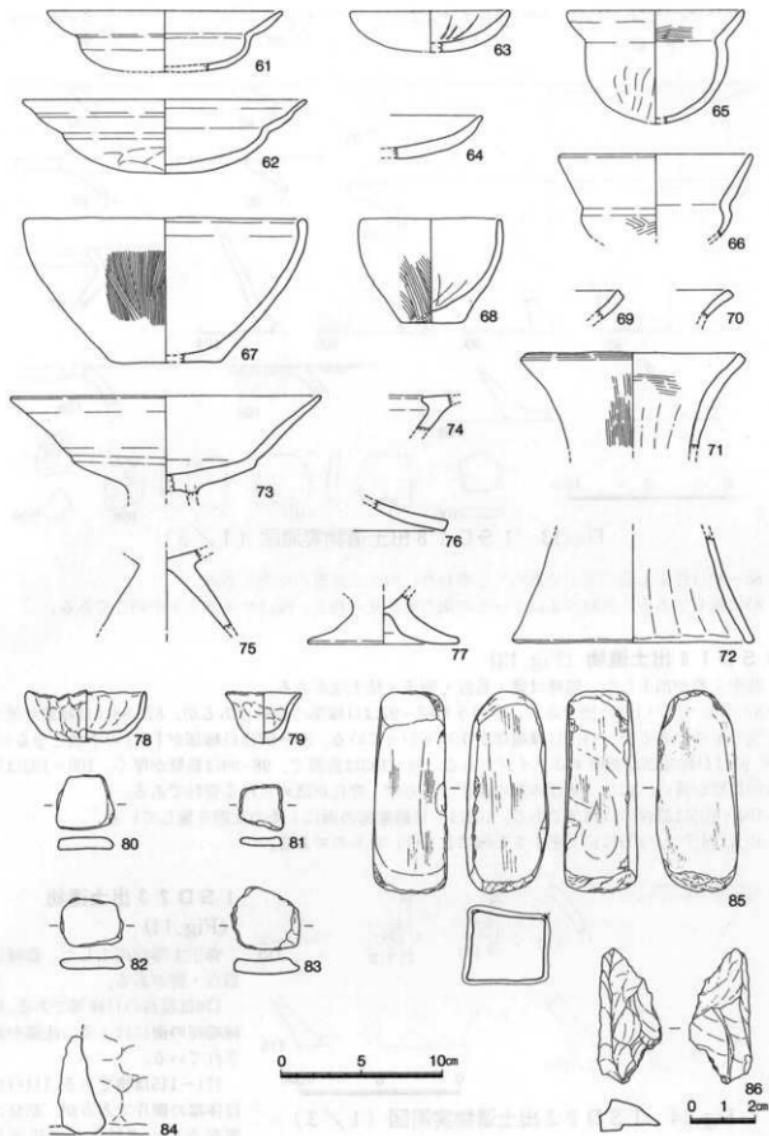


Fig. 12 1SD20出土遺物実測図③ (1/3・2/3)

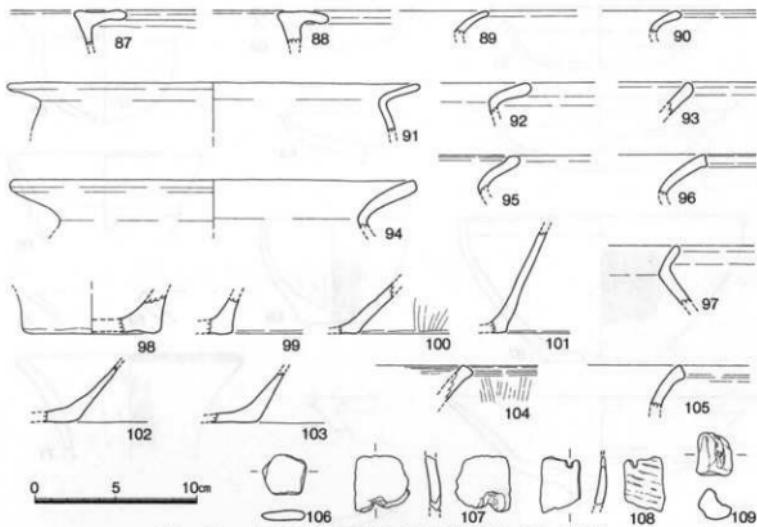


Fig. 13 1 S D 1 8 出土遺物実測図 (1 / 3)

80~83は弥生土器の面子であろうと思われ、84は土師器の支脚である。

85は砥石である。長軸の4面すべてに使用痕が見られる。86はサヌカイトの剝片である。

1 S D 1 8 出土遺物 (Fig. 13)

弥生土器が出土した。器種は甕・器台・面子・粘土塊がある。

87~103・107・108は甕である。そのうち87~97は口縁部の資料であるが、87・88は口縁部が逆L字状のものであるが、89は口縁端部が垂れ下がっている。89~97は口縁部が「く」の字状となるが、94・95は口縁端部が肥厚するタイプである。98~103は底部で、98・99は器壁が厚く、100~103は比較的器壁が薄い。107・108は体部の細片であるが、穿孔が認められる資料である。

104・105は器台の口縁部である。104は、口縁端部の面に1条の沈線を施している。

106は面子で、109は粘土を小さな塊にして焼いたものである。

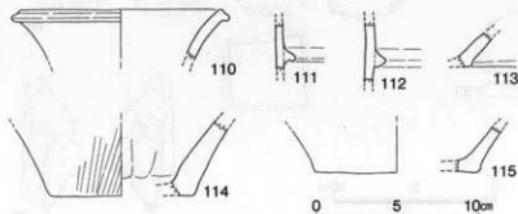


Fig. 14 1 S D 2 3 出土遺物実測図 (1 / 3)

1 S D 2 3 出土遺物

(Fig. 14)

弥生土器が出土した。器種は器台・甕がある。

110は器台の口縁部である。口縁端部の面には1条の沈線が施されている。

111~115は甕である。111~112は体部の細片であるが、貼付け突帯をもつ資料として提示し

た。

1 S D 4 1 出土遺物 (Fig. 15)

弥生土器が出土した。器種は、甕・器台・鉢・面子がある。

116~120は甕である。すべて口縁部の資料で、116・117は口縁部が逆L字状で118~120は「く」の字状である。120は折曲げ部の内側に緩い稜線が認められる程度に屈曲させている。

121は器台の底部である。底端部に明瞭な面を持つが、その面は接地することはない。

122・123は鉢である。123は口縁端部直下の内面に沈線状の凹みが1条認められる。

124・125は面子ではないかと考えられる。

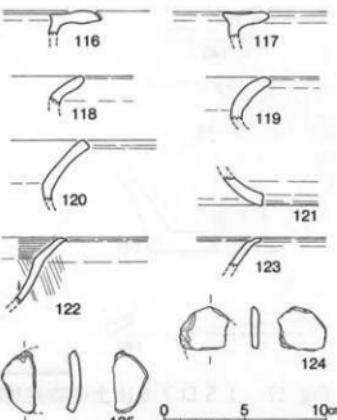


Fig. 15 1 S D 4 1 出土遺物実測図
(1/3)

1 S D 7 5 出土遺物 (Fig. 16)

弥生土器が出土した。器種は、甕・器台がある。

126~139は甕である。136~139は口縁部の資料である。126~129は口縁部が逆L字状を呈するものであるが、128・129は口縁端部が垂れ下がるタイプである。130は所謂「須久式」土器の逆L字状口縁とは異なり、小さな逆L字状を呈する口縁部をもつ。また口縁部分の成形も、一旦逆L字状に折曲げた後、再び内側に折返して全体を肥厚させている。131~135は「く」の字状の口縁部をもつタイプである。136・137の口縁部は逆L字状を呈するものの、端部を大きく上方に反り上げて、断面形状では一見「く」の字状にも見える。折曲げ部の内側を観察すると、逆L字状口縁をもつタイプと同じ手法でつまみ出しを行っており、成形技法的には、所謂「須久式」土器に近いものがある。また、

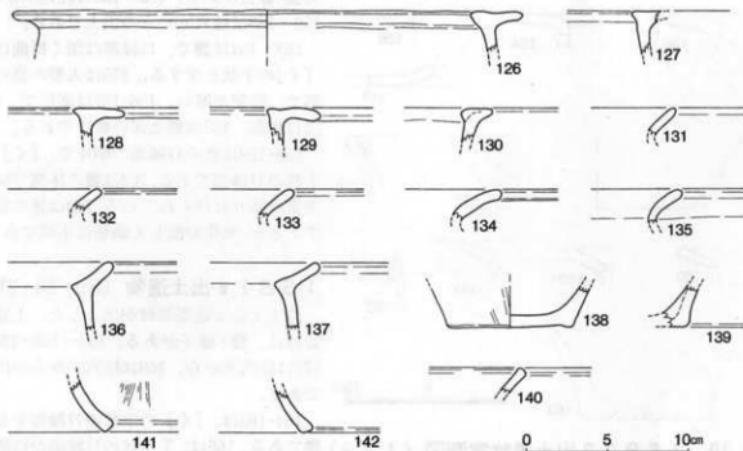


Fig. 16 1 S D 7 5 出土遺物実測図 (1/3)

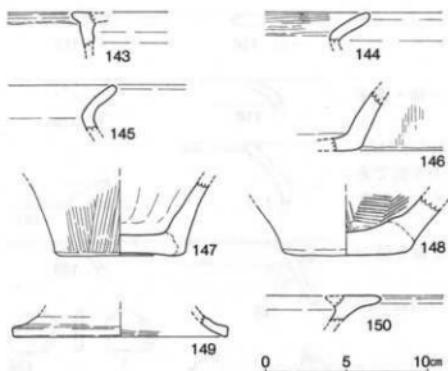


Fig. 17 1 S D 7 6 出土遺物実測図 (1/3)

138・139は底部の細片である。

140～142は器台である。140は口縁部で他の2点は底部の細片である。ともに底端部に面を持つが、141の底端部の面がまったく接地せずに外方を向いているのに対し、142は接地こそしないものの、面はかなり水平に近くなっている。

1 S D 7 6 出土遺物

(Fig. 17)

弥生土器が出土した。器種は、甕・高環・器台がある。

143～148は甕である。143～145は口縁部の細片で、146～148は底部である。

149は高環の口縁部で、150は器台の底部資料である。

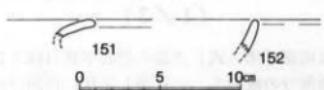


Fig. 18 1 S A 0 9 出土遺物実測図 (1/3)

1 S A 0 9 出土遺物 (Fig. 18)

弥生土器が出土した。器種は、甕・鉢がある。

151は柱穴(c)出土で、甕の口縁部である。細片であるが、「く」の字状の口縁が特徴である。152は柱穴(a)の出土で、鉢の口縁部であろう。

1 S B 2 2 出土遺物 (Fig. 19)

弥生土器が出土した。器種は、甕・高環・大甕・器台がある。153～158は柱穴(b)から、159～163は柱穴(c)からの出土である。

153・154は甕で、口縁部は深く折曲げた「く」の字状を呈する。155は大型の甕の底部で、器壁が厚い。156・157は高環で、156は口縁部、157は脚底部の細片である。

158・159は甕の口縁部の細片で、「く」の字状の口縁部である。162は甕の体部でM字突帯が張り付けられている。163は甕の底部であるが、風化が激しく調整は不明である。

1 S B 2 6 出土遺物 (Fig. 20・21)

弥生土器と建築部材が出土した。土器の器種は、甕・面子がある。164～168・170・171は柱穴(a)から、169は柱穴(c)からの出土である。

164・165は、「く」の字状の口縁部をもつ甕である。166は、T字状の口縁部が特徴となる甕の細片である。167は甕の口縁部の資

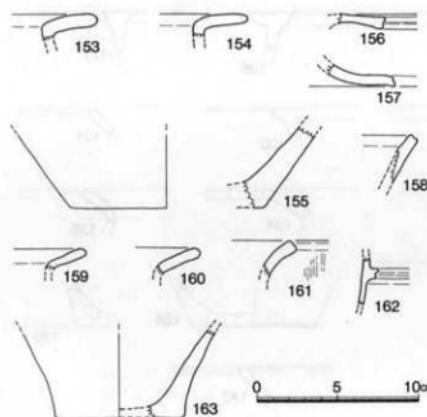


Fig. 19 1 S B 2 2 出土遺物実測図 (1/3)

料である。

168は、甕の体部を再加工した、面子ではないかと考えている。

169は、逆L字状の口縁部である。

170は柱根、171はそれに組み合わされた礎板である。

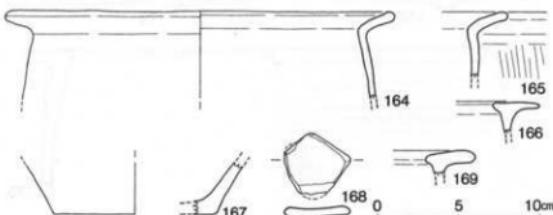


Fig. 20 1 S B 2 6 出土遺物実測図① (1 / 3)

1 SK 0 5 出土遺物

(Fig. 22~26)

出土したのはすべて弥生土器である。器種は、甕・高環・器台・粘土塊がある。造構埋土の掘削にあたっては、まず半裁して土層断面で埋没状況の確認をしながら層序にしたがって掘りすすめた。出土遺物もその順に報告したい。

・半裁時出土遺物

(Fig. 22)

半裁時出土の遺物はすべて弥生土器で、甕・器台・高環・粘土塊がある。

172~185は甕である。

172~175は口縁部が逆L字状を呈するもので、175は口縁端部が垂れ下がるタイプ

である。176~180は口縁部が「く」の字状を呈するもので、179と180は口縁端部に面を有する。さらに、180は口縁端部をつまみ上げており、全面に丹塗りを施している。また、胎土も精良である。

186は器台の底部である。

187~190は高環の口縁部の資料で187・188は全面に丹塗りを施している。また、188・189は胎土も精良である。

191は粘土塊で、精良な胎土を用いていて、焼成も良好である。

・I層出土遺物 (Fig. 23)

I層出土の遺物もすべて弥生土器で、甕・高環・器台・粘土塊がある。

192~199は甕である。200も甕の体部の資料であろうと考えている。

192~196は口縁部の資料で、192が逆L字状の口縁部を有する以外は、すべて「く」の字状の口縁部を有する。197・198は底部の資料で、199は体部の細片である。

201はT字状の口縁部をもつ高環で、全面に丹塗りを施している。202・203は器台の口縁部の細片である。

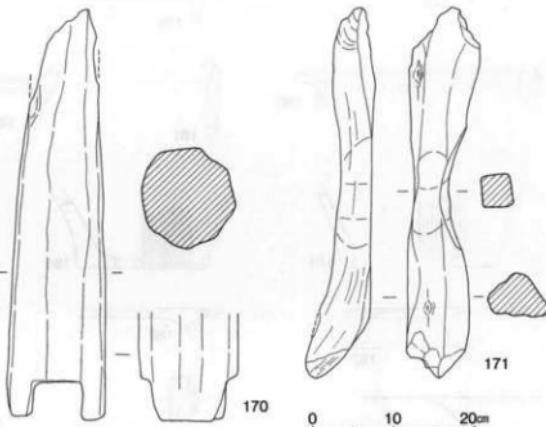


Fig. 21 1 S B 2 6 出土遺物実測図② (1 / 6)

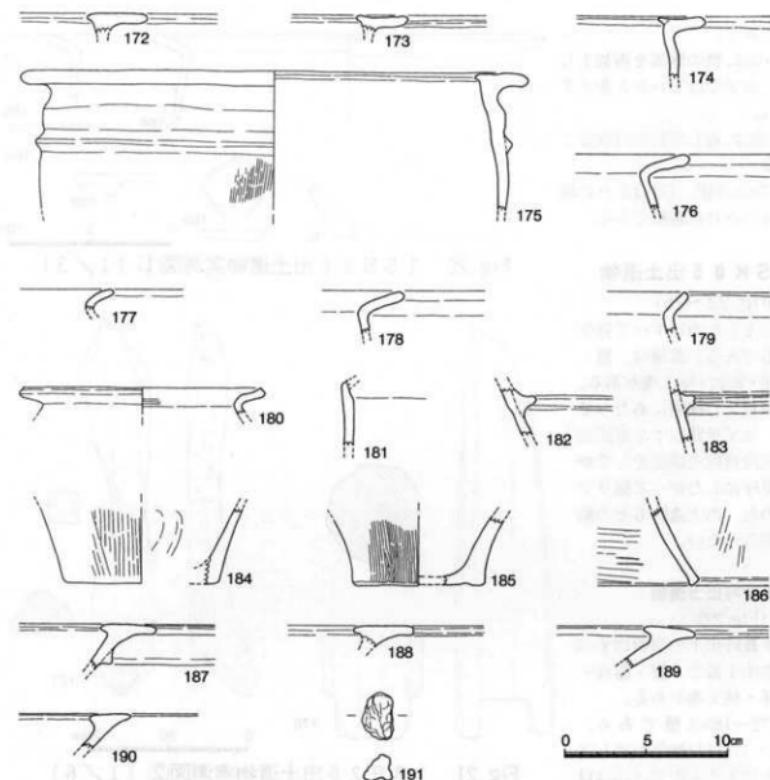


Fig. 22 1 SK 05 半裁時出土遺物実測図 (1 / 3)

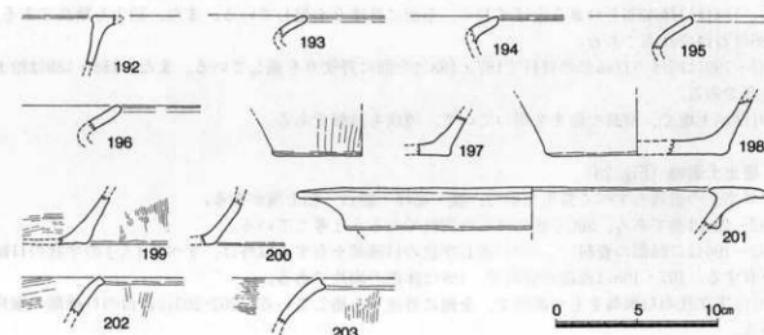


Fig. 23 1 SK 05 I層出土遺物実測図 (1 / 3)

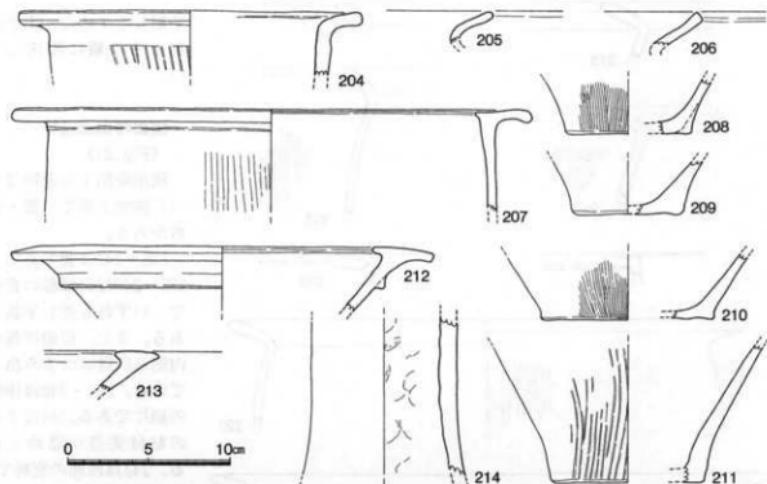


Fig. 24 1 SK 05 II 層出土遺物実測図 (1/3)

・II層出土遺物 (Fig. 24)

II層出土の遺物もすべて弥生土器で、甕・高環・特殊器台がある。

204~211は甕である。204~206は「く」の字状の口縁部をもつタイプであるが、204は器壁が厚く、206は口縁端部が僅かに内湾する。207は逆L字状の口縁部を持ち、口縁端部が垂れ下がる。208~211は底部である。

212・213は高環の口縁部である。ともにT字状の断面形状を呈し、丹塗りが施されている。214は特殊器台で、精良な胎土を用い、外面には丹が塗られている。

・III層出土遺物 (Fig. 25・26)

III層出土の遺物もすべて弥生土器で、甕・高環・粘土塊がある。

215~230は甕である。215~218は、何れも口縁部が「く」の字状を呈する破片資料である。219は逆L字状の口縁部をもち、口縁端部が少し反上がる。220は深い「く」の字状の口縁部の細片で、全面に丹が塗布されている。221~223は口径が復原できる資料である。221・222は口縁部が「く」の字状を呈するが、222は、折曲げ部の内側に明瞭な稜線ができるほどに、きつく折曲げている。223は、口縁部から体部中位まで復原できる。逆L字状の口縁部をもち、口縁端部は垂れ下がるタイプである。224~230は底部で、器壁の薄い資料はない。

231は高環で、全面に丹塗りを施している。また、環部外面には突帯が1条認められる。232は器台の口縁部細片である。

233は甕の底部であるが、底部が著しい上げ底状になっており、台付甕とでもいべき器形である。

234は粘土塊で、精良な胎土を使用し、焼成も良好である。

1 SK 10 出土遺物 (Fig. 27~29)

出土したのはすべて弥生土器である。器種は、甕・高環・器台・鉢がある。造構埋土の掘削にあたっては、基本的には1 SK 05と同様に、土層断面で埋没状況の確認をしてから層序にしたがつ

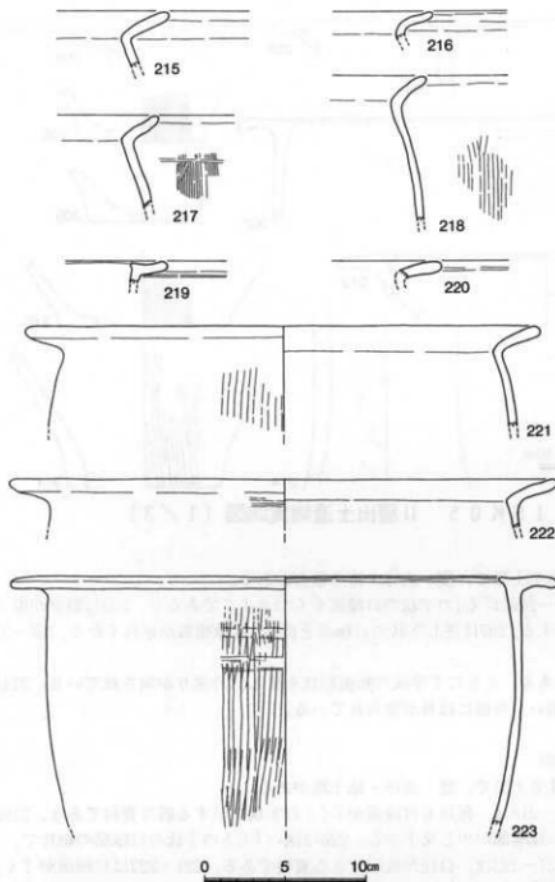


Fig. 25 1SK05 III層出土遺物実測図① (1/3)

る。焼成後に外面から穿孔を施している。

249は、高環の口縁部である。断面形状はT字状を呈し、一部に丹塗りの痕跡が認められる。

250は器台の底部の細片である。底端部に面があるが、接地しない。

・ III層出土遺物 (Fig. 29)

III層出土の遺物もすべて弥生土器で、甕・高環がある。

251～254は甕である。いずれも口縁部の資料である。251は、断面形状が逆L字状となるタイプである。252は、断面形状がT字状を呈する。253・254は「く」の字状の口縁部をもつタイプで、253は端部に面をもち、口縁端部を上方につまみ上げている。

255は高環である。口縁部の約1/8が残存していた。T字状の口縁で、一部に丹塗りが残っている。

て掘りすすめた。出土遺物もその順に報告したい。

・ 検出時出土遺物

(Fig. 27)

検出時出土の遺物はすべて弥生土器で、甕・器台がある。

235～243は甕である。235～240は口縁部の資料で、いずれも逆L字状である。また、折曲げ部の内側を内側につまみ出している。241・242は体部の細片である。241は2条の貼付突帯が認められる。243は底部の資料で、外底面に黒斑のようなものが認められる。

244は器台の底部の細片である。底端部に面があるが、接地しない。

・ I層出土遺物

(Fig. 28)

I層出土の遺物もすべて弥生土器で、甕・鉢・高環・器台がある。

245・247・248は甕である。245・247は口縁部の細片で、いずれも逆L字状である。246は口縁部の上面を強く押さえて凹ませている。248は底部であ

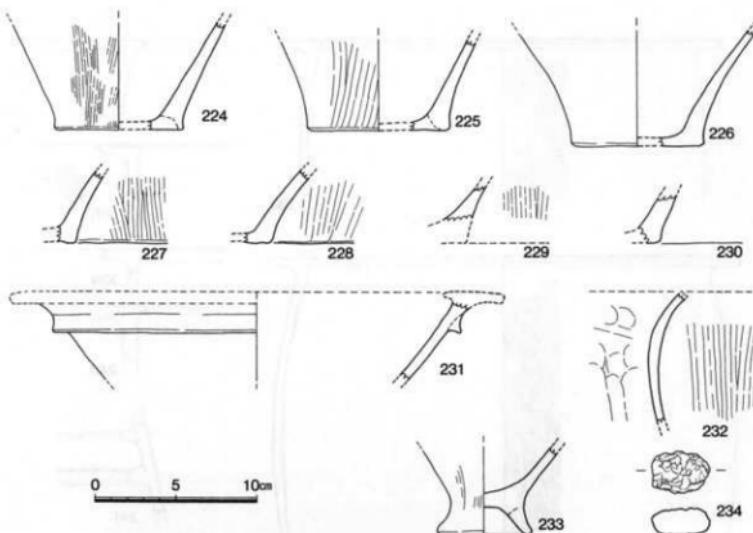


Fig. 26 1 SK 05 III層出土遺物実測図② (1/3)

る。

1 SK 2 5 出土遺物 (Fig. 30・31)

弥生土器が出土した。器種は、甕・鉢・面子・器台がある。

256～272は甕である。258は、口縁部の断面形状がT字状を呈するタイプの口縁部細片である。257・259～266は口縁部の資料で、何れも口縁部の断面形状が逆L字状を呈する、所謂「須久式」土器の系譜をひくものである。その中で、264は口縁端部に面をつくり、刻み目を施している。また、体部にM字突帯をもち、少なくとも外面には丹を塗っている。267は体部の細片で、三角突帯を1条貼り付けている。268～271は底部の資料である。268と271は外底面が未調整で、270は外面に黒斑が認められる。272は口縁部が深い「く」の字状に折曲げる小型の甕で、全面に丹塗りを施している。胎土は、ほぼ精良なものを用いている。

273は蓋である。ほぼ精良な胎土を使用し、丹塗りを施している。大きく外方に開いていて、端部の内側に凹線状の押さえが認められる。

274は鉢で、口縁部の資料である。口縁部は僅かに内湾している。

275～279は、面子ではないかと考えている。何れの資料も、2次成形ではないかと思われる、片面からの打欠きらしきものが認められる。279は土器の外面側から、それ以外は土器の内面側から2次成形を行ったのではないかろうか。

280～285は器台である。280～283は口縁部の資料で、283を除いて、口径の復原が可能である。すべて口縁端部に面をもつタイプで、280・281は口縁下端部を外方につまみ出している。284・285は底部である。ともに底端部に面をもつが、面は接地しない。

1 SK 3 0 出土遺物 (Fig. 32～40)

弥生土器と土師器が出土した。器種は、弥生土器の甕・壺・鉢・浅鉢・高环・器台・面子・支脚・

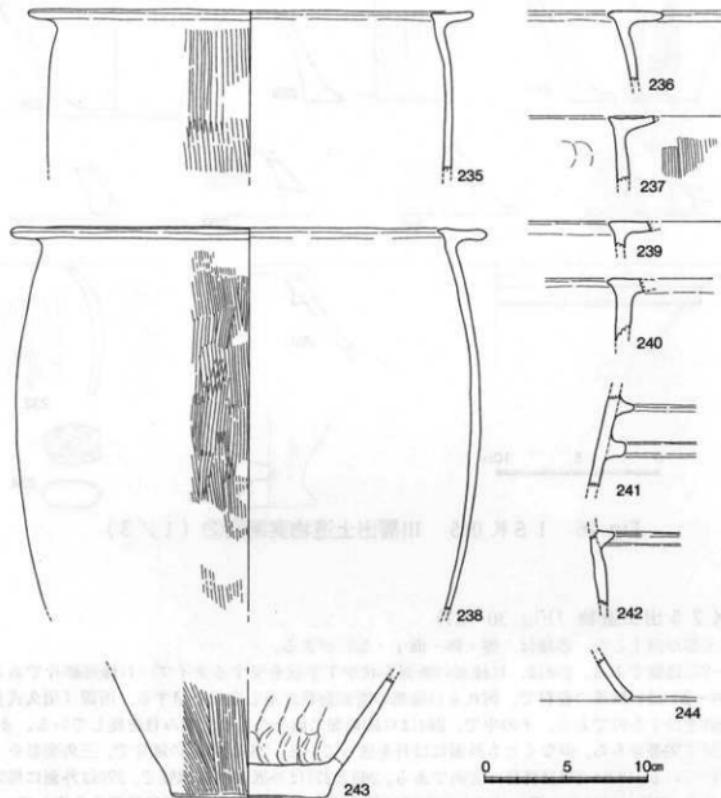


Fig. 27 1SK10 検出時出土遺物実測図 (1/3)

面子、土師器の甕・台付甕がある。

なお、1SK30は1SD20に切られているために、当然のことながら1SD20の掘削を完了した後に1SK30を掘削することになる。ただし、今回の調査では、1SD20と重複していない部分の掘削を先に行い、1SD20の記録が完了した後に1SD20の下になっていた部分の掘削を行った。しかも、1SD20の完掘の確認が非常に判りづらかったため、一部土器が混入した可能性も否定できない。

したがって、今回の報告にあたっては、1SD20の直下部分と、先行して掘削した部分の出土遺物を分けて報告している。ただし、明らかに混入と認められる遺物は見当たらない。

・先行掘削時出土遺物 (Fig. 32~40)

326~424が先行掘削時に出土した遺物である。器種は、弥生土器の甕・壺・鉢・浅鉢・高環・器台・面子・支脚・面子、土師器の甕・台付甕がある。

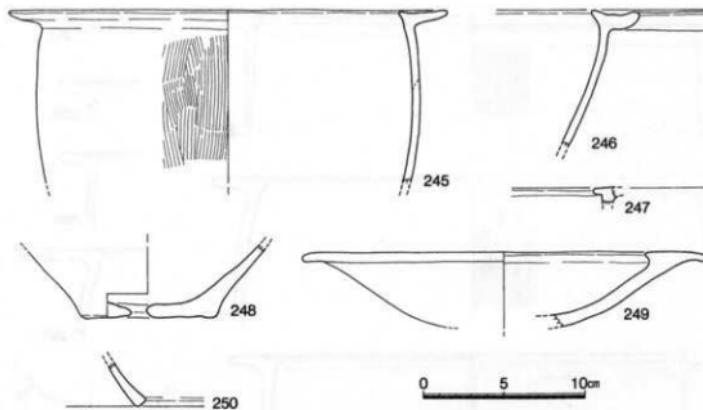


Fig. 28 1 SK 10 I 層出土遺物実測図 (1/3)

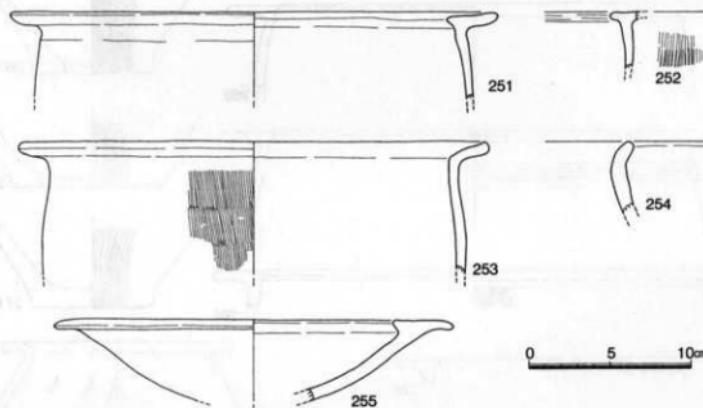


Fig. 29 1 SK 10 III 層出土遺物実測図 (1/3)

286~365は弥生土器の甕で、366~369は土師器の甕である。

287は、口縁部の断面形状がT字状のもので、体部の内外面ともに刷毛目を施している。

286・288~304・307は口縁部の断面形状が逆L字状のもので、所謂「須久式」系統の土器である。

292・303・307を除いては、折曲げ部の内側をつまみ出して、287のようなT字状の意匠を僅かながらに残している。304は、口縁部を逆に内側へ水平に折曲げてから、全体を滑らかに仕上げたものであるが、最終的な断面形状は逆L字状にたいへん近いものとなっているため、ここで報告することとした。

286・288~295は、口縁部がほぼ水平に保たれているグループである。程度の差こそあれ、すべてが胎土に砂粒を含んである。復原できたものの口径は、すべて30cm程度で、極めて規格性が高い。

器面調整は、口縁部が横ナデ、体外面は刷毛目、体内面は刷毛目またはナデである。291・292

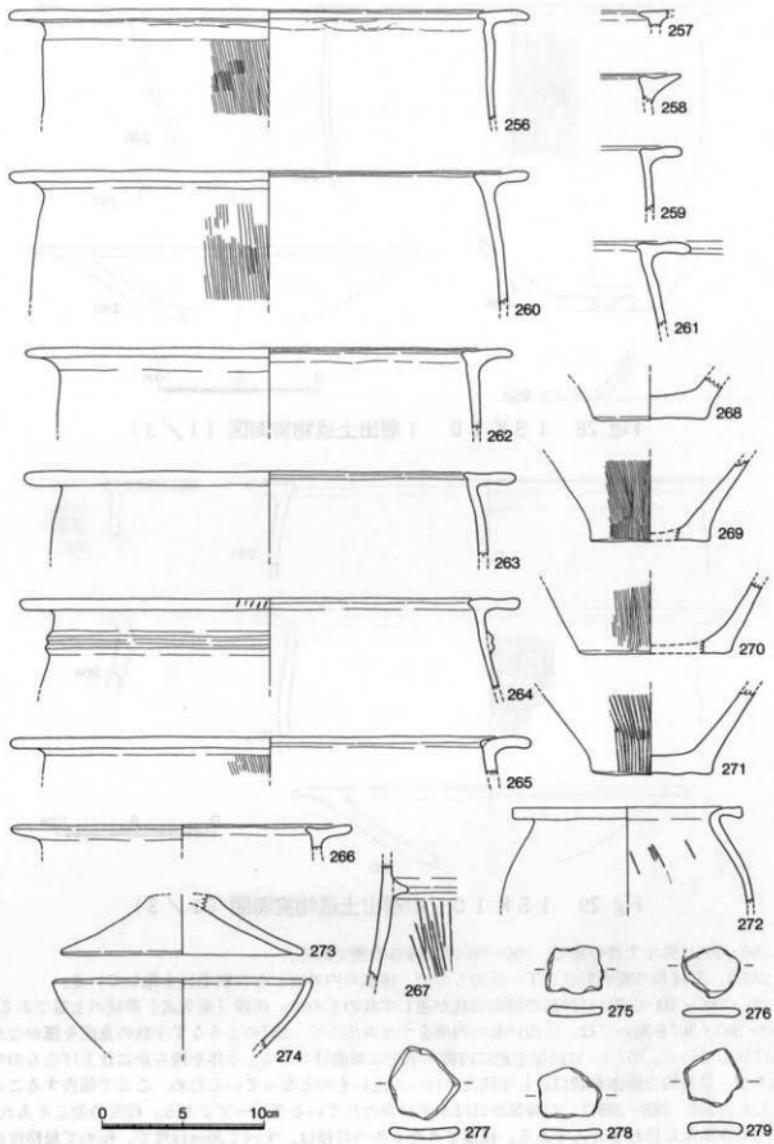


Fig. 30 1 SK 25 出土遺物実測図① (1 / 3)

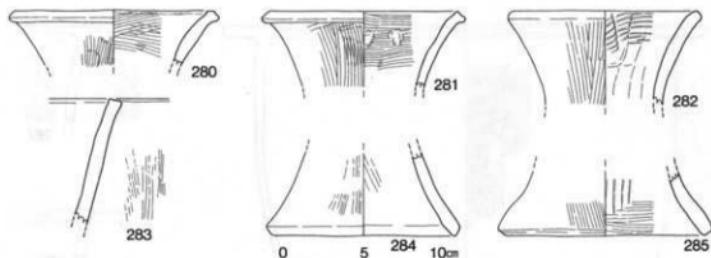


Fig. 31 1SK25出土遺物実測図② (1/3)

は断面形状は一般的な逆L字状であるが、口縁部がやや肥厚している。293は口縁部が肥厚し、口縁端部を上方につまみ上げるように跳ね上げている。294は口縁部の屈曲が鋭角気味とはならず、ほぼ直角となるタイプである。この資料も、折曲げ部の内側はわずかにつまみ出している。295は口縁端部が肥厚するもので、端部がやや下がり気味となっている。

296～298・300・302は逆L字状の口縁部ではあるが、口縁端部が垂れ下がるものである。296は風化が激しく、断面形がやや不明瞭であるが、口縁端部が下がる状況が窺われる。297は口縁端部が欠損しているが、口縁端部は肥厚し垂れ下がっている。また、体部にM字突帯が1条貼り付けられている。298は、299と同じタイプと考えて大過ないと思われる。300～302は端部が大きく垂れ下がるもので、なかでも301は極端に端部が下がっている。302は、ほぼ完形に復原される個体で、同タイプの土器の全体的なプロポーションを知る上で良好な資料である。体部の最大径は底から $\frac{3}{4}$ の部分にあるが、口縁端部を上回ることはない。口縁端部は僅かに肥厚して、やや垂れ下がっている。口縁部は横ナデ、体部外面は刷毛目外底面はナデ、体内面と内底面はナデを施している。体外面の刷毛目は基本的に縦方向に施し、体内面のナデも基本的に縦方向である。ただし、他の資料と比較して、口縁の折曲げ部内側のつまみ出しがやや強めで、T字状断面のタイプのイメージを僅かに残している。

303は、口縁の折曲げ角度がほぼ直角であり、294に近い類型である。しかし、294とは異なり、口縁部の長さが短く、「城ノ越式」土器に近い断面形状を呈する。折曲げ部の内側は、一般的な逆L字状の口縁を持つタイプと同じく、内方向につまみ出している。

304は、外見状は逆L字状の口縁を持つタイプであるが、その成形技法は大きく異なる。この資料の口縁部は、一旦、深い「く」の字状に折曲げた後に口縁の上半部を更に内側に折疊することで形成されている。そのため、屈曲部の内側の張り出しの理解は全く異なったものとなる。つまり、逆L字状の口縁を持つタイプは折曲げ部の内側をつまみ出すことで生み出されるが、304の屈曲部の内側の張り出しが、口縁部の先端部分の残存と理解されなければならない。以上を総括すると、304は外形的には逆L字状の口縁を持つタイプにあたるが、成形技法的には「く」の字状口縁をもつタイプの亞種と捉えられるものといえる。

305・306は甕の体部の細片である。ともに貼り付けの突帯を1条認める。306は突帯に刻み目を施していて、突帯の断面は台形である。

307の口縁部は外見上、逆L字状の口縁部を持つタイプと「く」の字状の口縁部を持つタイプの中間ともいえるものである。ただし、口縁部の細片であるので、残念ながら全体の器形は判然としない。また口径が24.0cmで、逆L字状の口縁部を持つタイプが概ね30cm程度であることからすると、一回り小ぶりな印象を受ける。口縁端部は僅かに面があるように見える。屈曲部の内側は、逆L字状の口縁部を持つタイプと同じく、僅かに内側につまみ出している。

308～337は口縁部が「く」の字状を呈する甕である。309は、屈曲部の内側に極めて明瞭な稜線を

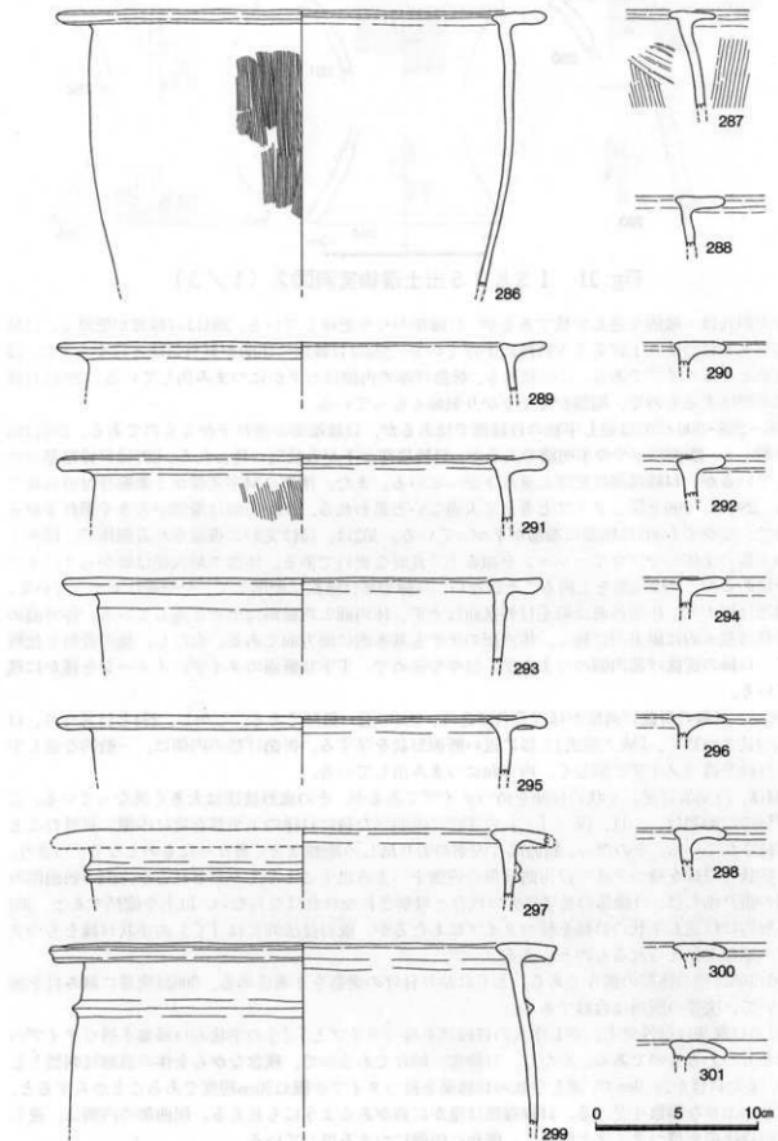


Fig. 32 1SK30 出土遺物実測図① (1/3)

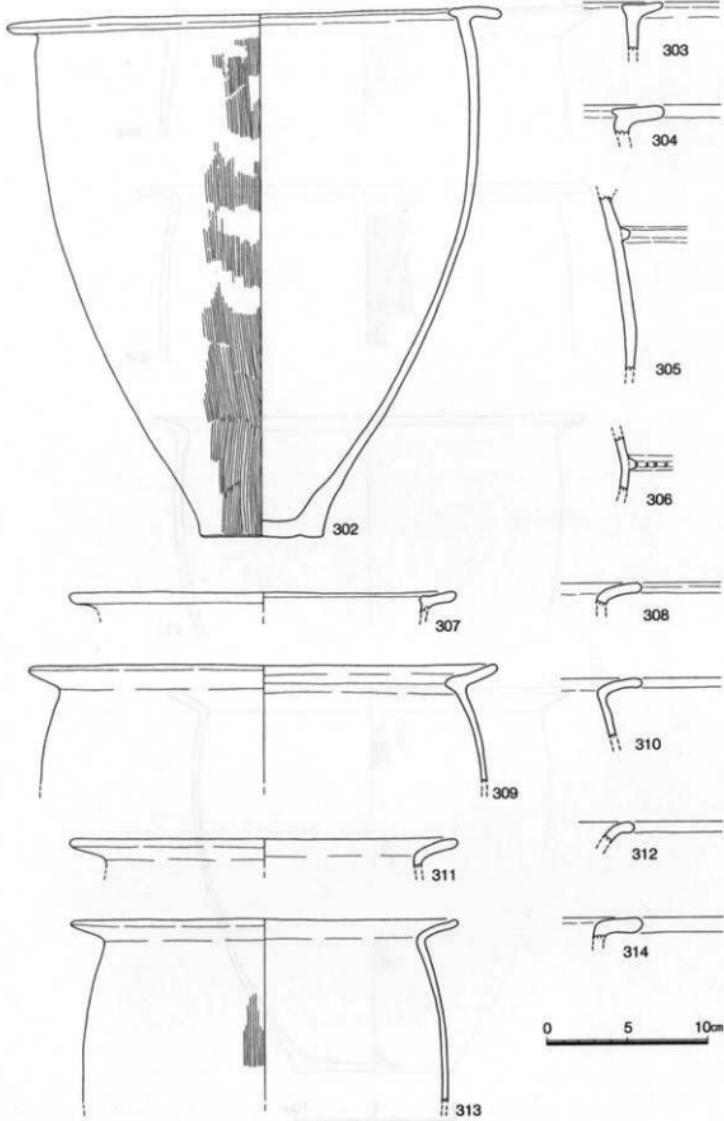
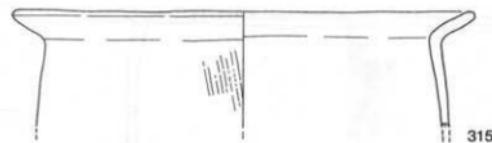
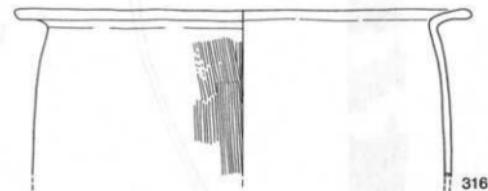


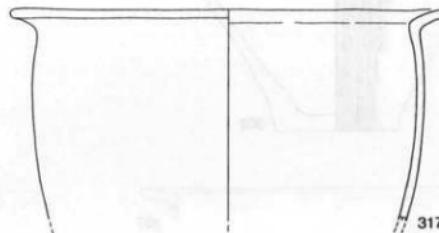
Fig. 33 1 SK 30 出土遺物実測図② (1 / 3)



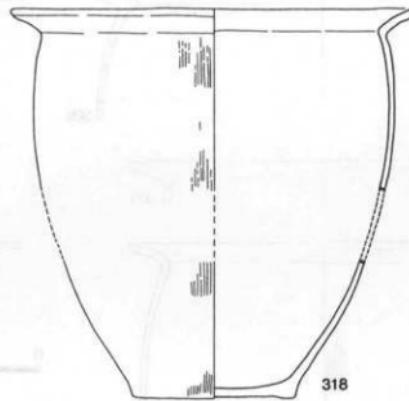
315



316



317



318

0 5 10cm

Fig. 34 | 1 SK 30 出土遺物実測図③ (1 / 3)

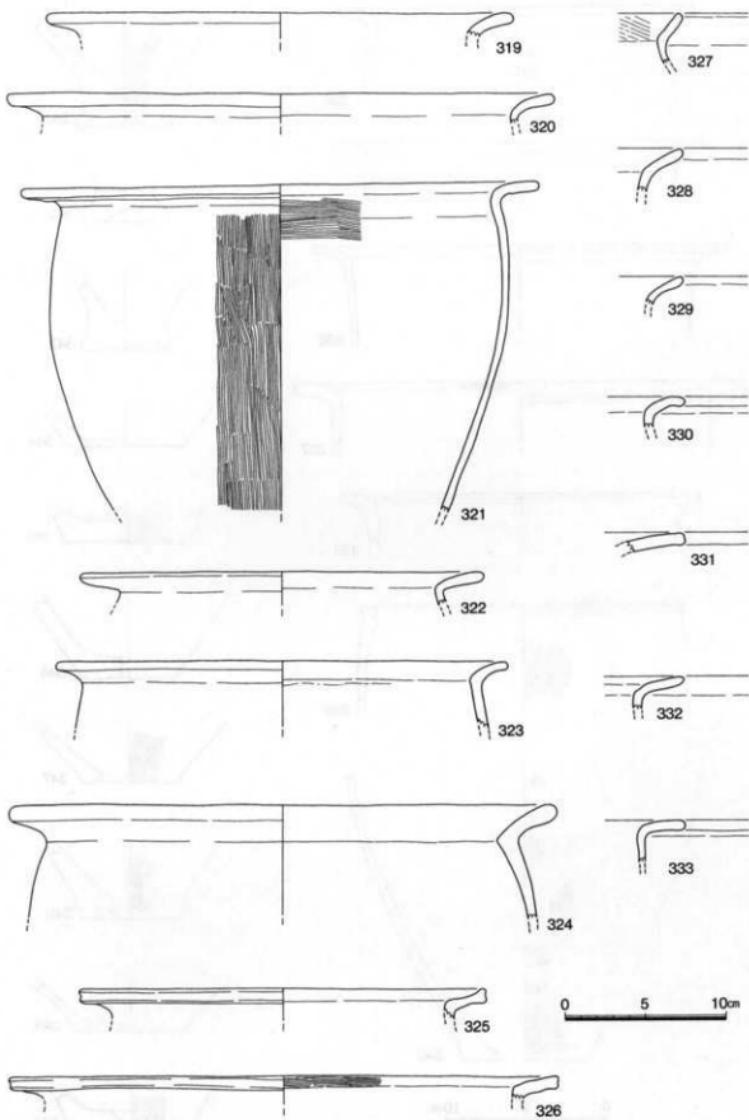


Fig.35 1 SK 30 出土遺物実測図④ (1 / 3)

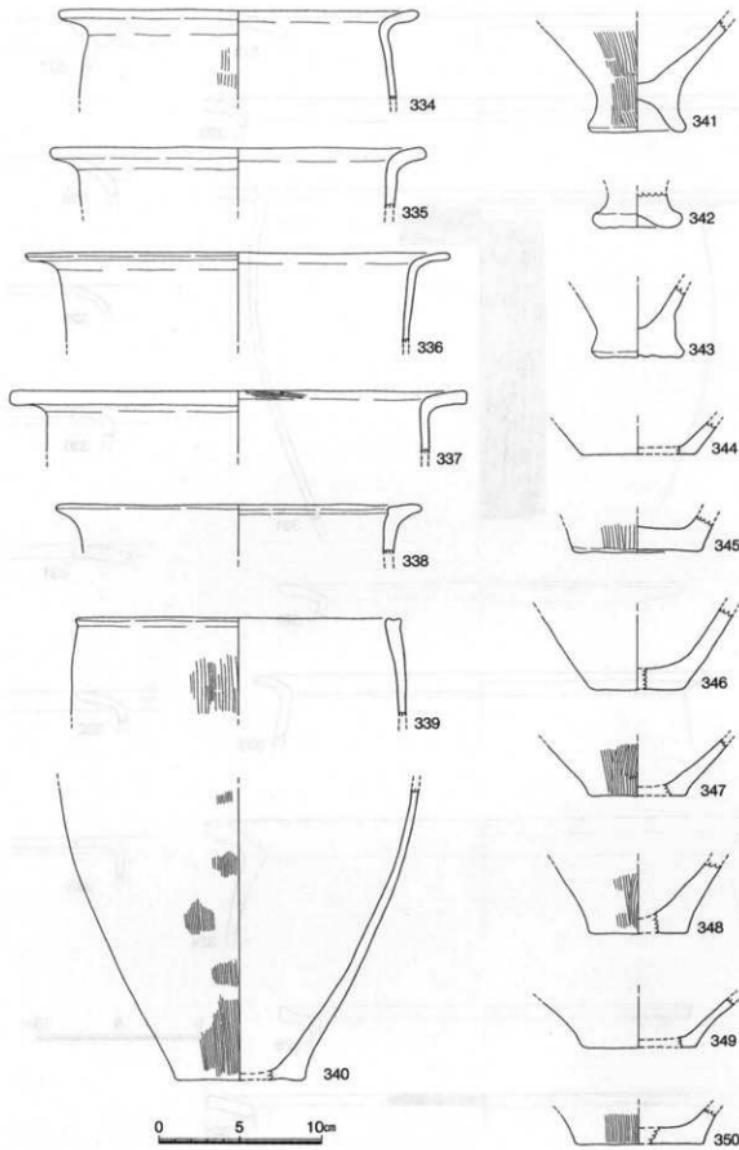


Fig. 36 1 SK 30 出土遺物実測図⑤ (1 / 3)

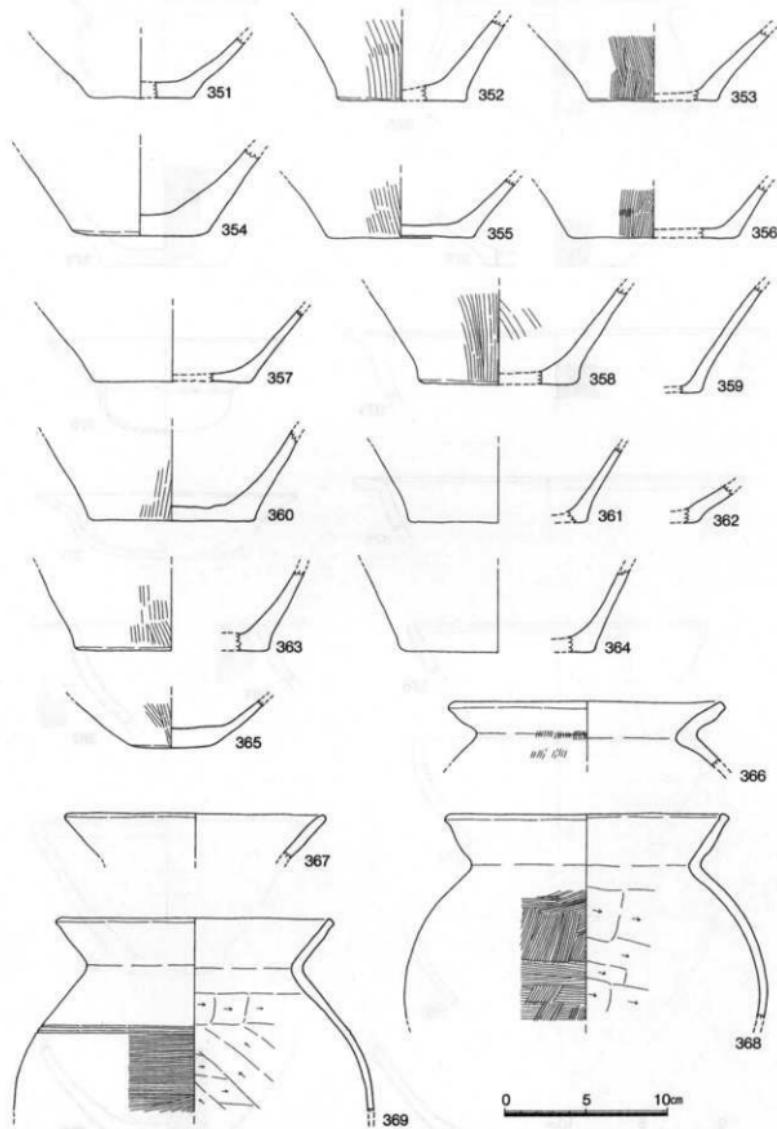


Fig.37 1SK30 出土遺物実測図⑥ (1/3)

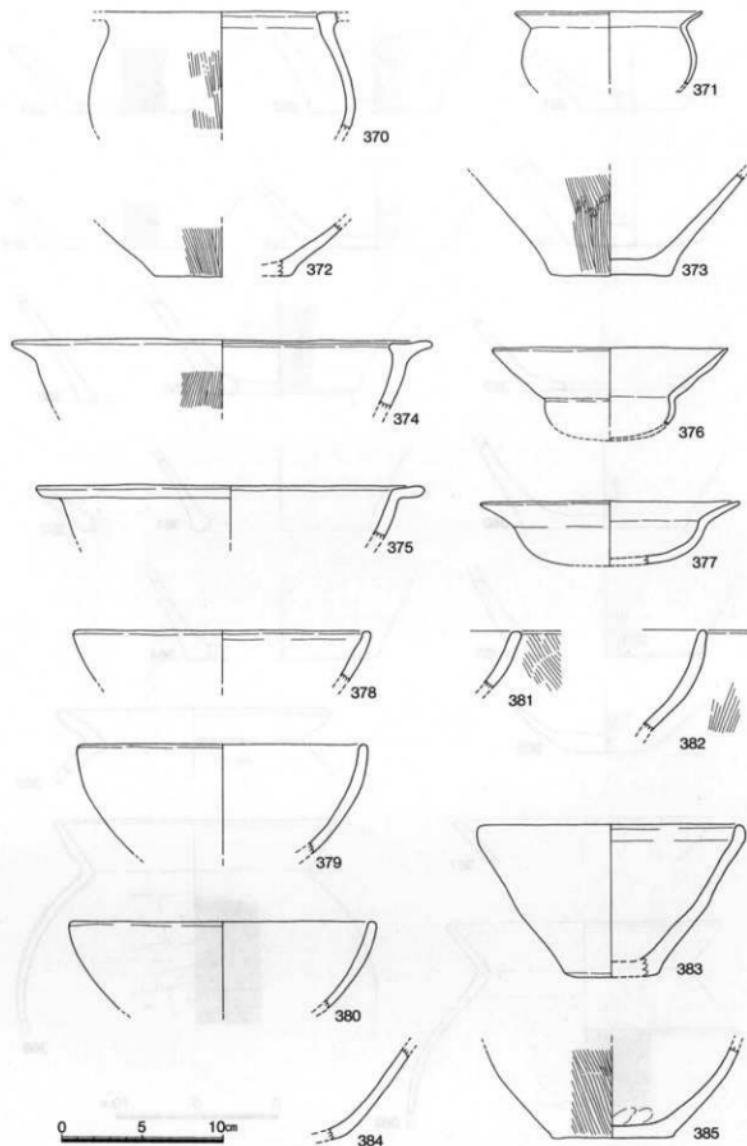


Fig. 38 1 SK 30 出土遺物実測図⑦ (1 / 3)

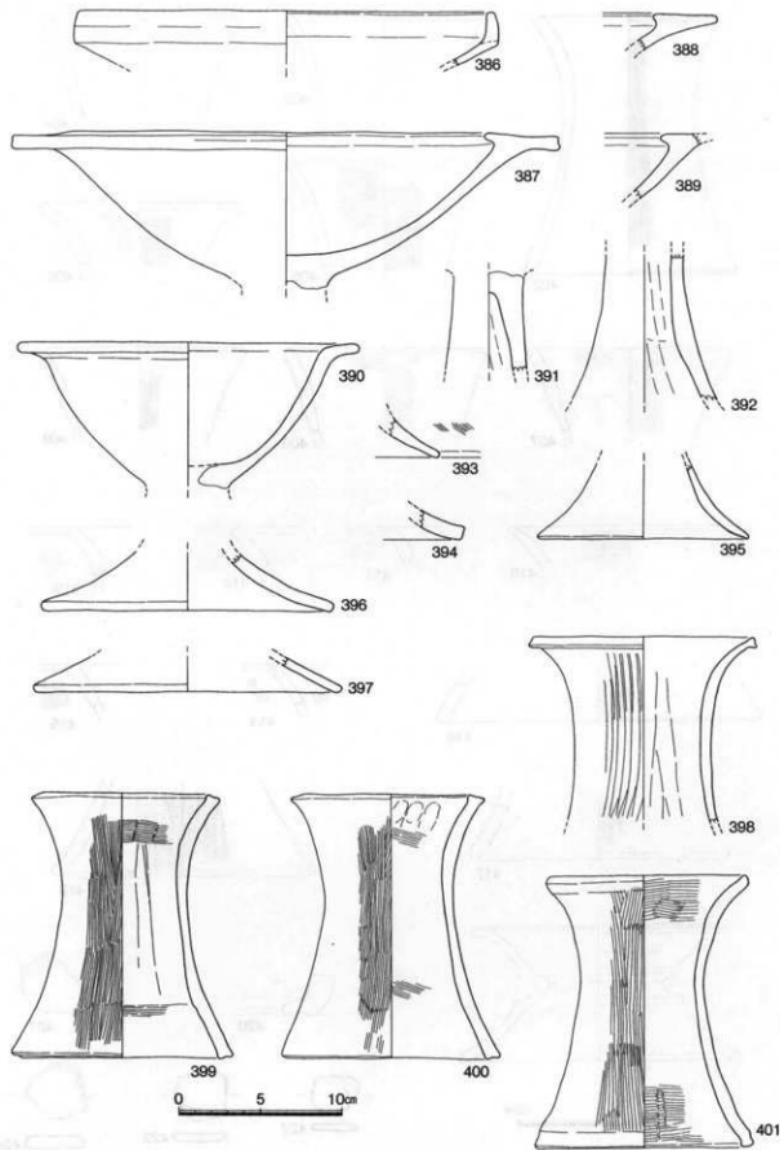
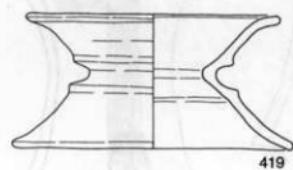
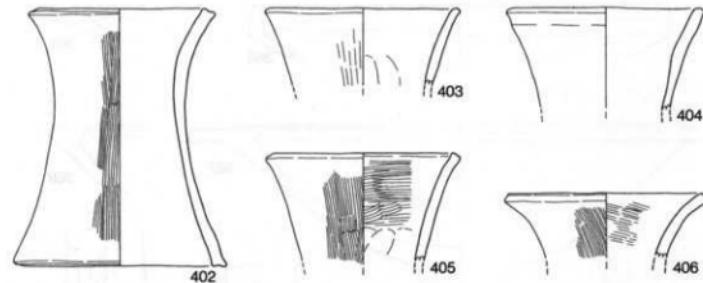


Fig.39 1SK30 出土遺物実測図⑧ (1/3)



0 5 10cm

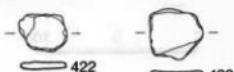
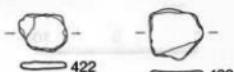


Fig. 40 1 SK 30 出土遺物実測図⑨ (1 / 3)

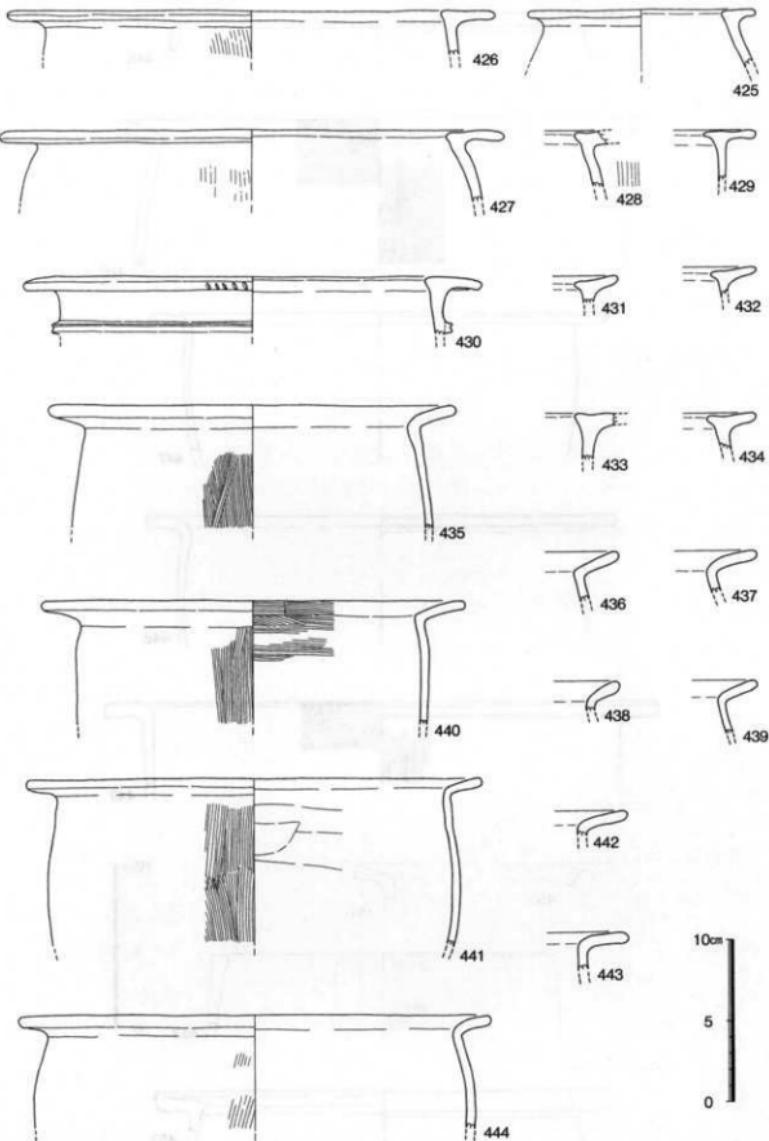
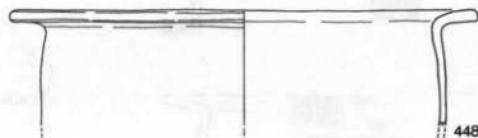
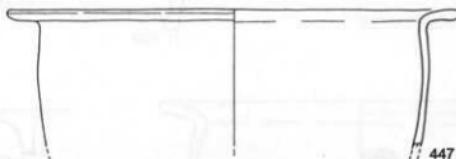
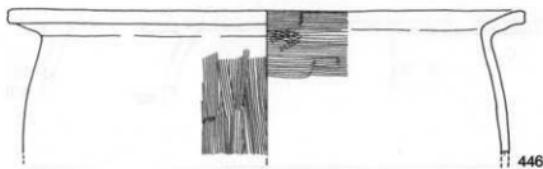
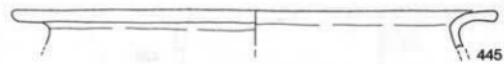


Fig.41 1SK30 (1SD20下層部分) 出土遺物実測図① (1/3)



10cm
5
0



Fig.42 1 SK 30 (1 SD 20 下層部分) 出土遺物実測図② (1 / 3)

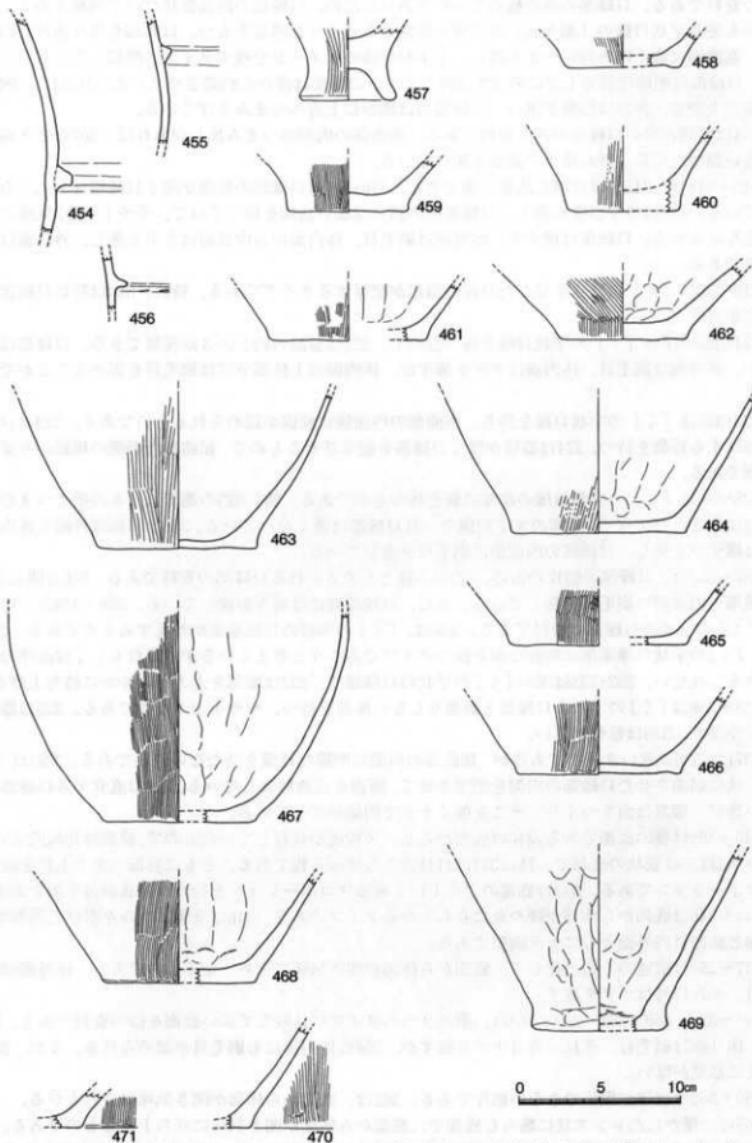


Fig. 43 1SK30 (1SD20下層部分) 出土遺物実測図③ (1/3)

もつ資料である。口縁部のみの極めて小片であったため、口縁部の断面形状だけで判断すると、あたかも逆L字状口縁の「須久式」系の甕と認識できるような構造をもつ。口縁部を折り曲げた内側は、意識的に強く内方向につまみ出し、T字形口縁のイメージを残すタイプに酷似している。しかし、口縁部は明確に斜め上方にのはす意匠があり、口縁部は僅かに内湾させている。313は、一回り小ぶりな甕で、非常に器壁が薄い。口縁端部は僅かに上方へつまみ上げている。

314は器壁の厚い口縁部のみの資料である。屈曲部の内側のつまみ出しがあれば、307などと極めて近い類型となる。概ね横ナデ調整を施している。

315～318は、313とはほぼ同じ法量の甕である。316・317は口縁部の屈曲が深く口縁端部を丸くおさめている。318はやや器壁の薄く、口縁部径の割には広い底部を持っていて、やや「寸胴」気味的印象を与えられる。口縁部は横ナデ、体外面は刷毛目、体内面から内底面はナデを施し、外底面は未調整である。

319・320は「く」の字状を呈した口縁の端部が肥厚するタイプである。特に、320は特に口縁部の肥厚が目立つ。

321・322は深い「く」の字状口縁を持つもので、321は器高の約2/3が復原できる。口縁部は横ナデ、体外面は刷毛目、体内面はナデを施すが、体内面の上位部分には刷毛目を認めることができる。

323・324は「く」の字状口縁を持ち、屈曲部の内側に稜線が認められるものである。323は口縁が外反する特徴を持つ。324は器壁が厚く口縁部を肥厚させるもので、屈曲部内側の稜線が非常に明瞭である。

325・326は「く」の字状口縁の端部に面を持つものである。特に325の端部は3本の指でつまむように成形されたようで、端部のすぐ内側で一旦口縁部は薄くなっている。326は口縁部外面と体内面には横ナデを施し、口縁部の内側に刷毛目を施している。

327～333は、口縁部の細片である。327は、鉢とも考えられる口縁部の資料である。326と同じく、口縁部の内側に刷毛目を施している。また、口縁端部には面を形成している。328・329は、ゆるい「く」の字状の口縁部の資料である。330は、「く」の字状の口縁端部が外反するものである。331は、「く」の字状口縁端部に明瞭な面を持つタイプであろうと考えているが、器台もしくは高环の底部かもしれない。332・333は深い「く」の字状の口縁部で、332は端部を上方へ緩やかに持ち上げる。

334～336は「く」の字状の口縁部と胸張りしない体部を持つ、やや小ぶりな甕である。335は器壁がやや厚く、336は器壁が薄い。

337は、326に近いタイプであるが、屈曲部の内側に明瞭な稜線を持たない資料である。328は「く」の字状に屈曲させた口縁部の内側を肥厚させて、断面を三角形としている。339は直立する口縁部を持つ甕で、端部は面をつくり、そこを強くナデして凹線状にしている。

340～365は甕の底部である。340は底面から2/3程度が残存していたもので、底面は比較的広い。341・342は上げ底状の底部で、特に341は台付甕とも呼べる程である。ともに底部のすぐ上位を絞るプロポーションである。343は底部のすぐ上位を絞るプロポーションを持つが、底面は平坦である。

344～346は底部から体部が緩やかに立ち上がるタイプである。346は全体に丸みを帯びた器形で、体部と底部は内外面とともにナデ調整である。

347～350は前述のものと比して、底部から体部が開き気味に立ち上がるものである。体外面は刷毛目、それ以外はナデを施す。

351～358・360・361・363・364は、前記2つのタイプに比較して広い底面を持つ資料である。概ね、体外面は刷毛目、それ以外はナデを施すが、358は体内面にも刷毛目が認められる。また、354は特に器壁が厚い。

359・362は底径が復原できない細片である。362は、底部から体部が開き気味に立ち上がる。

365は、僅かに凸レンズ状に膨らむ底部で、底部から体部が開き気味に立ち上がるものである。

367～369は土師器の甕であろう。所謂「古式土師器」と呼ばれる一群に包括されると思われる。

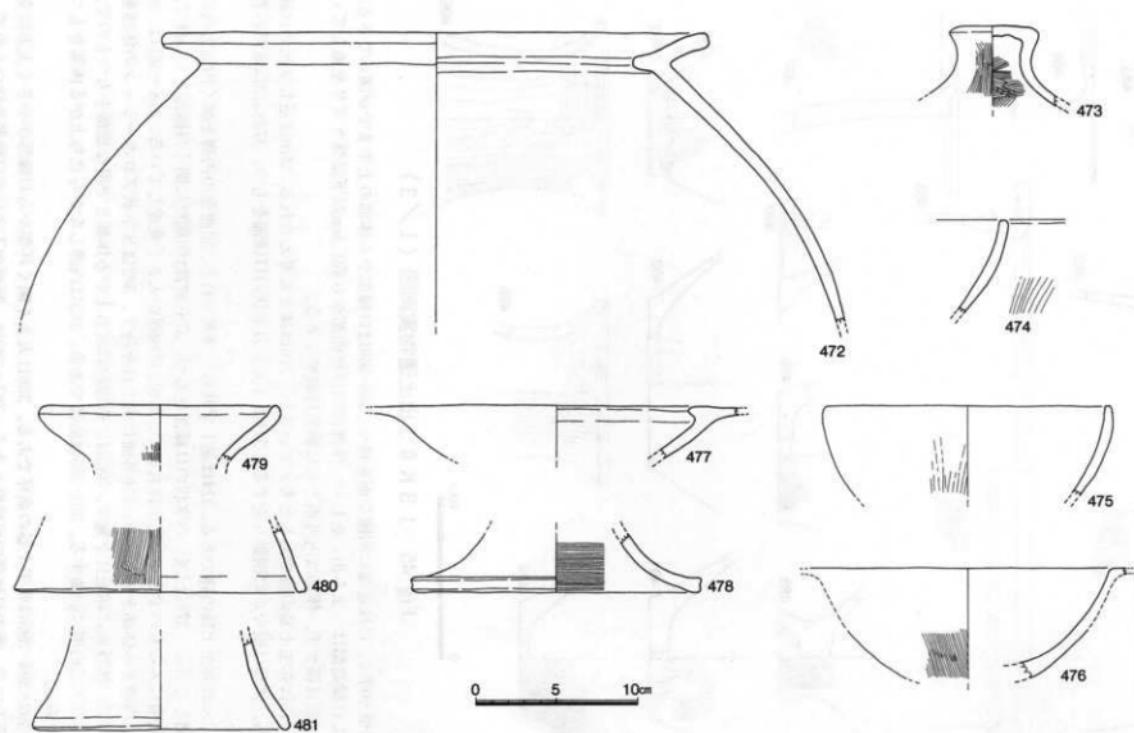


Fig.44 1SK30 (1SD20下層部分) 出土遺物実測図④ (1/3)

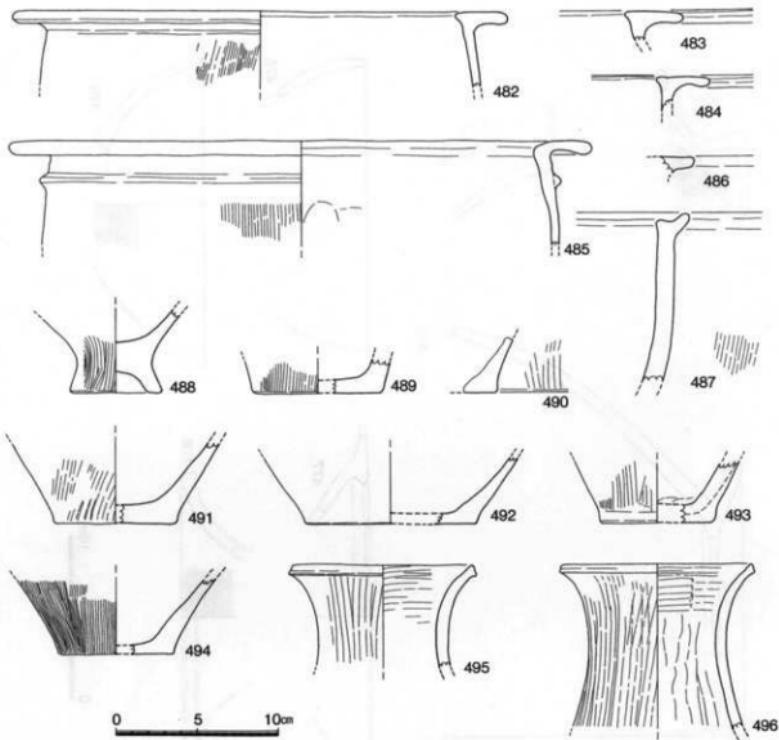


Fig. 45 1 SKO 3 出土遺物実測図 (1/3)

366は器壁が厚く、口縁端部に明瞭な面を持つ。368・369は口縁部から体部の上半までが図示できる。いずれも口縁端部はつまみ出しを行い、体部内面は屈曲部から約1.5cm以下は範ヶゼリを施している。口縁部は横ナデ、体部は内外面とともに刷毛目調整である。

370～373は弥生土器の壺であると考えているが、370は鉢とも考えられる。370は逆L字状の口縁部を持ち、体部は緩やかに胴張りをする。371は「く」の字状の口縁部をもつ。372・373は底部の資料である。

374～385は弥生土器の鉢である。374は逆L字状の口縁部を持ち、屈曲部の内側を強く内面方向につまみ出している。375は「く」の字状の口縁部をもつ。376・377は朝顔型に開く口縁部をもつ鉢で、朝鉢の範疇に入るものである。底部は丸底で、376は口縁部が大きく発達している。378～381は、ボウル状に内湾する体部を持ち、381は体外面に刷毛目を施す。382はS字状プロポーションの体部を持つもので、体外面に刷毛目を施す。383は、直線的に立ち上がる体部と平坦な底部をもつもので、口縁部の直下で内側に屈曲する。384・385は底部である。385は内湾しながら立ち上がる体部をもつタイプである。

386～392・394・395は弥生土器の高環である。386は大きく開く环部から口縁部が小さく上方に立ち上がるもので、壺の口縁部の可能性もある。387～389は、断面がT字状の口縁部を持つもので、

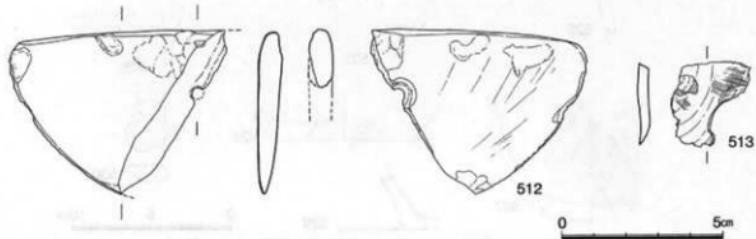
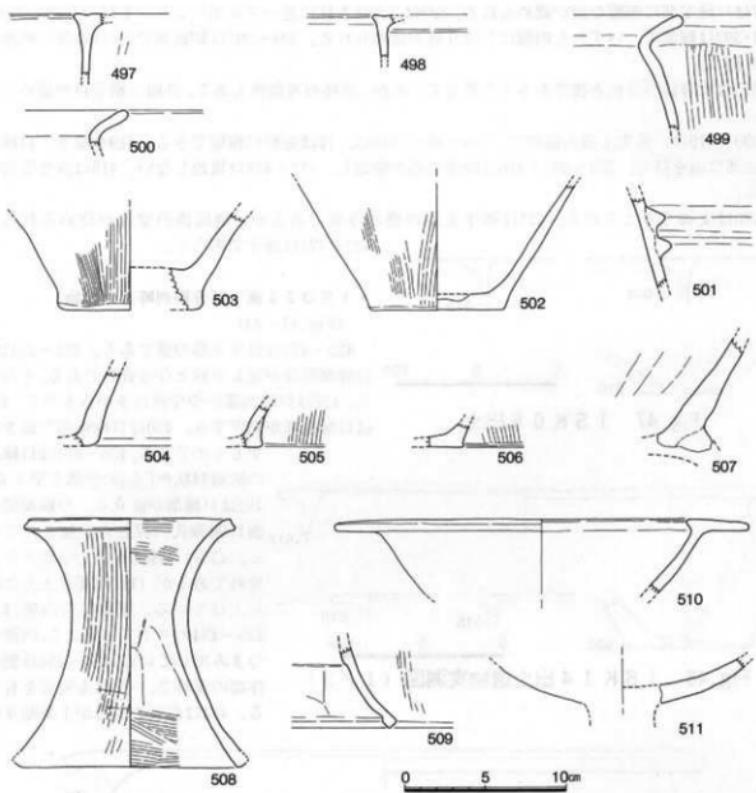


Fig. 46 1 SK 0 4 出土遺物実測図 (1/3・2/3)

387は口縁端部に明瞭な面が認められる。390は、台付き鉢に近いプロポーションを持つものである。391・392は脚部で、いずれも内側にしづら痕が認められる。394～397は脚底部で394は端部に明瞭な面を持つ。

393は土師器の台付き甕であろうと考えているが、高环の可能性もある。外面に刷毛目が認められる。

399～419は、弥生土器の器台で、399～402・419は、ほぼ完形に復原できる。419を除き、口縁部と底部に面を持ち、399～402・416は底部の面が接地し、417・418は接地しない。419は鼓型器台である。

420は支脚と考えられる。421は弥生土器の甕の体部であるが、焼成後の穿孔が認められる。

422～424は面子であろう。

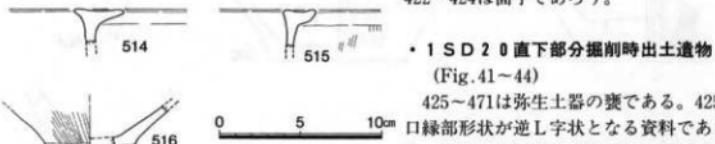


Fig. 47 1 SK 06 出土(1/3) は口縁端部が肥厚する。430は口縁端部に面を有するものである。436～451は口縁部の断面形状が「く」の字状を呈する。

425～471は弥生土器の甕である。425～434は、

427は口縁端部がやや垂れ下がるもので、429

430は口縁端部に面を有するものである。436～451は口縁部の断面形状が「く」の字状を呈する。

Fig. 48 1 SK 14 出土遺物実測図 (1/3)

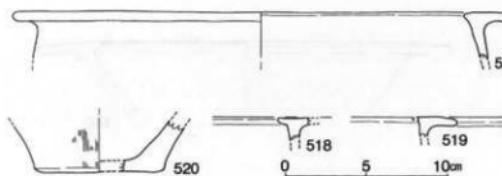
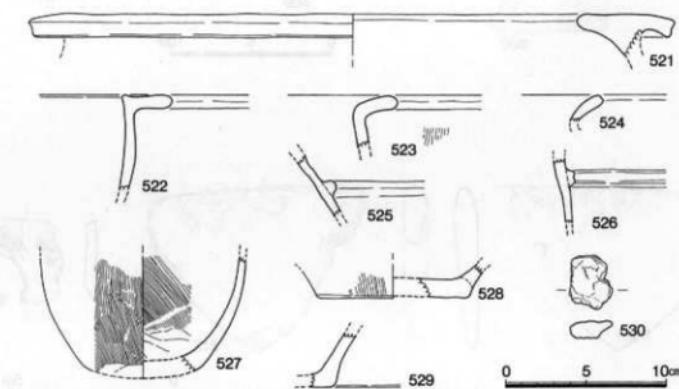


Fig. 49 1 SK 19 出土遺物実測図 (1/3)



き、455は三角突帯が1条貼り付く。457~471は甕の底部である。464は、体部内面に指頭圧痕が残る。

472は弥生土器の壺である。口縁部は甕様の逆L字状となり、端部に面を有する。473は弥生土器の蓋で、つまみ部のみ出土している。474~476は弥生土器の鉢である。474~475は、僅かに内湾する口縁部を有する。

477~478は弥生土器の高坏である。477は断面がT字状の口縁部をもつ。ともに、丹塗りである。

479~481は弥生土器の器台である。479は口縁部の資料で、端部は内湾する。

1 SK 0 3 出土遺物 (Fig. 45)

弥生土器の甕・器台が出土した。482~494は甕である。482~487は口縁部の資料で、482~484は口縁部が逆L字状を呈する。485は口縁部が深い「く」の字状である。487は、口縁端部が小さなキャリバー状となる類型で、黒斑が認められる。488~494は底部の資料である。488は、底部が上げ底になる。

495~496は器台である。同一個体である可能性が高い。ともに端部に面を持つ。

1 SK 0 4 出土遺物 (Fig. 46)

弥生土器と石包丁、黒曜石剝片が出土した。弥生土器の器種は甕・器台・高坏がある。

497~507は甕である。497~500は、口縁部の資料である。497~498は口縁部が逆L字状を呈するタイプで、499~500は「く」の字状を呈している。501は体部の細片で、M字突帯がある。502~507は底部で、504は丹塗りが施されている可能性がある。また、507は台付き甕になるかも知れない。

508~509は器台で、508は口縁端部に面を有する。また、いずれの資料も底端部に面を持つが、ともに接地しない。

510~511は高坏で、510は全面に丹塗りを施しているようである。511は、坏部と脚部の接合部に粘土栓を用いる成形技法によっている。

512は石包丁で、1/3程が残存している。513は黒曜石の剝片である。

1 SK 0 6 出土遺物 (Fig. 47)

弥生土器の甕が出土した。514~515は口縁部である。514はT字状、515は小さなキャリバー状の口縁を特徴とする。516は底部である。

1 SK 1 4 出土遺物 (Fig. 48)

弥生土器の甕が出土した。517~519は口縁部である。517は口縁部が逆L字状を呈するタイプで、518~519はT字状を呈している。520は底部である。

1 SK 1 9 出土遺物 (Fig. 49)

弥生土器の甕、粘土塊が出土した。521~529は甕である。521~524は口縁部である。521は、口縁部がT字状、522は逆L字状を呈する。523~524は口縁部断面が「く」の字状となる資料である。525~

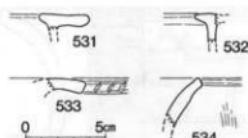


Fig. 50 1 SK 2 1 出土遺物実測図
(1/3)

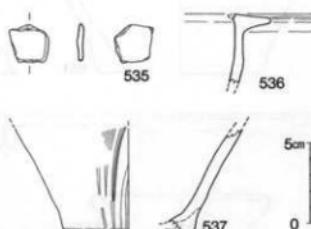


Fig. 51 1 SK 2 4 出土遺物実測図
(1/3)

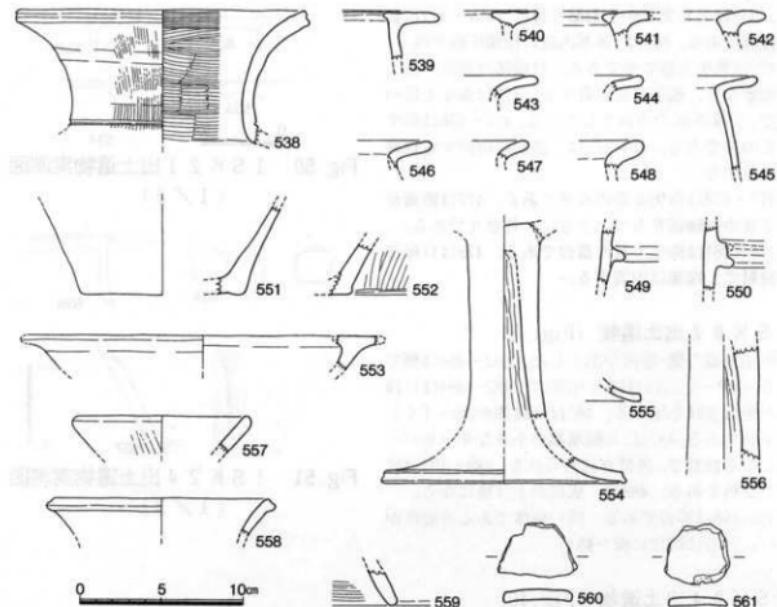


Fig. 52 1 SK 3 4出土遺物実測図 (1/3)

526は体部の細片で、525は三角空帯、526はM字空帯が、それぞれ1条貼り付けられている。527～529は底部である。528は、体外面が刷毛目でそれ以外をナデ調整によっているが、527は体内面まで刷毛目が施されている。

また、530は粘土塊である。きめ細かな胎土が使われている。

1 SK 2 1 出土遺物 (Fig. 50)

弥生土器の甕と器台が出土した。

531～533は、甕である。いずれも口縁部の資料である。531・532は口縁部が逆L字状となるものである。533は丹塗が施され、端部には面を形成している。

534は器台の口縁部で、端部の面に沈線状の凹みが1条認められる。

1 SK 2 4 出土遺物 (Fig. 51)

弥生土器の面子・甕が出土した。

535は、面子であろうと考えている。甕の体部片を再加工したものと理解している。

536・537は甕である。536は、口縁部の資料である。537は底部で、体部外面は刷毛目、それ以外はナデを施している。いずれも、胎土に砂粒を多く含んでいて、焼成は良好である。

1 SK 3 4 出土遺物 (Fig. 52)

弥生土器の壺・甕・高坏・鉢・器台・面子が出土した。

538は壺である。復原口径は18.0cmを測る。

539~552は甕である。539~548は口縁部の資料である。539~542は、口縁部の断面形状が逆L字状を呈するタイプである。いずれも、折曲げ部の内面を内側につまみだしている。543~548は、口縁部が「く」の字状となるものである。544・548は口縁端部を肥厚させている。また、544は丹塗りを施している。549~550は体部の資料である。551~552は底部である。552の外底面が未調整となっている。

553~556は高環である。553は口縁部で、T字状の断面形状をもつ。554・555は脚部である。いずれも内面に絞り痕が残っている。

556は脚底部である。底端部に面を持つが、面は接地しない。

557は鉢である。復原口径は11.0cmを測る。

558・559は器台である。558は口縁部、559は底部の細片である。

560・561は面子である。いずれも甕体部片の再加工品であろう。

1 SK 3 6 出土遺物 (Fig. 53)

石製品が出土した。時期や用途は不明である。

1 SK 3 9 出土遺物 (Fig. 54)

弥生土器の甕が出土した。563~570は口縁部である。563~565は口縁部が逆L字状となるタイプである。564は口縁端部を上方に跳ねあけるもので、565は、逆に口縁端部が垂れ下がるものである。566~570は「く」の字状の口縁部をもつ類型である。いずれも口縁端部が肥厚する特徴をもつ。そのうち568は、折曲げ部の内側に緩い稜線が認められる。571~572は体部の細片である。571はM字突帯と三角突帯を1条ずつ貼り付けている。573~574は底部の細片である。573は体外面にも刷毛目は認められず、ナデ調整を施している。574は体外面に刷毛目を施し、その他はナデ調整によっている。また、外底面は上げ底状としていて、やや古い様相を呈している。

1 SK 4 3 出土遺物 (Fig. 55)

弥生土器の甕・鉢・器台・高環・粘土塊・須恵器の环、黒曜石の剥片が出土した。

575~595は弥生土器である。575~587は甕で、575~585は口縁部である。575~580は、口縁部の断面形状が逆L字状となるもので、すべて折曲げ部の内面を内側につまみだしている。そのうち575は、口縁端部を肥厚させている。581~585は口縁部が「く」の字状となるものである。581は、口縁端部が僅かに内湾している。582は、口縁端部に面を形成し、そこに沈線状の凹みを1条つくっている。586~587は底部の資料である。

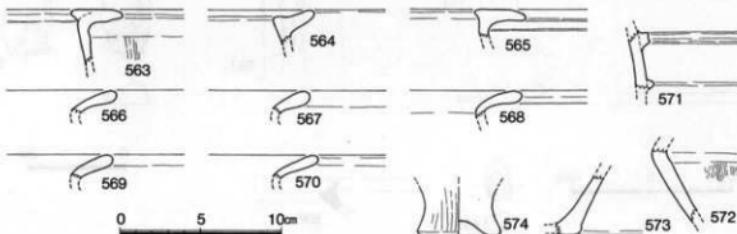


Fig. 53 1 SK 3 6
出土遺物実測図
(1/3)

Fig. 54 1 SK 3 9 出土遺物実測図 (1/3)

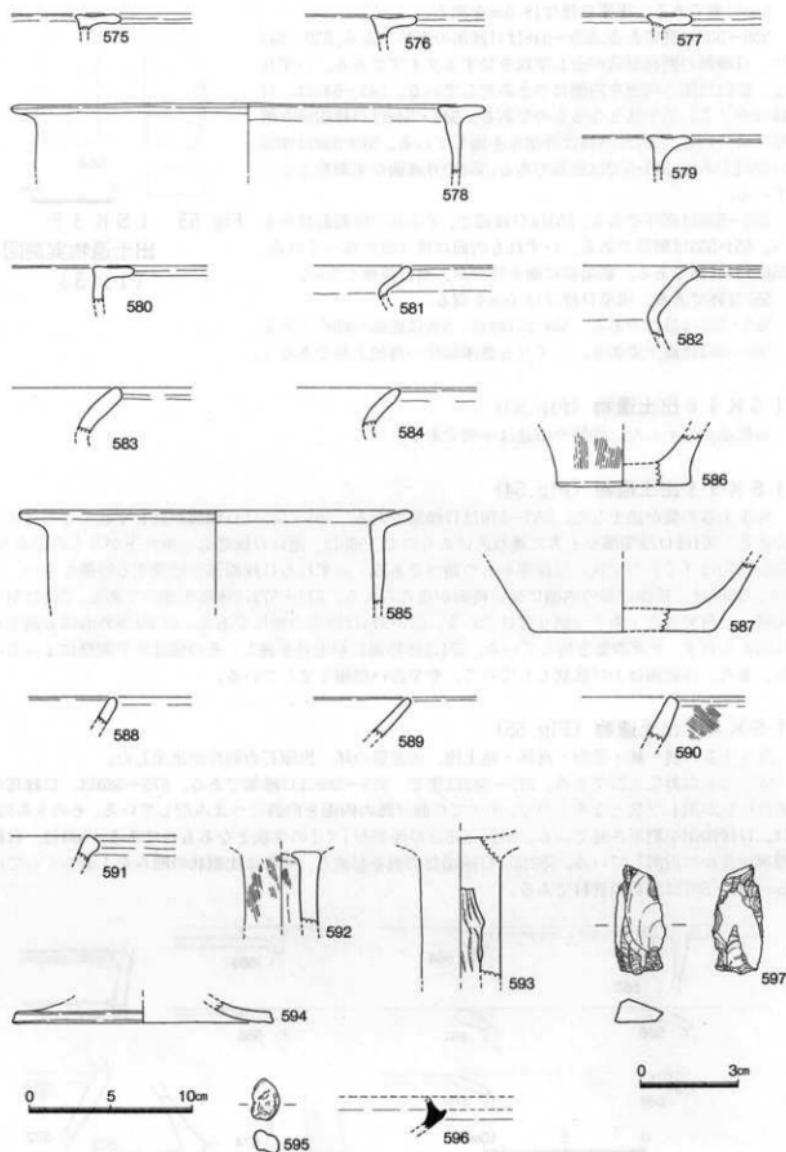


Fig.55 1SK43出土遺物実測図 (1/3・2/3)

588～590は鉢である。588は僅かに内湾する口縁部を特徴とし、589は逆に外反する。590は口縁端部に面をもつタイプである。

591は器台の口縁部で、端部に面をつくりだす。

592～594は高杯で、すべて丹塗りが施されている。592・593は脚部の細片で、内面に絞り痕が認められる。594は、脚底部の資料である。

595は粘土塊で、やはり、きめの細かい胎土を使用している。

596は、須恵器の環である。口縁部の細片で、胎土は精良である。

597は、黒曜石の剝片である。

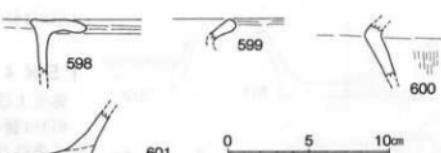


Fig. 56 1 SK 4 4 出土遺物実測図 (1/3)

1 SK 4 4 出土遺物 (Fig. 56)

弥生土器の甕が出土した。598・599は口縁部の資料で、598は逆L字状、599は「く」の字状の断面形状を特徴とする。600は体部の細片、601は底部の細片である。

1 SK 4 6 出土遺物 (Fig. 57)

弥生土器、軽石が出土した。

弥生土器はすべて甕である。602～604は口縁部で、いずれも逆L字状の断面形状であるが、603は口縁端部を肥厚させている。605は体部の細片で、M字突帯を1条貼り付けている。606～609は底部である。基本的には、体外面に刷毛目を施し、それ以外をナデ調整によっているが、605・608は体外面もナデ調整を施している。

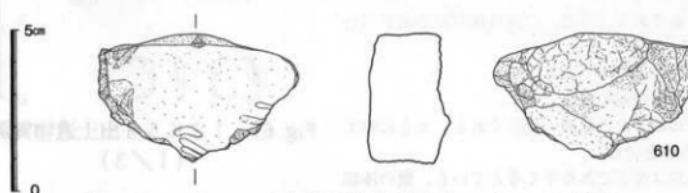
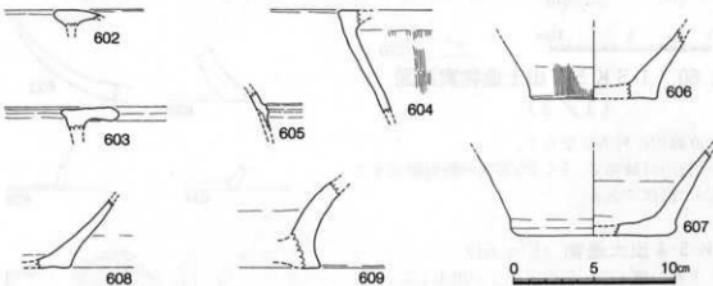


Fig. 57 1 SK 4 6 出土遺物実測図 (1/3・2/3)

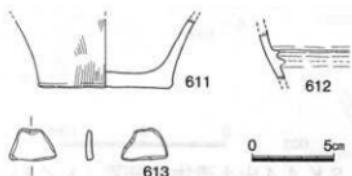


Fig. 58 1 SK 4 7出土遺物実測図
(1/3)

610は軽石の破片である。

1 SK 4 7 出土遺物 (Fig. 58)

弥生土器の甕・面子が出土した。
611は甕の底部である。612は甕の体部で、M字突帯が1条貼り付く。613は面子であろう。

1 SK 5 1 出土遺物 (Fig. 59)
(1/3)

弥生土器の台付鉢・甕・鉢が出土した。
614は台付鉢の底部である。

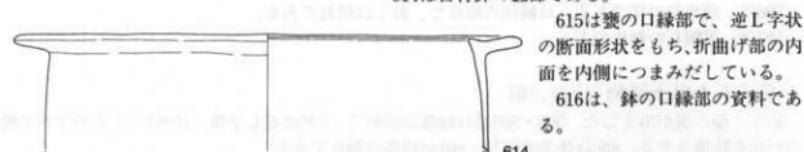


Fig. 59 1 SK 5 1出土遺物実測図 (1/3)

1 SK 5 3 出土遺物

(Fig. 60)

弥生土器の鉢・甕が出土した。
617・618は鉢である。ともに口

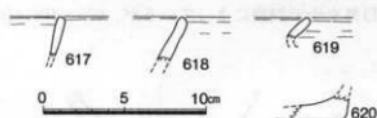


Fig. 60 1 SK 5 3出土遺物実測図
(1/3)

縁部は直線的に外方にひらく。

619は甕の口縁部で、「く」の字状の断面形状をとる。620は底部である。

1 SK 5 8 出土遺物 (Fig. 61)

弥生土器の甕・壺・器台・面子が出土した。

630は甕の口縁部である。「く」の字状の断面形状を特徴とする。

631は壺である。所謂、二重口縁の壺で濁黃色の白っぽい土器である。

632は甕の口縁部である。

633は小型の甕の底部である。

634・635は器台の底部の資料である。ともに胎土に多量の砂を含む。

636・637は面子であろうと考えている。甕の体部の破片の再加工品である。

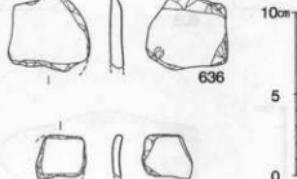


Fig. 61 1 SK 5 8出土遺物実測図
(1/3)

1 SK 6 4 出土遺物 (Fig. 62)

弥生土器の甕・器台・高環が出土した。
638・639は甕の口縁部である。638は逆L字状、639は「く」の字状の断面形状である。

640は器台の底部細片である。641は高環の脚部で、外面に刷毛目を施している。

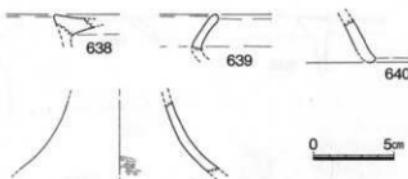


Fig. 62 1 SK 6 4 出土遺物実測図 (1/3)

1 SK 6 9 出土遺物 (Fig. 63)

弥生土器の甕・器台が出土した。
642～645は甕である。642・643は口縁部の細片で、「く」の字状の断面形状である。
弥生土器の甕・器台が出土した。
644は体部であるが、土師器となるかも知れない。645は底部である。
646～648は器台の底部である。

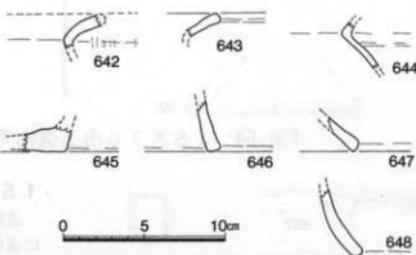


Fig. 63 1 SK 6 9 出土遺物実測図 (1/3)

1 SK 7 0 出土遺物 (Fig. 64)

弥生土器の甕・壺・器台、サヌカイトの剥片が出土した。
649～652・654は甕である。649～652は口縁部で、649は逆L字状。その他は「く」の字状の断面形状である。654は底部である。
653は壺の頸部の細片である。風化が激しく、調整は不明である。
654は器台で、下半の1/2が残存している。調整はすべてナデ調整である。
655はサヌカイトの剥片である。

1 SK 7 1 出土遺物 (Fig. 65)

弥生土器の甕・器台・面子が出土した。
657～661は甕である。すべて口縁部の資料で、657～659は逆L字状の断面形状であるが、659は口縁端部が反り上っている。660・661は「く」の字状の断面形状を特徴とするが、661は口縁端部を肥厚させている。

662は器台の底部である。663は面子であろう。

1 SK 7 4 出土遺物 (Fig. 66)

弥生土器の甕・器台・鉢・面子が出土した。
664～669は甕である。664は逆L字状の口縁部の細片である。665・666は「く」の字状の口縁部であるが、666は屈曲が浅い。667～669は底部である。
670は器台の底部細片である。671は鉢で、直線的に外方へひらく口縁部を有する。672は面子であろうと考えている。

1 SP 4 2 出土遺物 (Fig. 67)

弥生土器の鉢・甕・高環が出土した。
673は鉢の口縁部で、外方へひらく口縁部を有する。674は甕の口縁部の細片である。675は高環の脚部で、環部との接合は、器台状に接続したあとに別の粘土で栓をする手法を用いている。

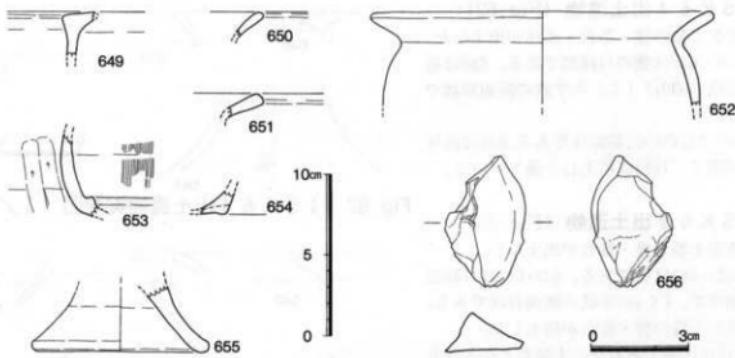


Fig. 64 1 SK 7 0出土遺物実測図 (1/3・2/3)

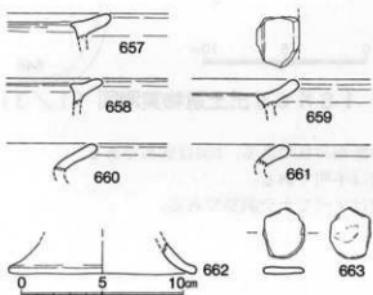


Fig. 65 1 SK 7 1出土遺物実測図 (1/3・2/3)

1 SD 3 5 出土遺物 (Fig. 68~77)

造構検出面が非常に不安定であったため、掲削時に造構面直上の包含層内の遺物が混入する恐れがあった。そのため、安定した面が確認されるまでの出土遺物と、それよりも下位から出土した遺物をわけて取り上げた。前者の段階の出土遺物を検出面出土遺物、後者の段階の出土遺物を造構内出土遺物として区分して報告したい。

・検出面出土遺物 (Fig. 68~72)

弥生土器・土師器・軽石・黒曜石・サヌカイトが出土した。弥生土器では甕・壺・鉢・器台・高环・杓子・面子・粘土塊があり、土師器では甕・鉢・环・皿がある。サヌカイトでは剝片、黒曜石は、石鐵・

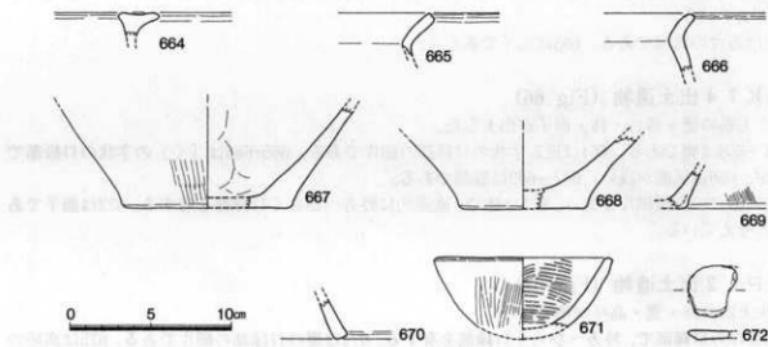


Fig. 66 1 SK 7 4出土遺物実測図 (1/3)

剝片がある。

676～738は弥生土器である。676～716は甕で、そのうち676～692は口縁部の資料である。676・677は、口縁部の断面形状が逆L字状となるタイプで、ともに折曲げ部の内面を内側につまみだしている。678～692は、断面が「く」の字状となる類型である。その中でも、688は特に屈曲が強く、深い「く」の字状となっている。また、679は口縁端部に沈線状の凹みが1条認められる。689～692は口縁端部に刻み目が施される一群である。いずれも金雲母と砂粒を胎土に含有する。693は体部の細片である。台形突帯が1条貼り付

けられ、突帯には刻み目が施されている。694～716は底部である。701は底部に穿孔がみられ、これは焼成後に内外両面から穿たれたようである。703は内底面に指頭痕が残っている。

717～718は壺であろうと考えているが、717は高环かもしれない。717は口縁部で、「く」の字状の断面形状である。718は底部で、体内面にみられ、これは焼成後に内外両面から穿たれたようである。719・720は鉢である。ともに緩やかに内湾する口縁部をもつ。720は口縁部直下に穿孔がみられ、これは焼成後に穿たれたようである。

721～725は器台である。すべて底部の資料で、723は体内面に指頭痕が残っている。722～724は底部端部に面をつくるが、その面は接地しない。

726～732は高环である。726・727は口縁部の資料で、断面形状はとともにT字状である。727は口縁端部に面がある。728～730は脚部で、728・730には体内面に絞り痕が認められる。731・732は脚底部の細片である。

733・734は杓子の柄の部分ではないかと考えている。ともに白っぽい色調で、焼成は良い。弥生土器に含めるかどうかかも、再検討の余地はある。

735～737は面子であろう。すべて、壺の体部等の破片の再加工品である。738は粘土塊である。

739は軽石である。

740～749は、土師器である。740～744は甕で、うち740～743は口縁部の資料である。すべて「く」の字状の断面形状であるが、741・743は端部をつまみだしている。742の胎土は精良である。744は底部で、体外間に黒斑が認められる。

745～747は鉢である。746・747は口縁部で、746は外方にひらく口縁の端部に面を形成している。747は底部で、内面に指頭痕が残る。

748は壺の底部である。749は皿で、口縁端部は丸くおさめている。

750・751はサヌカイトの剥片である。752は黒曜石の石鎌である。753～755は黒曜石の剥片である。

・遺構内出土遺物 (Fig. 73～77)

弥生土器・黒曜石が出土した。弥生土器では甕・壺・鉢・高环・器台・蓋・面子・粘土塊があり、黒曜石は剥片がある。

756～864は弥生土器である。756～795は甕で、うち756～787は口縁部の資料である。756～771は口縁部の断面形状が逆L字状となるタイプの一群である。すべて折曲げ部の内面を内側につまみだしている。765・767は口縁端部を反り上げている。768・771は端部が肥厚するタイプで、770は端部が垂れ下がっている。772～787は口縁部が「く」の字状となるタイプであるが、775は深く折曲があり、折曲げ部の内面には緩い稜線が認められる。778・779・781は口縁端部に面を形成し、782は口縁端部が肥厚する。785～787は782と同じく、口縁部が「く」の字状の断面形状で端部を肥厚させるが、折曲げ部の内面に稜線が認められる一群である。特に786・787は明瞭である。788～795は、体部の資料である。788～790は三角突帯が2条貼り付けられている。791・792は同じく三角突帯であるが、1条が貼り付けられている。793～795は突帯が1条貼り付く。

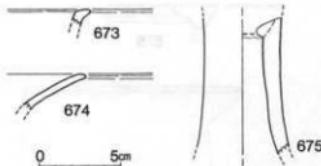


Fig. 67 1 S P 4 2 出土遺物
実測図 (1/3)

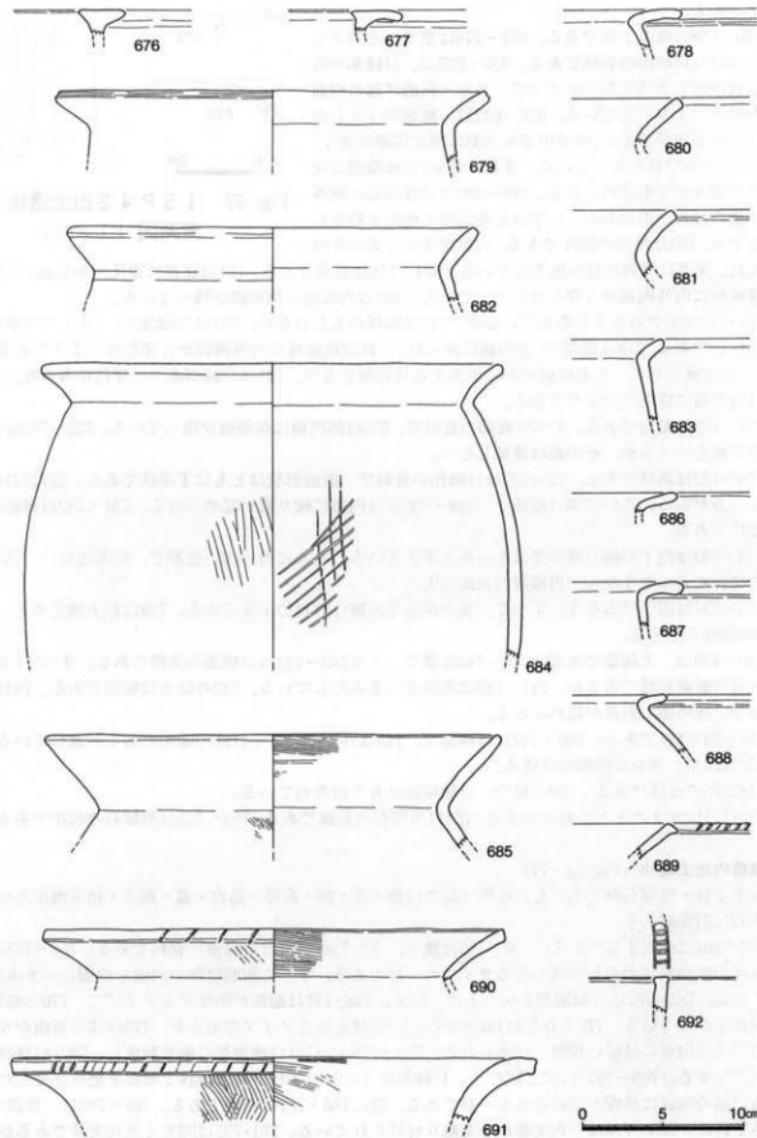


Fig. 68 1 S D 3 5 出土遺物実測図① (1 / 3)

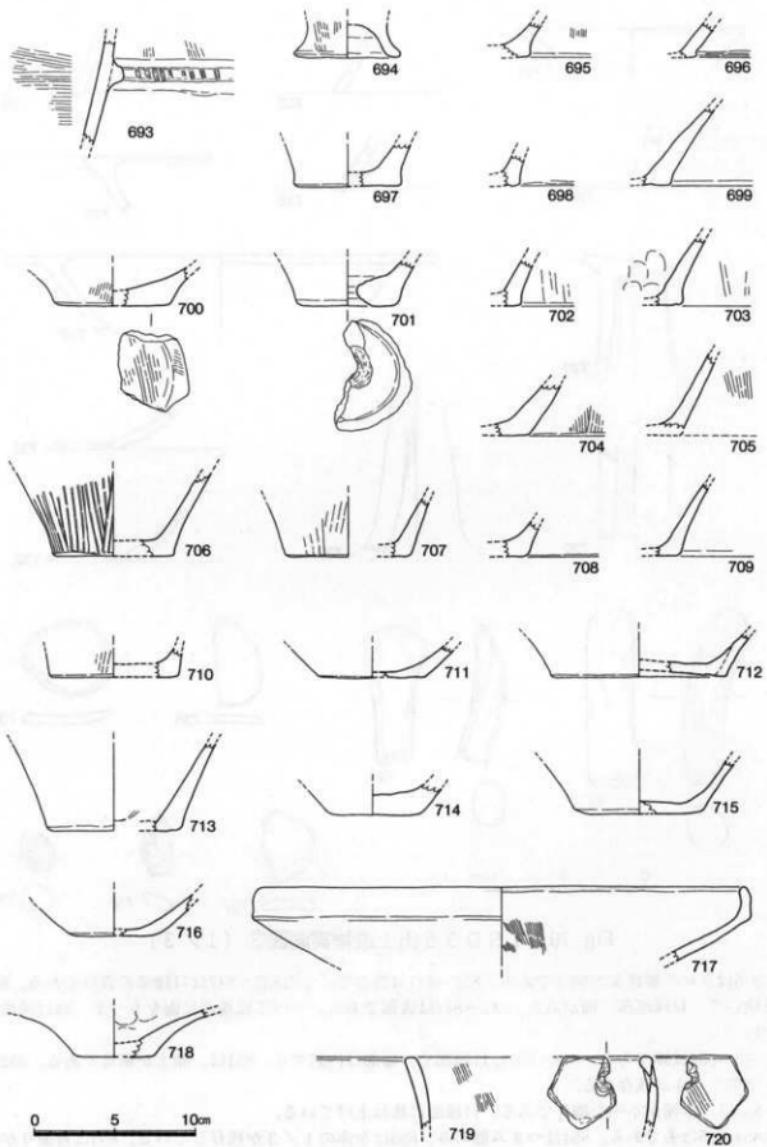


Fig.69 1 S D 3 5 出土遺物実測図② (1 / 3)

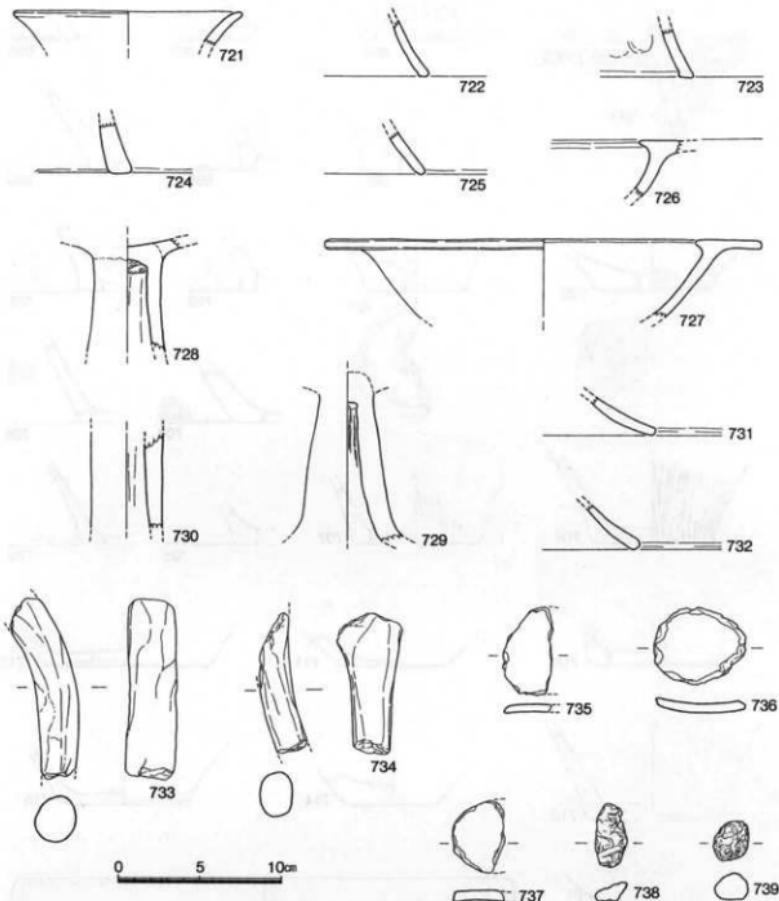


Fig. 70 1 S D 3 5 出土遺物実測図③ (1/3)

836は高壠の脚底部の細片である。837～847は器台で、うち837～842は口縁部の資料である。838を除いて、口縁端部に面がある。843～847は底部である。すべて底端部に面をもつが、面は接地しない。

848～852は鉢である。848～851は口縁部で、端部は内湾する。851は、胎土が精良である。852は下半部1/4が残存する。

853は、器種が不明な細片である。口縁部は跳ね上げている。

854・855は蓋である。854はつまみ部のみ、855は全体の1/3が残存している。855は丹塗りが施されている。

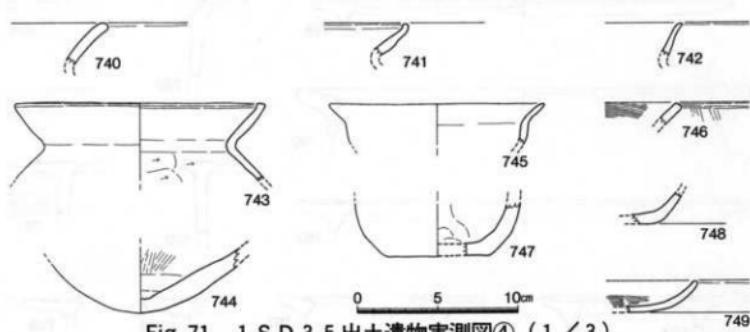


Fig. 71 1 S D 3 5 出土遺物実測図④ (1 / 3)

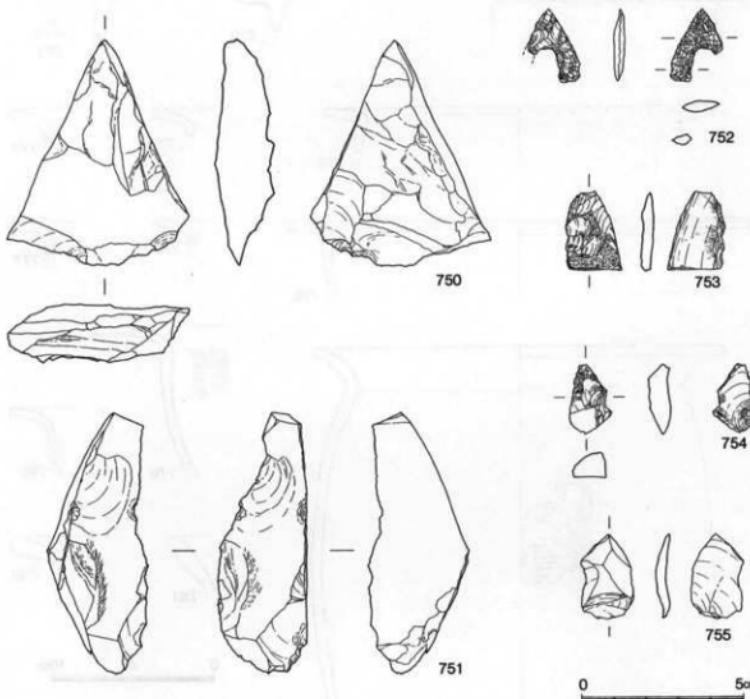


Fig. 72 1 S D 3 5 出土遺物実測図⑤ (2 / 3)

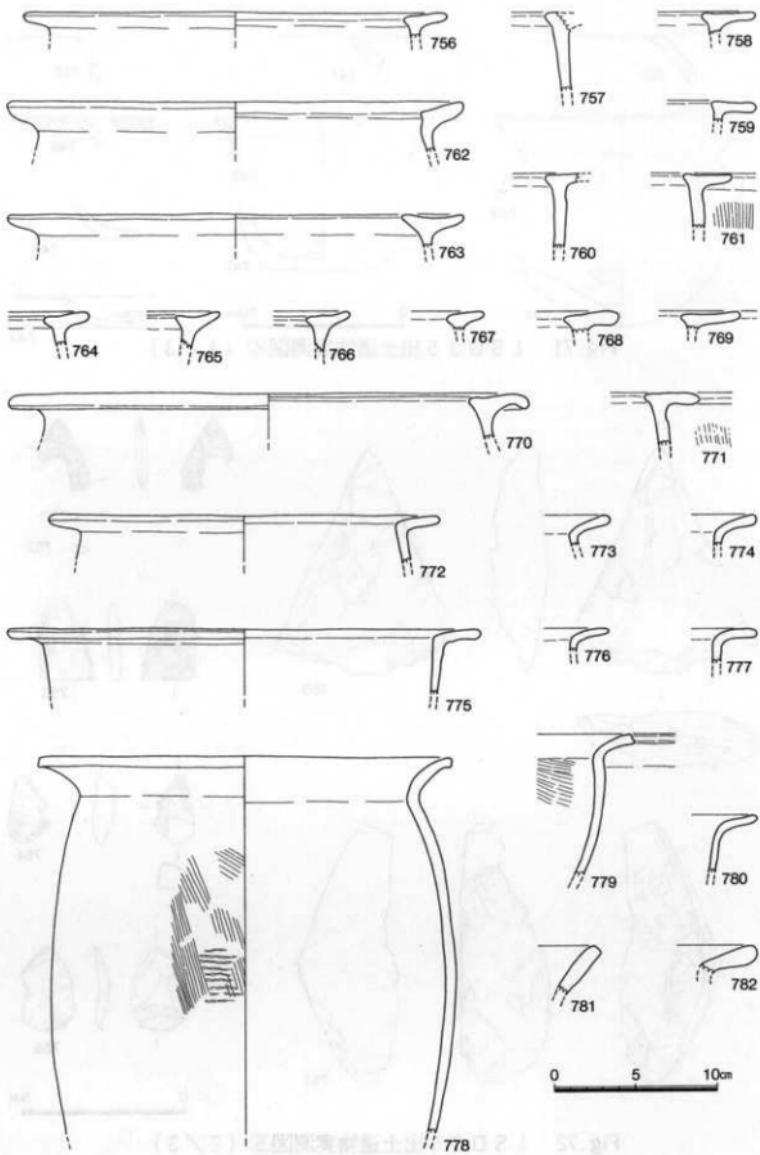


Fig. 73 1 S D 3 5 出土遺物実測図⑥ (1 / 3)

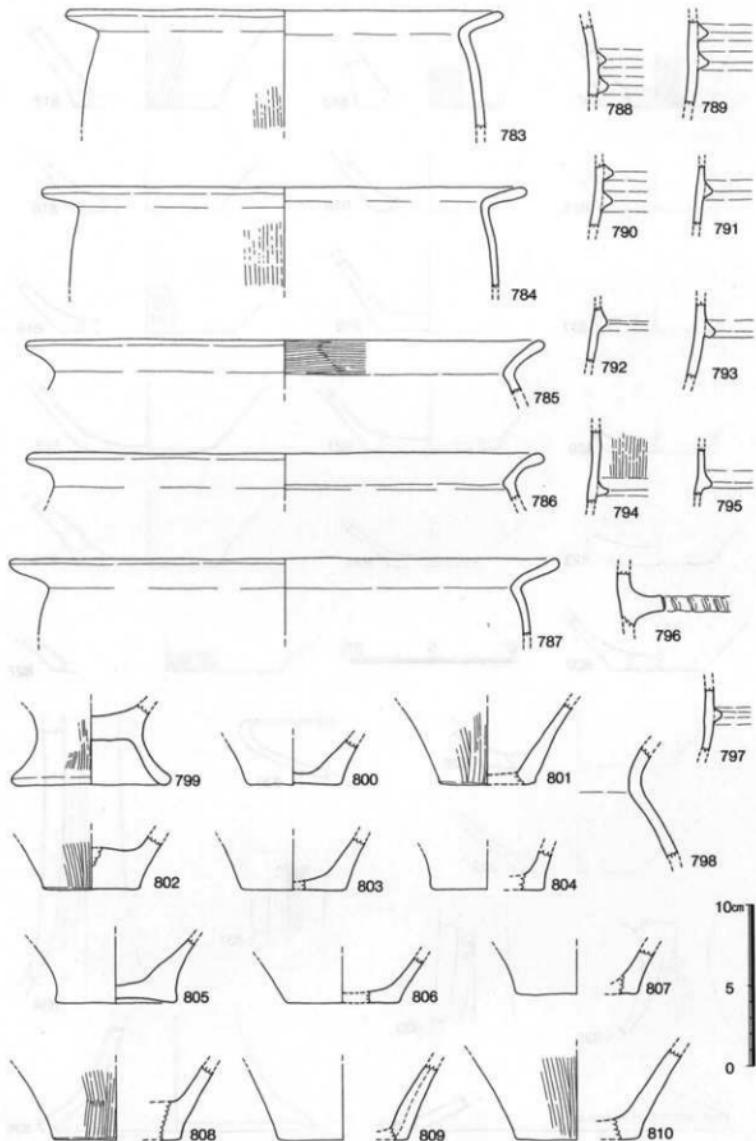


Fig.74 1 S D 3 5 出土遺物実測図⑦ (1 / 3)

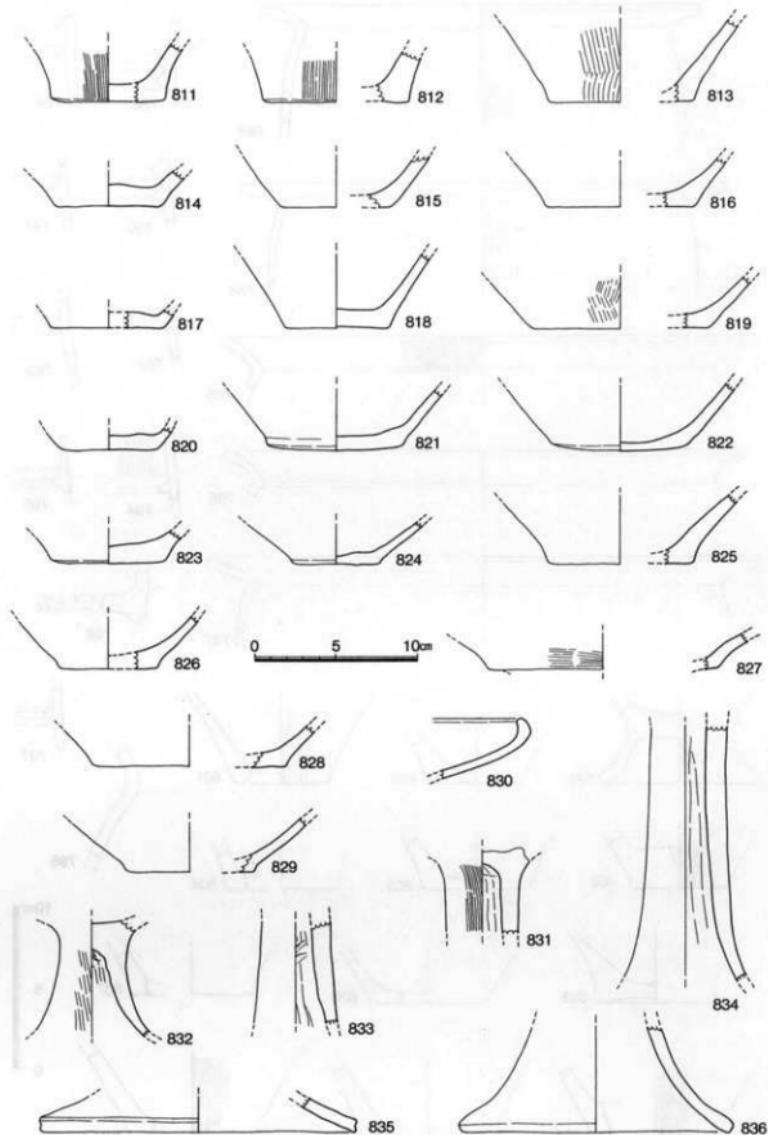


Fig. 75 1 S D 3 5 出土遺物実測図⑧ (1 / 3)

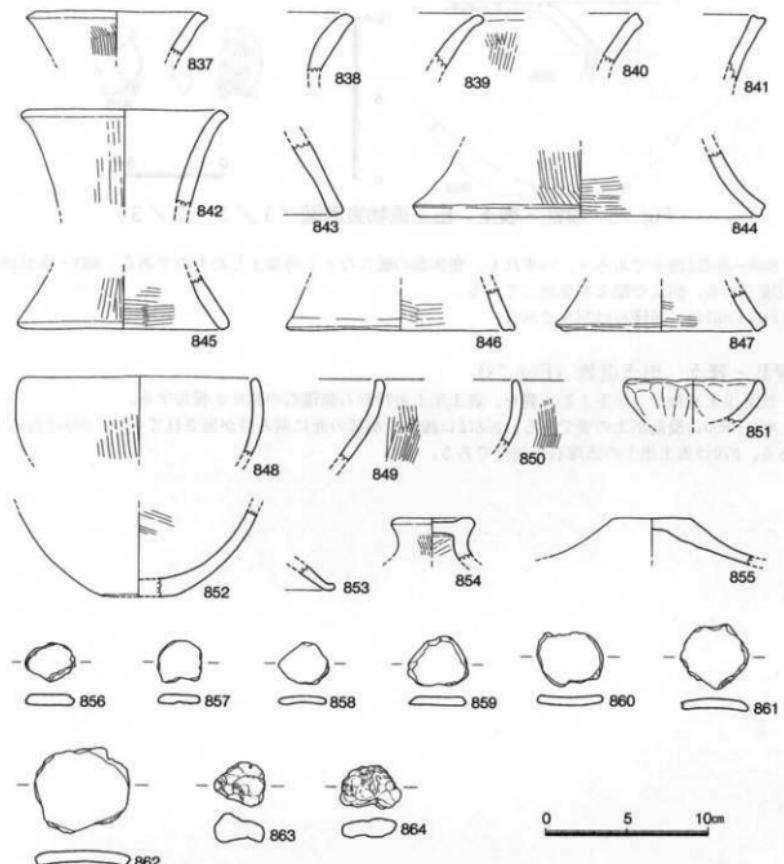


Fig. 76 1 S D 3 5 出土遺物実測図⑨ (1 / 3)

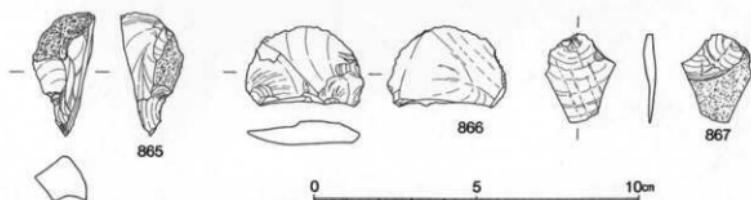


Fig. 77 1 S D 3 5 出土遺物実測図⑩ (2 / 3)

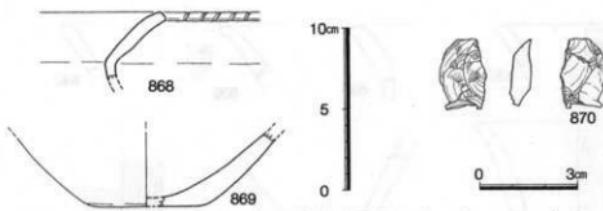


Fig. 78 搅乱・表土 出土遺物実測図 (1 / 3 • 2 / 3)

856~862は面子であろう。いずれも、甕体部の破片などを再加工したものである。863・864は粘土塊である。精良な胎土を使用している。

865~867は、黒曜石の剝片である。

搅乱・表土 出土遺物 (Fig. 78)

搅乱出土遺物から弥生土器の甕を、表土出土遺物から黒曜石の剝片を報告する。

868・869は搅乱出土の甕である。868は口縁部で端部の面に刻み目が施されている。869は底部である。870は表土出土の黒曜石の剝片である。



No	遺構	種別	器種	口径	底径	基高	堆存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底部	色調	胎土	焼成	口縁部 割れ状	備考	R-No	
1	ISD01	陶生	甕	27.2	—	—	口縁部 1/8	不明	平暗	不明	—	—	乳白色— 棕褐色	全芸母· 細砂粒合	良	逆し字	折曲げ部の内側を内側に つまみだす	1	
2	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部 1/8	不明	平暗	不明	—	—	淡褐色	全芸母· 細砂粒合	良	深い 「く」の字	折曲げ部の内側をわざか につまみだす	13	
3	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	不明	—	—	—	—	淡褐色	全芸母· 細砂粒合	良	逆し字	折曲げ部の内側をわざか につまみだす	1	
4	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	不明	—	—	—	—	淡褐色	全芸母· 細砂粒合	良	逆し字	折曲げ部の内側をわざか につまみだす	2	
5	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	不明	—	—	—	—	淡褐色	全芸母· 細砂粒合	良	逆し字	—	3	
6	ISD15	陶生	甕	16.6	—	—	口縁部 1/4	不明	平暗	不明	—	—	棕褐色	全芸母少	良	「く」の字	—	14	
7	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	刷毛?	—	—	—	—	乳白色	全芸母· 砂粒合	良	「く」の字	端部に面有	10	
8	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	不明	—	—	—	—	淡褐色	全芸母· 細砂粒合	良	「く」の字	口縁部はやや肥厚	5	
9	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	不明	—	—	—	—	淡褐色	全芸母· 細砂粒合	良	「く」の字	端部内側にゆるい接線有	4	
10	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	不明	—	—	—	—	棕褐色	全芸母· 細砂粒合	良	「く」の字	口縁部はやや肥厚	8	
11	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	横ナデ	—	—	—	—	乳白色	全芸母· 細砂粒合	良	「く」の字	—	11	
12	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	横ナデ	—	—	—	—	淡褐色	全芸母· 細砂粒合	良	「く」の字	—	9	
13	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	横ナデ	—	—	—	—	淡褐色	全芸母· 細砂粒合	良	「く」の字	口縁部はやや肥厚	7	
14	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	不明	—	—	—	—	淡褐色	全芸母· 細砂粒合	良	「く」の字	端部内側に明瞭な後縫有	6	
15	ISD15	陶生	甕	—	—	—	体縁部翻片	—	不明	不明	—	—	棕褐色	全芸母· 細砂粒合	良	M字突部1条有	—	16	
16	ISD15	陶生	甕	—	—	—	体縁部翻片	—	不明	不明	—	—	淡褐色	全芸母· 角閃石合	良	M字突部1条有	—	15	
17	ISD15	陶生	甕	—	—	—	底部翻片	刷毛?	不明	ナデ	不明	内:黑色 外:淡褐色	全芸母· 細砂粒合	良	—	—	—	18	
18	ISD15	陶生	甕	—	—	—	底部翻片	—	不明	ナデ?	不明	内:黑色 外:淡褐色	全芸母· 角閃石合	良	—	—	—	19	
19	ISD15	陶生	甕	—	—	—	底部翻片	—	不明	不明	ナデ?	内:灰色 外:淡褐色	全芸母· 細砂粒合	良	—	—	—	20	
20	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	不明	—	—	—	—	淡褐色	全芸母· 砂粒合	良	ゆるい 「く」の字	—	12	
21	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	横ナデ?	ナデ?	ナデ?	ナデ?	内:暗褐色 外:黑色	全芸母· 角閃石合	良	端部に面有	—	28		
22	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	横ナデ?	刷毛?	刷毛?	—	—	淡褐色	全芸母· 角閃石合	良	端部に面有	—	22	
23	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	不明	不明	不明	—	—	淡褐色	全芸母· 砂粒合	良	「く」の字	—	27	
24	ISD15	陶生	甕	6.5	—	—	底部 1/4	—	不明	不明	不明	—	淡褐色	全芸母	良	—	—	17	
25	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	不明	不明	不明	—	内:黑色 外:淡褐色	全芸母· 角閃石合	良	端部に面有 上げ	—	25		
26	ISD15	陶生	甕	—	—	—	口縁部翻片	横ナデ?	不明	—	—	内:灰褐色 外:黑色	全芸母· 角閃石合	良	端部に小さな 面有	端部は上方につまみ上げ	26		
27	ISD15	陶生	高杯	—	—	—	口縁部翻片	不明	—	—	—	—	淡褐色	全芸母· 角閃石合	良	T字 端部に面有	口縁部表面に刻目有 全周部外壁り?	21	
28	ISD15	陶生	高杯	—	—	—	底部翻片	—	不明	不明	不明	内:灰褐色 外:灰褐色	全芸母· 角閃石合	良	—	洗濯場に面有 底部の面は接地しない	—	23	
29	ISD15	陶生	高杯	—	—	—	底部翻片	—	不明	不明	不明	内:淡褐色	全芸母· 角閃石合	良	—	洗濯場に面有 底部の面は接地しない	—	24	
30	ISD15	陶生	画子	—	—	—	—	—	—	—	—	—	淡褐色	全芸母· 砂粒合	良	—	—	29	
31	ISD15	陶生	画子	—	—	—	—	—	—	—	—	—	暗褐色	全芸母· 角閃石合	良	—	—	31	
32	ISD15	陶生	画子	—	—	—	—	—	—	—	—	—	暗褐色	全芸母· 細砂粒合	良	—	—	30	
33	ISD15	陶生	画子	—	—	—	1/2	—	—	—	—	—	内:淡褐色 外:淡褐色	全芸母· 砂粒合	良	—	折曲げ部の内側を内側に つまみだす	—	32
34	ISD20	陶生	甕	—	—	—	縁片	横ナデ?	—	—	—	—	淡褐色	粗粒較多	不良	逆し字	折曲げ部の内側を内側に つまみだす	16	
35	ISD20	陶生	甕	—	—	—	縁片	不明	平暗	不明	—	—	淡褐色	粗粒砂粒合	不良	逆し字	つまみだす	18	
36	ISD20	陶生	甕	26.0	—	—	縁片	横ナデ?	刷毛?	ナデ?	—	—	淡褐色	粗粒砂粒合	やや不良	T字	折曲げ部の内側を内側に 少しつまみだす	15	
37	ISD20	陶生	甕	—	—	—	縁片	不明	平暗	不明	—	—	明褐色	粗粒砂粒合	不良	逆し字	折曲げ部の内側を内側に 少しつまみだす	17	
38	ISD20	陶生	甕	—	—	—	縁片	横ナデ?	—	—	—	—	淡褐色	粗粒砂粒合	不良	逆し字	口縁部に沈黙状の凹み 端部に面有	7	
39	ISD20	陶生	甕	29.0	—	—	縁片	横ナデ?	刷毛?	ナデ?	—	—	淡褐色	粗粒砂粒合	不良	逆し字	—	14	
40	ISD20	陶生	甕	—	—	—	縁片	横ナデ?	—	—	—	—	淡褐色	粗粒砂粒合	やや不良	逆し字	端部に面有	8	

Tab.1 出土遺物観察表①

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	高さ	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	釉上	焼成	口縁部 状況	備考	R-Na
41	ISD020	飾生	甕	—	—	—	細所	不明	不明	—	—	—	淡赤褐色	細砂粒少 量含	不良	「く」の字		13
42	ISD020	飾生	甕	34.0	—	—	細所	不明	—	—	—	—	淡赤茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字		6
43	ISD020	飾生	甕?	17.6	—	—	細所	丹塗り	—	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	不良	「く」の字 端部に画面	丹塗り	10
44	ISD020	飾生	甕	—	5.8	—	底部細片	刷毛	—	ナテ	横ナテ	—	淡灰茶褐色	細砂粒含	やや不良	—	上底	20
45	ISD020	飾生	甕?	—	10.0	—	底部細片	—	—	ナテ	不明	—	淡灰茶褐色	細砂粒含	不良	—		22
46	ISD020	飾生	甕?	—	10.0	—	底部細片	刷毛	ナテ	ナテ	不明	—	淡灰茶褐色	細砂粒多	不良	—		25
47	ISD020	飾生	甕?	—	10.0	—	底部細片	ナテ	ナテ?	ナテ?	尾ナテ	—	内:灰黒色 外:淡茶褐色	細砂粒多	やや不良	—		22
48	ISD020	飾生	甕	—	7.8	—	底部細片	刷毛	ナテ	ナテ	未調整	—	淡灰茶褐色	細砂粒含	やや不良	—		21
49	ISD020	飾生	甕	—	8.0	—	底部細片	不明	ナテ	ナテ	刷毛	暗茶褐色	細砂粒多	やや不良	—	レンズ状底部	24	
50	ISD020	飾生	甕	—	—	—	細所	刷毛	横ナテ	—	—	—	法灰茶褐色	砂粒多	やや不良	「く」の字 端部に画面	口縁部に別々有	9
51	ISD020	加?	甕?	31.0	—	—	1/2	刷毛	刷毛	横ケズ リ刷毛	—	—	暗茶褐色	細砂粒多	やや不良	龍二重口縁	口縁部に画面	57
52	ISD020	加?	甕?	16.4	—	—	細所	横ナテ	刷毛	—	—	—	淡灰茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字		4
53	ISD020	加?	甕?	16.6	—	—	細所	横ナテ	—	—	—	—	暗茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字		12
54	ISD020	加?	甕?	15.0	—	—	細所	不明	刷毛?	不明	—	—	内:淡茶褐色 外:茶褐色	砂粒多	不良	「く」の字		11
55	ISD020	加?	甕?	—	—	—	体部のみ	刷毛	ナテ	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒多	やや不良	内凹合	内凹合	19
56	ISD020	土師	甕	20.0	25.0	24.0	ほぼ完形	横ナテ	刷毛	横ケズ リ	ナテ?	—	淡茶褐色	細砂粒多	やや不良	わざかに つまみ上げ	留系	56
57	ISD020	土師	甕	13.8	—	—	細所	横ナテ	刷毛	横ナテ	—	—	明茶褐色	砂粒多	やや不良	上外方に	ひらく	46
58	ISD020	土師	甕	12.0	—	—	細所	横ナテ	刷毛	横ナテ	—	—	淡茶褐色	砂粒多	やや不良	外溝		45
59	ISD020	土師	甕	—	—	—	体部1/3	ナテ?	ナテ?	横ケズ リ	—	—	暗茶褐色	細砂粒 少含	やや不良	粗面	粗面	47
60	ISD020	加?	甕	28.0	—	—	13絲部 1/3	刷毛	横ケズ リ	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	不良	「く」の字		5
61	ISD020	土師	洗鉢	14.6	—	3.8	1/4	横ナテ	横ナテ	横ナテ?	横ナテ?	—	茶褐色	粗砂粒	真	大きくて 方にからく		38
62	ISD020	土師	洗鉢	17.6	—	4.6	1/3	横ナテ	横ナテ	不明	不明	—	内:淡茶褐色 外:淡茶褐色	細砂粒を 少量含	やや不良	大きくて 方にからく		39
63	ISD020	土師	洗鉢	10.0	—	3.1	1/2	横ナテ	ナテ	横ナテ	ナテ?	—	粗面	粗砂粒 少含	精良	わざかに 内溝		40
64	ISD020	飾生	洗鉢	—	—	—	細所	丹塗り	丹塗り	丹塗り	丹塗り	—	淡灰茶褐色	細砂粒多	やや不良	上外方に	ひらく	27
65	ISD020	土師	甕?	11.0	—	7.1	1/2	横ナテ	ナテ?	ナテ?	ナテ?	—	暗茶褐色	粗砂粒多	精良	上外方に	ひらく	42
66	ISD020	土師	甕	12.0	—	—	細所	横ナテ	刷毛	不明	—	—	暗茶褐色	細砂粒多	やや良	上外方に	ひらく	41
67	ISD020	飾生	甕	17.6	7.0	9.0	1/3	横ナテ	刷毛	不明	不明	—	淡茶褐色	粗砂粒 少含	不良	わざかに 内溝		3
68	ISD020	土師	洗鉢	8.7	3.9	6.5	1/3	横ナテ	刷毛	丹ナテ	丹ナテ	—	淡乳茶褐色	精良	やや良	内溝内側に 立ちちがる	外間に黒斑あり	44
69	ISD020	土師	器台	—	—	—	細所	横ナテ	—	—	—	—	内:淡茶褐色 外:淡茶褐色	精良	やや良	上外方に	ひらく	49
70	ISD020	飾生	器台	—	—	—	細所	横ナテ	不明	不明	—	—	明茶褐色	細砂粒 少含	不良	端部に画面		26
71	ISD020	飾生	器台	14.0	—	—	細所	横ナテ	刷毛	刷毛 絞り	—	—	淡灰茶褐色	細砂粒多	不良	外へひらく 渠あり	口縁部に沈線状凹み	1
72	ISD020	飾生	器台	—	15.0	—	細所	—	—	ナテ?	—	—	淡灰茶褐色	細砂粒多	不良	—		2
73	ISD020	土師	高耳	19.3	—	—	端部定形	横ナテ	横ナテ	眞ミガ キ	不明	—	淡灰茶褐色	精良	良	上外方に	ひらく	35
74	ISD020	飾生	高耳	—	—	—	細所	丹塗り	—	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒多	不良	T字	丹塗り	28
75	ISD020	土師	高耳	—	—	—	脚部細片	ナテ?	不明	—	—	—	明茶褐色	細砂粒含	不良	—		36
76	ISD020	土師	高耳	—	—	—	細所	—	—	不明	不明	—	淡茶褐色	精良	やや不良	—	底端部に画面	48
77	ISD020	土師	角	—	9.4	—	右部片	—	—	ナテ	ナテ	—	暗茶褐色	細砂粒多	精良	やや良		37
78	ISD020	土師 +?	脚	7.3	—	3.2	手づく ね	手づく ね	手づく ね	手づく ね	手づく ね	—	暗茶褐色	砂粒を 少含	やや不良	上方に立 上がる	口縁部は液状に乱れて いる	51
79	ISD020	土師 +?	脚	4.6	—	3.2	定形	手づく ね	手づく ね	手づく ね	手づく ね	手づく ね	明茶褐色 +淡黒色	精良	やや良	外溝		43
80	ISD020	飾生	画面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		32

Tab.2 出土遺物観察表②

No	遺物	種別	器種	口径	底径	基高	残存	口縁部	抹外面	体外面	内底面	外底面	色調	釉土	焼成	口縁部 形 状	備 考	R-N
81	1SD20	角生	面子	…	…	…												34
82	1SD20	角生	面子	…	…	…												33
83	1SD20	角生	面子	…	…	…												31
84	1SD20	土師	支脚	…	…	…	細片	手づく ね		手づく ね	手づく ね	淡茶褐色	砂質多 極少量含	やや良				50
85	1SD20	砂岩	磁石															52
86	1SD20	陶瓦	瓦片															54
87	1SD18	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	横ナ テ?			内:淡褐色 外:深灰褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	透L字	凸曲げ部の内面をわすか につまみだす		2	
88	1SD18	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	不明			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	透L字	端部下の方り		1	
89	1SD18	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	不明			暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字			5	
90	1SD18	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	不明			暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	口縁部は肥厚		8	
91	1SD18	角生	裏	25.4	…	…	口縁部 1/8	横ナテ 刷毛	不明		淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字			7	
92	1SD18	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	不明			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	断部内側にゆるい縦線有		3	
93	1SD18	角生	裏?	…	…	…	口縁部細片	不明			淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字			17	
94	1SD18	角生	裏	25.8	…	…	口縁部 1/5	不明			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	口縁部はやや肥厚		6	
95	1SD18	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	不明			内:淡褐色 外:深灰褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	口縁部は上方へつま みだす		10	
96	1SD18	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	横ナテ 刷毛			内:淡褐色 外:深灰褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	口縁部は外方へつま みだす		9	
97	1SD18	角生	裏?	…	…	…	口縁部細片	不明			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字			20	
98	1SD18	角生	裏	…	…	…	底部1/4	…	不明	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	内:乳白色 外:黒色	金雲母・ 角閃石含	良		12
99	1SD18	角生	裏	…	…	…	底部細片	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	内:淡茶色 外:淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良		16
100	1SD18	角生	裏	…	…	…	底部細片	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	内:淡褐色 外:黑色	金雲母・ 角閃石含	良		13
101	1SD18	角生	裏	…	…	…	底部細片	不明	不明		内:淡褐色 外:淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良				11	
102	1SD18	角生	裏	…	…	…	底部細片	不明	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良				14	
103	1SD18	角生	裏	…	…	…	底部細片	不明	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良			R-14と同一?	15	
104	1SD18	角生	裏	…	…	…	底部細片	不明	不明	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	内:淡褐色 外:灰褐色	金雲母・ 角閃石含	良	口縁部の面に強い沈着 有	22
105	1SD18	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	刷毛	内:淡褐色 外:灰褐色	金雲母・ 角閃石含	良				21	
106	1SD18	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	横ナテ			乳白色	金雲母・ 角閃石含	良				23	
107	1SD18	角生	面子								上面:淡褐色 下面:暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良					
108	1SD18	角生	裏	…	…	…	体部細片	…			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良		焼成後に内外から穿孔		18	
109	1SD18	角生	裏	…	…	…	体部細片	印記?			内:黑色 外:褐色	金雲母・ 細砂粒含	良				19	
110	1SD18	角生	虹吸								淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良				24	
111	1SD23	角生	裏	…	…	…	細片	横ナテ	刷毛?	不明	淡褐色	細砂粒多 含	不良	端部に面有 れ	口縁下端部を外方へつま みだす		1	
112	1SD23	角生	裏	…	…	…	細片	…	不明	不明	淡茶褐色	細砂粒少 含	やや不良		三内窓有		3	
113	1SD23	角生	裏?	…	…	…	底部細片	ナテ?	不明		淡灰茶褐色	細砂粒少 含	やや不良				2	
114	1SD23	角生	裏	9.0	…	…	底部細片	刷毛	ナテ	ナテ	淡茶褐色	細砂粒少 含	やや不良				4	
115	1SD23	角生	裏	…	…	…	底部細片	ナテ	ナテ	ナテ	淡灰茶褐色	細砂粒少 含	やや良				5	
116	1SD24	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	横ナテ			淡茶色	砂質多	良	透L字	凸曲げ部の内面を内側に つまみだす		2	
117	1SD24	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	横ナテ			薄茶色	砂質多	良	透L字	凸曲げ部の内面を内側に つまみだす		1	
118	1SD24	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	横ナテ			淡灰白色	砂質多	良	「く」の字			5	
119	1SD24	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	横ナテ			淡灰白色	砂質多	良	「く」の字	凸曲げ部の内面にゆるい 縦線有		6	
120	1SD24	角生	裏	…	…	…	口縁部細片	横ナテ			淡黃白色	砂質多	良	「く」の字	凸曲げ部の内面にゆるい 縦線有		3	

Tab.3 出土遺物観察表③

No	造形	種類	器種	口径	底径	高さ	残存	口縁部	外表面	内表面	内底面	外底面	色調	釉上	施釉	口沿部 形・状 成端部に面 有	備考	R-N
III	ISD41	隼生	器台	---	---	---	武部細片	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	暗茶黒色	砂粒多	良	底端部に面有	底端部の前は接地しない	4	
III	ISD41	隼生	鉢	---	---	---	口縁部細片	横ナデ	刷毛	刷毛	---	暗茶黒色	砂粒多	良	外反	端部は外方へつまみだす	7	
III	ISD41	隼生	鉢	---	---	---	口縁部細片	横ナデ	刷毛	刷毛	---	暗茶黒色	砂粒多	良	外反	端部は外方へつまみだす	8	
III	ISD41	隼生	皿子	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	良	---	---	9	
III	ISD41	隼生	皿子	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	良	---	---	10	
III	ISD57	隼生	甕	31.4	---	---	口縁部 1/8	横ナデ	---	---	---	暗茶色	金雲母、 角閃石合	良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側に つまみだす	5	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	内:暗茶色 外:暗茶色	金雲母、 角閃石合	良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側に つまみだす	3	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	暗茶色	金雲母、 角閃石合	良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側に つまみだす	7	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	暗茶色	金雲母、 角閃石合	良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側に つまみだす	6	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	内:暗茶色 外:淡茶色	金雲母、 角閃石合	良	小さな 逆L字	舟曲げ部の内面を内側に つまみだす	4	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	暗茶色	金雲母、 角閃石合	良	「く」の字	---	10	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	暗茶色	金雲母、 角閃石合	良	「く」の字	---	8	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	暗茶色	金雲母、 角閃石合	良	「く」の字	---	9	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	内:暗茶色 外:外洋色	金雲母、 砂粒多	良	「く」の字	---	12	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	暗茶色	金雲母、 砂粒多	良	「く」の字	---	11	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	暗茶色	金雲母、 砂粒多	良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側に つまみだす	1	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	暗茶色	金雲母、 砂粒多	良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側に つまみだす	2	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	底部3/8	刷毛	不明	不明	ナデ	暗茶色	金雲母、 角閃石合	良	暗茶色	舟曲げ部の内面を内側に つまみだす	16	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	底部細片	刷毛	不明	不明	ナデ	暗茶色	金雲母、 砂粒多	良	暗茶色	舟曲げ部の内面を内側に つまみだす	17	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	横ナデ	---	---	---	暗茶色	金雲母、 砂粒多	良	上外方へ ひらく	口縁部に面有	15	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	底部細片	刷毛	不明	不明	不明	暗茶色	金雲母、 砂粒多	良	底端部の前は接地しない	---	13	
III	ISD57	隼生	甕	---	---	---	底部細片	不明	不明	不明	不明	内:暗茶色 外:淡茶色	金雲母、 砂粒多	良	底端部の前は接地する	---	14	
III	ISD67	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	横ナデ	---	---	---	暗茶色	金雲母、 砂粒多	良	「く」の字	---	1	
III	ISD67	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	横ナデ	---	---	---	暗茶色	金雲母、 砂粒多	良	「く」の字	---	3	
III	ISD67	隼生	甕	---	---	---	底部細片	---	---	---	---	暗茶色	金雲母、 砂粒多	良	「く」の字	---	2	
III	ISD67	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	横ナデ	---	---	---	暗茶色	金雲母、 砂粒多	良	「く」の字	---	6	
III	ISD67	隼生	甕	8.0	---	---	底部1/2	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	暗茶色	金雲母、 角閃石合	良	「く」の字	---	7	
III	ISD67	隼生	甕	8.0	---	---	底部のみ	ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	暗茶色	金雲母、 角閃石合	良	「く」の字	---	8	
III	ISD67	隼生	高耳	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	暗茶色	金雲母少	良	T字	---	4	
III	ISD67	隼生	器台	13.4	---	---	底部1/10	---	---	---	---	暗茶色	金雲母少	良	底端部の前は接地しない	---	9	
III	ISB082	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	横ナデ	---	---	---	暗茶色	金雲母、 砂粒多	良	底端部の前は接地しない	---	1	
III	ISB082	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	横ナデ	---	---	---	乳灰褐色	金雲母、 砂粒多	良	内:霧氣体	---	1	
III	ISB082	隼生	鉢	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	明赤褐色	砂粒較多	不良	「く」の字 舟審り?	---	1	
III	ISB082	隼生	鉢	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	暗赤褐色	砂粒較多	不良	「く」の字 舟審り?	2	2	
III	ISB082	隼生	大甕	12.0	---	---	底部細片	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	暗茶褐色	砂粒較多	やや良	砂粒少	---	6	
III	ISB082	隼生	高耳	---	---	---	口縁部細片	横ナデ	---	---	---	暗茶褐色	砂粒較少	不良	端部に面有	舟審りに舟審り! 条有	3	
III	ISB082	隼生	高耳	---	---	---	口縁部細片	横ナデ	---	---	---	内:暗茶褐色 外:淡茶色	砂粒較少	不良	端部に面有	舟審り	4	
III	ISB082	隼生	器台	---	---	---	口縁部細片	横ナデ	---	---	---	乳灰褐色	砂粒較多	不良	端部に面有	舟審り	5	
III	ISB082	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	暗茶褐色	砂粒較多	不良	端部に面有	舟審り	33-1	
III	ISB082	隼生	甕	---	---	---	口縁部細片	不明	---	---	---	暗茶褐色	砂粒較多	不良	「く」の字 舟審り?	33-2	33-2	

Tab.4 出土遺物觀察表④

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外側	体内側	内底面	外底面	色調	粒上	焼成	口縁部 形・状	備考	R-No.
II-1	ISH22	角生	鉢?	—	—	—	口縁部断片	織ナテ	刷毛			明赤褐色	ほば頬良	不良	「く」の字 端部に面有		33-4	
II-2	ISH22	角生	甕?	—	—	—	体部断片		不明	ナデ		淡茶褐色	織砂粒合	不良	M字突带有		33-5	
II-3	ISH22	角生	甕?	—	—	8.5	底部片	不明	不明	不明	不明	法茶褐色	砂粒少	不良			33-3	
II-4	ISH20	角生	甕?	—	—	24.0	底部片	織ナテ	不明	不明		淡茶褐色— 淡灰褐色	織砂粒多	不良	「く」の字		1	
II-5	ISH20	角生	甕?	—	—	—	底部片	織ナテ	刷毛	ナデ		淡灰茶褐色	織砂粒多	やや良	「く」の字		2	
II-6	ISH20	角生	甕?	—	—	—	底部片	不明	不明	不明		淡灰茶褐色	織砂粒少	不良	T字	丹焼り 2mm大の砂粒を含む	3	
II-7	ISH20	角生	甕?	—	—	10.0	底部断片	不明	不明	不明	不明	内:淡灰褐色 外:淡茶褐色	砂粒少	不良			4	
II-8	ISH20	角生	甕?	—	—	—	—	—	—	—	内:茶褐色 外:褐色	織砂粒少	やや不良				5	
II-9	ISH20	角生	甕?	—	—	—	—	織ナテ				—	—	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす		1	
II-10	ISH20	角生	柱桶	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		1	
II-11	ISH20	角生	甕?	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	170と組み合わせる	2	
II-12	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	織ナテ				淡橙褐色	金雲母· 織砂粒合	良	逆L字	新曲げ部の内面を内側に つまみだす	3	
II-13	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	織ナテ				淡橙褐色	金雲母· 織砂粒合	良	逆L字	新曲げ部の内面を内側に つまみだす	4	
II-14	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	織ナテ	刷毛	ナデ		内:淡橙褐色 外:暗褐色	織砂粒合	良	逆L字	新曲げ部の内面を内側に つまみだす	2	
II-15	ISK45	角生	甕?	—	—	31.0	口縁部 1/8	織ナテ	刷毛	ナデ		淡橙褐色	金雲母· 織砂粒合	良	逆L字	新曲げ部の内面を内側に つまみだす	1	
II-16	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	織ナテ				暗乳灰色	金雲母· 織砂粒合	良	「く」の字	瓶底内側にゆるい接線有	5	
II-17	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	織ナテ				乳褐色	金雲母· 織砂粒合	良	「く」の字	全表面丹焼り	15	
II-18	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	不明				淡乳茶色	金雲母· 織砂粒合	やや不良	「く」の字	瓶底内側にゆるい接線有	6	
II-19	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	不明				淡乳灰色	金雲母· 織砂粒合	良	「く」の字	瓶底内側にゆるい接線有	7	
II-20	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	露ミガキ				乳褐色	ほば頬良	良	「く」の字 端部に面有 「く」の字	全面丹焼り	14	
II-21	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	不明				内:明乳茶色 外:淡乳灰色	織良	良			8	
II-22	ISK45	角生	甕?	—	—	—	体部断片		不明	不明		金雲母· 織砂粒合	金雲母· 織砂粒合	良		貼付突带有	12	
II-23	ISK45	角生	甕?	—	—	—	体部断片		不明	不明		乳灰色	金雲母· 織砂粒合	良		外表面張り	16	
II-24	ISK45	角生	甕?	—	—	—	体部断片	ナデ	ナデ			淡乳褐色	金雲母· 織砂粒合	良			10	
II-25	ISK45	角生	甕?	—	—	9.4	底部1/6	刷毛	ナデ	ナケ	不明	暗褐色	金雲母· 織砂粒合	良			9	
II-26	ISK45	角生	甕?	—	—	8.1	底部1/4	刷毛	ナデ	ナケ	不明	暗褐色	金雲母· 織砂粒合	良			11	
II-27	ISK45	角生	甕?	—	—	—	底部断片	刷毛	織ナテ	織ナデ	織ナデ	内:暗褐色 外:淡乳褐色	金雲母· 織砂粒合	良		底部に面有 底部に接続しない	18	
II-28	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	織ナテ	ナデ	ナデ		乳褐色	金雲母· 織砂粒合	良	T字	全表面丹焼り	17	
II-29	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	不明	不明	不明		乳褐色	金雲母· 織砂粒合	良	T字	全面丹焼り	19	
II-30	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	不明				乳褐色	金雲母· 織砂粒合	良	T字		13	
II-31	ISK45	角?	柱罐	—	—	—	—	—	—	—	赤褐色	ほば頬良	良				21	
II-32	ISK45	角生	甕?	—	—	—	体部断片		不明	不明		砂粒多· 金雲母少	金雲母少	良	逆L字?	新曲げ部の内面を内側に つまみだす	3	
II-33	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片		不明			暗褐色	金雲母· 織砂粒合	良	「く」の字		7	
II-34	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片		不明			暗褐色	金雲母· 織砂粒合	良	「く」の字		4	
II-35	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	織ナテ				暗褐色	金雲母· 織砂粒合	良	「く」の字		5	
II-36	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	織ナテ	ナデ	ナデ		淡褐色	金雲母· 織砂粒合	良	「く」の字		6	
II-37	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	織ナテ				暗褐色	金雲母· 織砂粒合	良	「く」の字		8	
II-38	ISK45	角生	甕?	—	—	11.0	底部1/4	刷毛		ナデ	ナデ	乳褐色	金雲母· 織砂粒合	良			1	
II-39	ISK45	角生	甕?	—	—	11.4	底部1/4	刷毛				乳褐色	砂粒多· 金雲母少	良	T字	全面丹焼り	9	
II-40	ISK45	角生	甕?	—	—	—	口縁部断片	不明				乳褐色	金雲母· 織砂粒合	良	T字		10	

Tab.5 出土遺物観察表⑤

No.	遺物	種別	基盤	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外観	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	地成	口縁部形状	備考	R-No.
30	ISK05 1号	舟生	高環	29.0	…	…	口縁部 1/6	不明	…	…	…	…	乳白色	細良	丁字	全面丹塗り		2
30	ISK05 1号	舟生	蓋合	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	刷毛	刷毛	…	…	暗褐色	細良	端部に剥有		12	
30	ISK05 1号	舟生	蓋合	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	刷毛	刷毛	…	…	暗褐色	細良	端部に剥有		11	
30	ISK05 1号	舟生	蓋	21.2	…	…	口縁部 1/8	横ナデ	刷毛	ナデ	…	…	金雲母・ 角閃石含	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	壁厚が厚い	2
30	ISK05 1号	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字		3
30	ISK05 1号	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字		8
30	ISK05 1号	舟生	蓋	32.0	…	…	口縁部 1/6	横ナデ	刷毛	ナデ	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	所曲げ部の内側を内側に 端部下がり	1
30	ISK05 1号	舟生	蓋	7.6	…	…	底部 1/4	…	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	内側には厚くヌスが付着		5
30	ISK05 1号	舟生	蓋	6.8	…	…	底部 1/4	…	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	内側には厚くヌスが付着		6
30	ISK05 1号	舟生	蓋	10.7	…	…	底部 1/4	…	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	内側には厚くヌスが付着		4
30	ISK05 1号	舟生	蓋	9.5	…	…	底部 1/8	…	刷毛	ナデ	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	内側には厚くヌスが付着		7
30	ISK05 1号	舟生	高環	26.8	…	…	口縁部 1/6	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	全面丹塗り 环体部に三 点突起1条有	10
30	ISK05 1号	舟生	高環	…	…	…	口縁部断片	…	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	丁字	丹拂り	11
24	ISK05 II型	舟生	特集	…	…	…	…	…	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	外側丹塗り		9
24	ISK05 II型	舟生	蓋合	…	…	…	…	…	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	外側丹塗り		7
24	ISK05 II型	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	所曲げ部の内側に明顯な鉛錆有	7
24	ISK05 II型	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	所曲げ部は上方につまみ上!?	3
24	ISK05 II型	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	所曲げ部にゆるい鉛錆有	6
24	ISK05 II型	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	外側丹塗り	9
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	所曲げ部の内側を内側に 反上がり	2
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	全面丹塗り	20
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	所曲げ部の内側に明顯な鉛錆有	4
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	逆L字	5
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	所曲げ部の内側を内側に 反上がり	1
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	全面丹塗り	11
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	内側に薄く墨が付着	12
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	34.0	…	…	口縁部 1/8	横ナデ	刷毛	ナデ	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	逆L字	17
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	34.0	…	…	口縁部 1/3	横ナデ	刷毛	ナデ	…	…	暗褐色	金雲母小 角閃石多	良	逆L字	所曲げ部の内側を内側に 反上がり	1
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	8.0	…	…	底部 1/4	…	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	内側に薄く墨が付着		14
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	8.8	…	…	底部 1/6	…	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	内側・外側ともに薄く墨 が付着		13
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	8.1	…	…	底部 1/4	…	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字		15
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	底部断片	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	内側・外側ともに薄く墨 が付着		16
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	底部断片	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	内側・外側ともに薄く墨 が付着		19
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	底部断片	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	端部欠損	体外側に突起1条有	18
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	底部断片	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	端部欠損		10
28	ISK05 田畠	舟生	軸	…	…	…	定形	…	…	…	…	…	暗褐色	細良	逆L字			21
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	27.2	…	…	口縁部 1/4	横ナデ	刷毛	ナデ	…	…	内:乳褐色 外:深褐色	3mm大の 砂利多	良	逆L字	所曲げ部の内側をわずか につまみだす	檢3
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	…	…	…	…	…	暗褐色	細良	逆L字	所曲げ部の内側を内側に つまみだす	檢1	
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	…	…	…	…	…	暗褐色	細良	逆L字	内側全体に墨の付着によ る剥落有	檢5	
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	29.2	…	…	口縁部 1/8	横ナデ	刷毛	ナデ	…	…	内:淡乳褐色 外:黑色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	所曲げ部の内側を内側に つまみだす	檢4
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	…	…	…	…	…	明る褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	所曲げ部の内側を内側に つまみだす	檢2
28	ISK05 田畠	舟生	蓋	…	…	…	口縁部断片	…	…	…	…	…	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字		2

Tab.6 出土遺物観察表⑥

No	遺物	種別	各種	口径	底径	高さ	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	触土	焼成	口縁部 形・状	備考	R-No	
16	ISK10 棲居面	角生	裏	…	…	…	…	体部断片	不明	不明	内:淡褐色 外:黑色	内:四石合	金雲母 金雲母	良		突堤2 条有	檢6		
16	ISK10 棲居面	角生	裏	…	…	…	…	体部断片	不明	不明	内:淡褐色 外:黑色	内:四石合	金雲母 金雲母	良			1		
16	ISK10 棲居面	角生	裏	…	…	9.8	…		刷毛	ナデ	ナデ	内:淡褐色 外:茶褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	裏面に黒斑?		3	
16	ISK10 棲居面	角生	裏	…	…	…	…	底部断片	不明	不明	不明	不明	棕褐色 棕褐色	良		底端部に裏面の底部の痕跡地にない		667	
16	ISK10 1号	角生	裏?	…	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	刷毛	ナデ	内:淡褐色 外:黑色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	逆L字	前面外側の裏面による光沢有 ISK10-R-2と同	1	
16	ISK10 1号	角生	裏?	…	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	不明	ナデ	内:淡褐色 外:茶褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	逆L字	口縁部上面はくぼむ	3	
16	ISK10 1号	角生	裏	…	…	…	…	口縁部断片	不明	…	…	内:淡褐色 外:暗褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	L字?		2	
16	ISK10 1号	角生	裏	…	…	…	…	底面部のみ	刷毛?	ナデ	ナデ	内:淡褐色 外:暗褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良		焼成後、底部に外側から空気入り	4	
16	ISK10 1号	角生	高坪	24.9	…	…	…	口縁部 1/6	不明	不明	不明	…	…	…	…	…	…	5	
16	ISK10 1号	角生	裏	…	…	…	…	底面部断片	刷毛	不明	不明	横ナデ	内:淡褐色 外:黑色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	底端部に裏面の痕跡地にない	6	
16	ISK10 1号	角生	裏	…	…	…	…	底面部断片	刷毛?	ナデ	ナデ	内:淡褐色 外:茶褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	前曲げ部の内面をわずかにつまみだす		7	
16	ISK10 1号	角生	裏	…	…	30.8	…	口縁部 1/8	横ナデ	不明	ナデ	内:淡褐色 外:茶褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	逆L字	一部外側に残存	3	
16	ISK10 1号	角生	裏	…	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	刷毛	ナデ	内:淡褐色 外:茶褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	…	ISK10-1号 R-2と同	1	
16	ISK10 1号	角生	裏	…	…	29.8	…	口縁部 1/5	横ナデ	刷毛	ナデ	内:茶褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	「く」の字	口縁部を上方につまみ上げる	4	
16	ISK10 1号	角生	裏	…	…	…	…	口縁部断片	不明	不明	不明	内:茶褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	「く」の字		2	
16	ISK10 1号	角生	高坪	24.5	…	…	…	口縁部 1/8	不明	不明	不明	…	…	…	…	一部外側に残存		5	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	32.8	…	断片	横ナデ	刷毛	ナデ	内:淡褐色 外:茶褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	逆L字	前曲げ部の内面を内側につまみだす	15	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	…	…	断片	横ナデ	刷毛	ナデ	内:淡褐色 外:茶褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	…	ISK10-1号 R-2と同	1	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	…	…	断片	横ナデ	刷毛	ナデ	内:茶褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	「く」の字	口縁部を上方につまみ上げる	4	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	…	…	断片	横ナデ	刷毛?	ナデ	内:茶褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	…		2	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	…	…	口縁部 1/3	横ナデ	不明	ナデ	内:茶褐色	内:四石合	金雲母 金雲母	良	…	一部外側に残存	5	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	30.8	…	口縁部 1/2	丹波り	丹波り	不明	明褐色	内:四石合	丹波り 丹波り	不良	逆L字	丹波り M字突起有	13	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	32.0	…	断片	横ナデ	刷毛	ナデ	内:淡褐色	内:四石合	丹波り 丹波り	不良	逆L字	丹波り M字突起有	18	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	…	…	断片	横ナデ	刷毛?	不明	内:淡褐色	内:四石合	丹波り 丹波り	不良	逆L字	丹波り M字突起有	19	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	30.9	…	上半部	横ナデ	ナデ	ナデ	内:茶褐色	内:四石合	丹波り 丹波り	やや不良	逆L字	丹波り M字突起有	17	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	30.4	…	口縁部 1/3	横ナデ	不明	横ナデ	内:茶褐色	内:四石合	丹波り 丹波り	不良	逆L字	丹波り M字突起有	14	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	30.8	…	口縁部 1/2	丹波り	丹波り	不明	明褐色	内:四石合	丹波り 丹波り	不良	逆L字	丹波り M字突起有	13	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	32.0	…	断片	横ナデ	刷毛	ナデ	内:淡褐色	内:四石合	丹波り 丹波り	不良	逆L字	丹波り M字突起有	16	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	21.0	…	断片	横ナデ	刷毛	ナデ	内:茶褐色	内:四石合	丹波り 丹波り	やや不良	逆L字	丹波り M字突起有	21	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	…	…	断片	横ナデ	刷毛?	ナデ	内:茶褐色	内:四石合	丹波り 丹波り	不良	…	内:茶褐色の内面を内側につまみだす	25	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	7.0	…	底面部のみ	ナデ?	ナデ	ナデ	未調整	明褐色	丹波り 丹波り	やや不良		丹波り M字突起有	12	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	7.4	…	底面部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	内:淡褐色 外:暗褐色	丹波り 丹波り	やや不良	…	丹波り M字突起有	10	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	10.0	…	底面部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	内:茶褐色	内:四石合	丹波り 丹波り	やや不良	…	丹波り M字突起有	11
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	7.4	…	底面部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	未調整	茶褐色	丹波り 丹波り	やや不良		…	9	
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	14.2	…	断片	丹波り	丹波り	不明	丹波り	丹波り 丹波り	やや不良	…	丹波り M字突起有	8		
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	15.0	3.8	1/5	丹波り	丹波り	不明	丹波り	丹波り 丹波り	やや不良	…	丹波り M字突起有	7		
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	16.0	…	断片	横ナデ	不明	不明	丹波り	丹波り 丹波り	やや不良	…	丹波り M字突起有	1		
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	…	…	…	…	…	…	茶褐色	丹波り 丹波り	やや不良			29		
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	…	…	…	…	…	…	暗褐色	丹波り 丹波り	やや不良			28		
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	…	…	…	…	…	…	暗褐色	丹波り 丹波り	やや不良			26		
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	…	…	…	…	…	…	内:淡褐色 外:暗褐色	丹波り 丹波り	やや不良			27		
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	…	…	…	…	…	…	内:茶褐色 外:暗褐色	丹波り 丹波り	やや不良			30		
16	ISK25 裏	角生	裏	…	…	13.0	…	…	断片	横ナデ	刷毛	刷毛	内:茶褐色	内:四石合	丹波り 丹波り	やや不良	端部に面有	口縁下端部を外方へつまみ出す	4

Tab.7 出土遺物観察表⑦

No.	遺物	種別	器種	口径	底径	高さ	残存	口縁部	体外観	体内面	内底面	外底面	色調	釉上	焼成	口縁部形状	備考	R-No.	
26	ISK25	兔生	器台	12.6	—	—	細片	横ナデ	刷毛	刷毛	—	—	明茶褐色	細砂粒合	不良	端部に面有 みます	口縁下端部を外方へつま みます	2	
27	ISK25	兔生	器台	12.0	—	—	細片	横ナデ	刷毛	刷毛 ナデ	—	—	淡茶褐色	細砂粒多	不良	端部に面有	—	3	
28	ISK25	兔生	器台?	—	—	—	細片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	—	内: 淡茶褐色 外: 淡茶褐色	細砂粒多 角円石合	やや不良	外方に立ちあがる	端部に面有	24	
29	ISK25	兔生	器台?	—	—	—	細片	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	横ナデ	淡茶褐色	細砂粒多	不良	底端部に面有	—	5	
30	ISK25	兔生	器台	—	—	12.0	—	細片	—	刷毛	刷毛	—	—	淡茶褐色	—	—	底端部に面有	—	6
31	ISK25	兔生	器台	—	—	13.4	—	細片	—	刷毛	刷毛	—	横ナデ	淡茶褐色	—	—	底端部に面有	—	56
32	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	—	淡茶褐色	細砂粒多	不良	—	—	61	
33	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	刷毛	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	やや不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に つまみます	—	56
34	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	やや不良	丁字	—	61	
35	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	刷毛	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	56
36	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	口縁部下面に墨付有	—	66
37	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	刷毛	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒多	不良	逆二字	口縁部下面に墨付有	—	64
38	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	刷毛	横ナデ	—	—	淡茶褐色	細砂粒多	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に つまみます	—	60
39	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	刷毛	横ナデ	—	—	淡茶褐色	細砂粒多	やや不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	65
40	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	刷毛	横ナデ	—	—	淡茶褐色	細砂粒少	不良	逆二字	—	65	
41	ISK26	兔生	器台	29.4	—	—	口縁1/8	横ナデ	不明	不明	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	59
42	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	—	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	100
43	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	—	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	57
44	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	不明	—	—	淡茶褐色	細砂粒多	やや不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	57
45	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	不明	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	97
46	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	108
47	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	63
48	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒多	やや不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	148
49	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒多	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	95
50	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	96
51	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	砂粒少	やや不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	149
52	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	砂粒少	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	99
53	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	明茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	62
54	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	砂粒少	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	109
55	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	砂粒少	やや不良	逆二字	体部に古形刷毛目有	—	110
56	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	砂粒少	不良	逆二字	体部に古形刷毛目有	—	68
57	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒多	不良	逆二字	「く」の字	—	82
58	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	所焼け部の内面を内側に 少量つまみます	—	58
59	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	「く」の字	—	83
60	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	「く」の字	—	79
61	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	やや不良	逆二字	「く」の字	—	86
62	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	「く」の字	—	73
63	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	砂粒少	やや不良	逆二字	「く」の字	—	101
64	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	「く」の字	—	72
65	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	「く」の字	—	71
66	ISK26	兔生	器台	—	—	—	細片	横ナデ	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒多	不良	逆二字	「く」の字	—	70
67	ISK26	兔生	器台	26.8	—	—	口縁1/6	—	不明	刷毛	不明	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	「く」の字	—	52
68	ISK26	兔生	器台	26.8	—	—	上平部	1/6	不明	不明	不明	—	淡茶褐色	細砂粒合	不良	逆二字	「く」の字	—	78
69	ISK26	兔生	器台	25.0	19.0	24.0	底部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	未調整	淡茶褐色	細砂粒多	不良	逆二字	「く」の字	—	77

Tab.8 出土遺物観察表⑧

No.	遺構	種別	基種	口径	底径	高さ	残存	口縁部	体外側	体内面	内底面	外底面	色調	触土	焼成	口縁部形状	備考	R-N.
32	ISK30	器物	甕	32.2	…	…	上半部	横ナデ	刷毛	刷毛ナデ			淡茶褐色	細砂粒合	不良	深い「く」の字		51
33	ISK30	器物	甕	25.0	…	…	細片	不明					淡茶褐色	細砂粒合	不良	深い「く」の字	口縁部は肥厚	92
34	ISK30	器物	甕	28.0	…	…	細片	横ナデ	横ナデ	不明			淡茶褐色	細砂粒少	やや良	「く」の字	瓶部内側にゆるい模様有	69
35	ISK30	器物	甕	34.0	…	…	口縁1/6	横ナデ	不明	不明			淡褐色	砂粒・雲母片多	不良	「く」の字	瓶部内側に明瞭な模様有	67
36	ISK30	器物	甕	25.2	…	…	細片	横ナデ					淡褐色	細砂粒少	やや良	「く」の字	口縁部に面有	90
37	ISK30	器物	甕	34.0	…	…	細片	横ナデ 刷毛					淡茶褐色	細砂粒合	やや不良	「く」の字	口縁部に面有	91
38	ISK30	器物	甕	…	…	…	細片	不明 刷毛		不明			淡褐色	細砂粒合	不良	「く」の字		94
39	ISK30	器物	甕	…	…	…	細片	横ナデ					淡褐色	砂粒・雲母片少	やや不良	「く」の字		102
40	ISK30	器物	甕	…	…	…	細片	横ナデ					淡褐色	細砂粒合	やや不良	「く」の字		104
41	ISK30	器物	甕	…	…	…	細片	横ナデ					淡褐色	細砂粒合	やや不良	「く」の字		85
42	ISK30	器物	甕	…	…	…	細片	横ナデ					淡褐色	細砂粒合	不良	「く」の字		105
43	ISK30	器物	甕	…	…	…	細片	横ナデ					淡茶褐色	細砂粒合	不良	瓶部に面有		103
44	ISK30	器物	甕	…	…	…	細片	横ナデ					淡茶褐色	細砂粒合	不良	「く」の字		81
45	ISK30	器物	甕	22.0	…	…	細片	横ナデ	刷毛?	不明			淡褐色	細砂粒合	不良	「く」の字	瓶部内側にゆるい模様有	75
46	ISK30	器物	甕	23.0	…	…	細片	横ナデ	刷毛?	不明			淡茶褐色	細砂粒合	不良	「く」の字		80
47	ISK30	器物	甕	26.0	…	…	細片	横ナデ	刷毛?	不明			淡茶褐色	砂粒少	不良	「く」の字	瓶部内側にゆるい模様有	76
48	ISK30	器物	甕	28.0	…	…	細片	横ナデ	刷毛?	不明			淡茶褐色	細砂粒合	不良	深い「く」の字		74
49	ISK30	器物	甕	22.4	…	…	細片	横ナデ	横ナデ	ナデ	外:乳茶色 内:小淡褐色	口沿精良	やや良	通字?	直立字?	つまみだす		87
50	ISK30	器物	甕	20.0	…	…	細片	横ナデ	刷毛	ナデ	淡茶褐色	細砂粒合	やや良	直立	口縁部はやや凹む		93	
51	ISK30	器物	甕	…	…	…	下半部	刷毛	ナデ				淡茶褐色	砂粒少	不良	「く」の字		111
52	ISK30	器物	甕	6.0	…	…	底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	細砂粒多	やや良	底部は深く押し込み 「上げ張」状にする		112	
53	ISK30	器物	甕	5.4	…	…	底部のみ	不明					淡茶褐色	細砂粒少	やや良	底部は深く押し込み 「上げ張」状にする		113
54	ISK30	器物	甕	5.6	…	…	底部のみ	ナデ	不明	不明	ナデ	乳茶色	砂粒少	やや不良			114	
55	ISK30	器物	甕	7.0	…	…	底腹片	不明	不明	ナデ	淡茶褐色	細砂粒合	やや良				137	
56	ISK30	器物	甕	8.0	…	…	底部のみ	刷毛	不明	未調整	淡茶褐色	細砂粒多	やや不良		底部の短径は27.2cm (平面部は横円)		122	
57	ISK30	器物	甕	5.8	…	…	底部1/4	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	やや良			133	
58	ISK30	器物	甕	6.0	…	…	底部1/4	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	細砂粒合	やや良			134	
59	ISK30	器物	甕	6.0	…	…	底部1/6	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	やや不良			128	
60	ISK30	器物	甕	7.0	…	…	底部1/6	不明	ナデ		不明	淡茶褐色	細砂粒合	不良			135	
61	ISK30	器物	甕	7.0	…	…	底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	細砂粒合	やや良			123	
62	ISK30	器物	甕	6.4	…	…	底部のみ	不明	不明	ナデ	ナデ	淡茶褐色	細砂粒多	不良			126	
63	ISK30	器物	甕	8.0	…	…	底部1/8	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	細砂粒合	良			127	
64	ISK30	器物	甕	8.0	…	…	底部1/4	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	細砂粒合	やや良			126	
65	ISK30	器物	甕	8.4	…	…	底部のみ	不明	ナデ	ナデ	ナデ	未調整	淡茶褐色	砂粒少	やや不良		119	
66	ISK30	器物	甕	9.0	…	…	底部のみ	刷毛	不明	不明	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	不良			118	
67	ISK30	器物	甕	10.4	…	…	底部1/4	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	細砂粒合	やや不良			131	
68	ISK30	器物	甕	9.6	…	…	底部のみ	不明	不明	不明	ナデ	淡茶褐色	細砂粒多	不良			121	
69	ISK30	器物	甕	9.8	…	…	底部1/6	刷毛	刷毛	ナデ	ナデ	淡茶褐色	細砂粒合	やや良		黒斑有	125	
70	ISK30	器物	甕	…	…	…	底部細片	不明	不明		不明	淡茶褐色	細砂粒合	不良			138	
71	ISK30	器物	甕	10.2	…	…	底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	未調整	淡茶褐色	細砂粒合	不良		黒斑有	116	

Tab.9 出土遺物観察表⑨

No	遺構	種別	基標	口徑	底径	高さ	残存	口縁部	体外側	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-Nr.	
30	1SK30	衛生	便	…	11.0	…	底部1/6	刷毛	不明	不明	ナデ	淡茶褐色	黒細砂粒含	不良				132	
30	1SK30	衛生	便	…	…	…	底部細片	不明	不明		不明	淡茶褐色	砂粒含	不良				141	
30	1SK30	衛生	便	…	12.0	…	底部1/8	刷毛	ナデ		ナデ	淡茶褐色	黒細砂粒含	やや不良				136	
30	1SK30	衛生	便	…	12.0	…	底部1/6	不明	不明		ナデ	淡茶褐色	黒細砂粒含	やや不良	黒斑有			130	
30	1SK30	衛生	便	…	5.0	…	底部のみ	刷毛	不明	不明	刷毛	暗茶褐色	砂粒多	不良				124	
30	1SK30	衛生	便	…	17.0	…	…	細片	横ナデ	刷毛	鐵ナデ	内:灰褐色 外:淡黃褐色	砂粒多	やや良	端部に歯有			55	
30	1SK30	衛生	便	…	16.0	…	…	横ナデ	横ナデ	刷毛		茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字			107	
30	1SK30	土師	便	…	17.4	…	…	細片	横ナデ	刷毛	鐵ナデ	暗茶褐色	3~5mm大 の砂粒含	やや良	端部に歯有	布施系? 口縁端部を小 さくつまみだす		54	
30	1SK30	土師	便	…	17.0	…	…	細片	横ナデ	刷毛	鐵ナデ	暗茶褐色	細砂粒・ 雲母片多	やや良	端部に歯有			53	
30	1SK30	衛生	便 or 糞	…	…	…	…	横ナデ	刷毛	ナデ		淡茶褐色	砂粒多	不良	通し字	折曲げ部の内面を内側に 少しつまみだす		94	
30	1SK30	衛生	糞	…	11.6	…	…	細片	不明	不明	不明	暗茶褐色	苔青片含	不良	「く」の字	口縁端部は上方へ小さく つまみだす		23	
30	1SK30	衛生	糞?	…	8.6	…	底部片	刷毛	ナデ		不明	淡茶褐色	細砂粒含	やや不良				129	
30	1SK30	衛生	糞?	…	7.6	…	底部のみ	刷毛	不明	不明	ナデ	茶褐色	細砂粒多	不良				115	
30	1SK30	衛生	糞	…	26.0	…	…	細片	横ナデ	不明		淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	逆し字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす		89	
30	1SK30	衛生	糞	…	24.0	…	…	細片	不明	不明		暗茶褐色	細砂粒	不良	深い 「く」の字			88	
30	1SK30	衛生	糞	…	14.6	…	5.7	細片	横ナデ	ナデ	不明	風景色一 茶褐色	細砂粒	不良	大きく上外 方に伸びる			22	
30	1SK30	衛生	糞	…	16.0	…	4.0	細片	横ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色一 淡茶褐色	細砂粒	やや不良	大きく上外 方にひらく			21	
30	1SK30	衛生	糞	…	18.4	…	…	細片	横ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	黒細砂粒多	やや良	締めやかに 押さえ有	口縁端部下に凹状の 押さえ有		14	
30	1SK30	衛生	糞	…	18.4	…	…	細片	横ナデ	ナデ	不明	淡茶褐色	黒細砂粒多	やや不良	締めやかに 内側			12	
30	1SK30	衛生	糞	…	19.0	…	…	細片	不明	不明	不明	淡茶褐色	黒細砂粒多	やや不良	締めやかに 内側			13	
30	1SK30	衛生	糞	…	6.0	…	…	細片	刷毛	刷毛	ナデ	淡茶褐色	黒細砂粒多	やや良	締めやかに 内側			16	
30	1SK30	衛生	糞	…	…	…	…	細片	横ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	黒細砂粒多	やや良	締めやかに 内側			15	
30	1SK30	衛生	糞	…	…	…	1/6	不明	ナデ	不明	不明	暗茶褐色	黒細砂粒多	不良	端部で内側			18	
30	1SK30	衛生	糞?	…	…	…	底部細片	ナデ	不明		ナデ	暗茶褐色	砂粒多	やや良				142	
30	1SK30	衛生	糞?	…	7.6	…	底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	明茶褐色	黒細砂粒含	やや不良				117	
30	1SK30	衛生	糞	…	25.4	…	…	細片	横ナデ	尾ミガ ナデ	不明		淡茶褐色	砂粒多	不良	内側に粗糸 丹塗り		20	
30	1SK30	衛生	糞	…	33.0	…	…	環部定形	丹塗り	丹塗り	丹塗り	淡茶褐色	尾ミガ	不良	丁字?	端部に歯有		1	
30	1SK30	衛生	糞	…	21.0	…	…	環部ほぼ完 封	丹塗り	丹塗り	丹塗り	淡茶褐色	尾ミガ	不良	丁字?			2	
30	1SK30	衛生	糞	…	20.0	…	…	脚部細片	不明	シロ目		黄褐色	黒細砂粒 多	不良	大きく外反			3	
30	1SK30	衛生	糞	…	19.0	…	…	脚部細片	月巻リ	シロ目		淡茶褐色	黒細砂粒 多	不良	口縁下端部を外方へつま みだす			19	
30	1SK30	衛生	糞?	…	18.0	…	…	脚部細片	刷毛			淡茶褐色	黒細砂粒 多	不良	端部はけ面が後退する			4	
30	1SK30	衛生	糞	…	18.0	…	…	脚部細片	月巻リ	シロ目		淡茶褐色	黒細砂粒 多	不良	月巻リ			5	
30	1SK30	衛生	糞?	…	19.0	…	…	脚部細片	刷毛			淡茶褐色	黒細砂粒 多	不良	月巻リ			145	
30	1SK30	衛生	糞	…	18.0	…	…	脚部細片	不明	丹塗り		淡茶褐色	黒細砂粒 多	不良	月巻リ			9	
30	1SK30	衛生	糞	…	13.0	…	…	脚部細片	月巻リ	シロ目		淡茶褐色	黒細砂粒 多	不良	月巻リ			7	
30	1SK30	衛生	糞	…	18.0	…	…	脚部細片	不明	不明		淡茶褐色	砂粒多	不良	月巻リ			6	
30	1SK30	衛生	糞	…	19.0	…	…	脚部細片	不明	不明		淡茶褐色	砂粒多	やや良				8	
30	1SK30	衛生	糞	…	14.0	…	…	上半部 1/2	横ナデ	刷毛	ナデ		淡茶褐色	ほぼ頬	やや良	端部に歯有	口縁下端部を外方へつま みだす		34
30	1SK30	衛生	糞	…	11.6	13.6	16.3	ほぼ定形	横ナデ	刷毛	鐵ナデ	淡茶褐色	ほぼ頬	やや良	端部に歯有	底部はけ面が後退する		31	
30	1SK30	衛生	糞	…	11.9	13.4	16.2	ほぼ定形	横ナデ	刷毛	鐵ナデ	淡茶褐色	ほぼ頬	不良	端部に歯有	底部はけ面が後退する		32	

Tab.10 出土遺物観察表⑩

No	造形	種別	器種	口径	底径	高さ	椎存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形 状	備 考	R-N.
55	ISK30	弥生	器台	12.5	13.4	16.8	はげ定形	横ナデ	刷毛	横ナデ	横ナデ	素褐色	ほげ精良	やや不良	端部に面有	底部はほげが剥地する	33	
56	ISK30	弥生	器台	11.6	13.2	16.0	定形	横ナデ	刷毛	横ナデ	横ナデ	素褐色	細砂粒少	不良	端部に面有	底部はほげが剥地する	30	
57	ISK30	弥生	器台	12.0	—	—	口縁1／6	横ナデ	刷毛	不明	横ナデ	素褐色	淡茶褐色	ほげ精良	やや不良	端部に面有	R-39と同一個体?	40
58	ISK30	弥生	器台	12.2	—	—	口縁1／6	不明	不明	不明	横ナデ	淡茶褐色	微細砂粒含	不良	端部に面有	—	38	
59	ISK30	弥生	器台	12.9	—	—	口縁1／8	横ナデ	刷毛	—	—	淡灰褐色	細砂粒少	良	端部に面有	—	35	
60	ISK30	弥生	器台	12.4	—	—	口縁1／4	横ナデ	刷毛	—	—	明茶褐色	砂粒少	やや不良	端部に面有	—	37	
61	ISK30	弥生	器台	12.4	—	—	口縁1／6	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	ほげ精良	やや不良	端部に面有	R-40と同一個体?	39	
62	ISK30	弥生	器台	12.4	—	—	口縁1／6	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	端部に面有	—	42	
63	ISK30	弥生	器台	13.0	—	—	口縁1／6	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	不良	端部に面有	—	41	
64	ISK30	弥生	器台	15.0	—	—	—	横ナデ	横ナデ	—	—	暗褐色	砂粒少	やや良	端部に面有	—	106	
65	ISK30	上縁 變	—	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	刷毛	不明	—	淡乳茶色	精良	やや不良	端部に面有	—	143	
66	ISK30	弥生	器台	—	—	—	断片	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	やや良	端部に面有	口縁部底以下の内面に 線状の押え有	46	
67	ISK30	弥生	器台	—	—	—	断片	横ナデ	刷毛	不明	—	淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	端部に面有	—	45	
68	ISK30	弥生	器台	—	—	—	断片	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	不良	端部に面有	—	48	
69	ISK30	弥生	器台	—	—	—	断片	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	ほげ精良	やや良	端部に面有	—	47	
70	ISK30	弥生	器台	—	—	—	断片	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	良好	端部に面有	—	47	
71	ISK30	弥生	器台	—	—	—	断片	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	端部に面有	底部の面は剥地しない	43	
72	ISK30	弥生	器台	—	—	—	断片	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	やや良	端部に面有	底部の面は剥地しない	44	
73	ISK30	弥生	器台	—	—	—	断片	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	端部に面有	底部の面は剥地しない	36	
74	ISK30	弥生	器台	—	—	—	断片	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	砂粒少	やや不良	端部に面有	—	10	
75	ISK30	弥生	器台	—	—	—	断片	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	ほげ精良	良好	端部に面有	手づくね風	49	
76	ISK30	弥生	器台	—	—	—	断片	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	やや良	端部に面有	焼成後に穿孔	156	
77	ISK30	弥生	器台	—	—	—	断片	横ナデ	刷毛	—	—	内:暗褐色 外:茶多斑	細砂粒含	やや良	—	—	27	
78	ISK30	弥生	器台	—	—	—	断片	横ナデ	刷毛	—	—	内:暗褐色 外:茶多斑	細砂粒含	やや良	—	—	28	
79	ISK30	弥生	画子	—	—	—	—	—	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒少	やや良	—	—	29	
80	ISK30	弥生	画子	14.0	—	—	口縁部 1／6	不明	不明	ナデ	—	淡茶褐色	砂粒多	不良	逆L字	—	28	
81	ISK30	弥生	画子	28.0	—	—	口縁部断片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	逆L字	—	22	
82	ISK30	弥生	画子	31.0	—	—	口縁部 1／6	横ナデ	刷毛	ナデ	—	淡茶褐色	細砂粒少	やや不良	逆L字	新曲げ部の内面を内側に 少ししまみだす	11	
83	ISK30	弥生	画子	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	淡茶褐色	ほげ精良	やや良	逆L字	新曲げ部の内面を内側に 少ししまみだす	36	
84	ISK30	弥生	画子	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	淡茶褐色	細砂粒少	不良	逆L字	新曲げ部の内面を内側に 少ししまみだす	29	
85	ISK30	弥生	画子	28.2	—	—	口縁部 1／10	丹青り	丹青り	ナデ	—	淡茶褐色	微細砂粒 含	不良	逆L字	端部に面有 新曲げ部の内面を内側に 少ししまみだす	1	
86	ISK30	弥生	画子	—	—	—	口縁部断片	不明	—	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	逆L字	新曲げ部の内面を内側に 少ししまみだす	34	
87	ISK30	弥生	画子	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	不良	逆L字	新曲げ部の内面を内側に 少ししまみだす	33	
88	ISK30	弥生	画子	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	淡茶褐色	細砂粒少	やや不良	逆L字	新曲げ部の内面を内側に 少ししまみだす	37	
89	ISK30	弥生	画子	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	淡茶褐色	細砂粒少	不良	逆L字	新曲げ部の内面を内側に 少ししまみだす	32	
90	ISK30	弥生	画子	25.0	—	—	口縁部断片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	逆L字	「く」の字 新曲げ部の内面にゆるい 模様有	14	
91	ISK30	(底Y)	弥生	画子	—	—	口縁部断片	横ナデ	刷毛	—	—	淡茶褐色	細砂粒含	やや良	逆L字	新曲げ部の内面にゆるい 模様有	25	
92	ISK30	(底Y)	弥生	画子	—	—	口縁部断片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	淡茶褐色	細砂粒少	やや良	逆L字	「く」の字 新曲げ部の内面にゆるい 模様有	24	
93	ISK30	(底Y)	弥生	画子	—	—	口縁部断片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	淡茶褐色	細砂粒含	不良	逆L字	「く」の字 端部把柄 新曲げ部の内面にゆるい 模様有	31	
94	ISK30	(底Y)	弥生	画子	—	—	口縁部断片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	淡茶褐色	砂粒少	不良	逆L字	新曲げ部の内面にゆるい 模様有	27	
95	ISK30	(底Y)	弥生	画子	26.0	—	—	口縁部 1／6	横ナデ	刷毛	ナデ	—	淡茶褐色	細砂粒少	やや不良	逆L字	新曲げ部の内面にゆるい 模様有	13

Tab.11 出土遺物観察表⑪

No.	遺物	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縫部	体外面	体里面	内底面	外底面	色調	粘土	焼成	山陽形 型状	備考	E-N
44	ISK30 (直下)	弥生	甕	28.0	---	---	口縫部 1/6	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	やや粗良	やや良	「く」の字		16
45	ISK30 (直下)	弥生	甕	---	---	---	口縫部細片	横ナデ					暗褐色	精良	良	「く」の字		26
46	ISK30 (直下)	弥生	甕	---	---	---	口縫部細片	横ナデ					淡灰褐色	はげ粗良	やや良	「く」の字		35
47	ISK30 (直下)	弥生	甕	29.0	---	---	口縫部 1/6	横ナデ	刷毛	ナデ			暗茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字		17
48	ISK30 (直下)	弥生	甕	32.0	---	---	口縫部細片	不明					淡茶褐色	細砂粒少	不良	「く」の字 前曲げ部の内面にゆるい 焼錠有		23
49	ISK30 (直下)	弥生	甕	32.0	---	---	口縫部 1/6	横ナデ	刷毛	ナデ			淡褐色	細砂粒多	やや不良	「く」の字 前曲げ部の内面にゆるい 焼錠有		19
50	ISK30 (直下)	弥生	甕	28.0	---	---	口縫部 1/8	不明	不明	不明			暗茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字		20
51	ISK30 (直下)	弥生	甕	29.0	---	---	口縫部 1/6	横ナデ	不明	不明			淡茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字		12
52	ISK30 (直下)	弥生	甕	34.0	---	---	口縫部細片	横ナデ	刷毛	ナデ			淡乳褐色	やや粗良	やや良	「く」の字		18
53	ISK30 (直下)	弥生	甕	---	---	---	口縫部細片	横ナデ					淡灰褐色	細砂粒少	やや良	「く」の字		40
54	ISK30 (直下)	弥生	甕	21.0	---	---	口縫部細片	横ナデ	刷毛	横ナデ			淡灰褐色	細砂粒多	やや不良	「く」の字 直立 端部に凹凸状のこみあ		30
55	ISK30 (直下)	弥生	甕	28.0	---	---	口縫部 1/8	横ナデ					内:淡褐色 外:暗褐色	全金剛・ 細砂粒合	やや良	「く」の字 前曲げ部の内面を内側に 端部上上げ		7
56	ISK30 (直下)	弥生	甕	---	---	---	体部細片		ナデ	ナデ			淡乳褐色	砂粒少	やや不良	古跡突起1条有		21
57	ISK30 (直下)	弥生	甕	---	---	---	体部細片		不明	ナデ			淡茶褐色	細砂粒合	不良	三角突起1条有		41
58	ISK30 (直下)	弥生	甕	6.0	---	底部のみ	体部細片		刷毛	ナデ			淡茶褐色	砂粒少	やや不良	突起1条有		38
59	ISK30 (直下)	弥生	甕	7.0	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	横ナデ		淡乳褐色	精良	やや不良	底部は深く押し込み「上 げ底」状にする		42
60	ISK30 (直下)	弥生	甕	7.4	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡乳褐色	精良	直			52
61	ISK30 (直下)	弥生	甕	7.0	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡茶褐色	細砂粒合	不良	三角突起1条有		49
62	ISK30 (直下)	弥生	甕	9.6	---	底部のみ	体部細片		刷毛	ナデ	不明		淡茶褐色	細砂粒多	やや不良	突起1条有		53
63	ISK30 (直下)	弥生	甕	7.8	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡乳褐色	砂粒少	やや不良	底部は深く押し込み「上 げ底」状にする		51
64	ISK30 (直下)	弥生	甕	9.8	---	底部のみ	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡茶褐色	砂粒少	不良	直		48
65	ISK30 (直下)	弥生	甕	10.8	---	底部のみ	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡茶褐色	細砂粒合	不良	直		45
66	ISK30 (直下)	弥生	甕	11.0	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡茶褐色	細砂粒合	不良	直		44
67	ISK30 (直下)	弥生	甕	10.2	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡茶褐色	細砂粒合	不良	直		50
68	ISK30 (直下)	弥生	甕	9.4	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡茶褐色	細砂粒合	不良	直		46
69	ISK30 (直下)	弥生	甕	9.4	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡茶褐色	細砂粒合	不良	直		56
70	ISK30 (直下)	弥生	甕	9.4	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡茶褐色	細砂粒合	不良	直		47
71	ISK30 (直下)	弥生	甕	8.4	---	底部のみ	体部細片		ナデ	ナデ	未調査		淡茶褐色	砂粒少	やや良	直		43
72	ISK30 (直下)	弥生	甕	---	---	底部のみ	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡茶褐色	細砂粒合	不良	直		55
73	ISK30 (直下)	弥生	甕	---	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡茶褐色	細砂粒合	不良	直		54
74	ISK30 (直下)	弥生	甕	9.4	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡茶褐色	細砂粒合	不良	直		56
75	ISK30 (直下)	弥生	甕	9.4	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	ナデ		淡灰褐色	細砂粒多	やや不良	直		47
76	ISK30 (直下)	弥生	甕	8.4	---	底部のみ	体部細片		ナデ	ナデ	未調査		淡灰褐色	砂粒少	やや良	直		43
77	ISK30 (直下)	弥生	甕	---	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡灰褐色	細砂粒合	不良	直		55
78	ISK30 (直下)	弥生	甕	9.4	---	底部1/6	体部細片		刷毛	ナデ	未調査		淡茶褐色	細砂粒合	不良	直		54
79	ISK30 (直下)	弥生	甕	34.0	---	口縫部 1/4	横ナデ	ナデ	ナデ			内:淡褐色 外:淡茶褐色	細砂粒合	やや良	追し字 端部に面有		15	
80	ISK30 (直下)	弥生	甕	---	---	つぶみ部 のみ	体部細片		刷毛	刷毛			明茶褐色	細砂粒合	やや不良	つまみ部径5.4cm 端部外側は未調査		57
81	ISK30 (直下)	弥生	甕	---	---	つぶみ部 のみ	体部細片		刷毛	横ナデ			淡灰褐色	細砂粒多	やや良	わずかに 内凹	直裏有	5
82	ISK30 (直下)	弥生	甕	18.0	---	口縫部 1/6	横ナデ	刷毛	横ナデ			淡灰褐色	細砂粒多	やや不良	わずかに 内凹		4	
83	ISK30 (直下)	弥生	甕	---	---	口縫部 1/6	横ナデ	欠損	刷毛	ナデ		端面灰色	細砂粒多	不良	「く」の字		6	
84	ISK30 (直下)	弥生	甕	高环	---	---	口縫部 1/4	月盛り	月盛り	月盛り		淡乳白色	砂粒少	不良	T字		2	
85	ISK30 (直下)	弥生	甕	17.8	---	高环	脚底部 1/6	月盛り	刷毛	横ナデ	横ナデ	淡灰茶褐色	微細砂粒 合	やや良	直端部に面有 直は後地しない		3	
86	ISK30 (直下)	弥生	甕	15.0	---	甕台	口縫部細片	不明	不明	不明		内:暗赤色 外:淡茶褐色	細砂粒多	不良	内凹		9	
87	ISK30 (直下)	弥生	甕	18.0	---	甕台	口縫部細片	ナデ	ナデ	横ナデ	横ナデ	素面	砂粒少	やや不良			8	

Tab.12 出土遺物観察表⑪

Tab.13 出土遺物觀察表^⑯

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	高さ	残存	口縁部	体外側	体内側	内底面	外底面	色調	釉土	焼成	口縁部 形状	備考	R-Na
32	ISK19	陶生	甕	40.2	口縁部 1/5	横ナデ					淡茶褐色	金雲母・ 砂粒多	良	T字	腰椎用大甕 口縁部は 端部に面有 やや膨らむ	1
32	ISK19	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	不明			淡灰褐色	金雲母・ 砂粒多	良	逆し字	折曲げ部の内面を上方に つまみだす	2
32	ISK19	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛				淡灰褐色	金雲母・ 砂粒多	良	「く」の字		3
32	ISK19	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	不明			淡灰褐色	金雲母・ 砂粒多	良	「く」の字	口縁部は肥厚	6
32	ISK19	陶生	甕	体部細片	横ナデ	不明				内:淡茶色 外:淡褐色	金雲母・ 砂粒多	良	三角突起1条有		5
32	ISK19	陶生	甕	体部細片	横ナデ	不明				内:淡茶色 外:淡褐色	金雲母・ 砂粒多	良	M字突起1条有		4
32	ISK19	陶生	甕?	7.6	底部 1/3	刷毛	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	内:灰褐色 外:三色	金雲母・ 砂粒多	良			9
32	ISK19	陶生	甕	9.5	底部細片	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	内:乳白色 外:淡茶褐色	金雲母・ 砂粒多	良			8
32	ISK19	陶生	甕	底部細片	不明	不明	不明	不明	ナデ	内:淡茶褐色 外:淡褐色	金雲母・ 砂粒多	良			7
32	ISK19	陶生	甕	底部細片	不明	不明	不明	不明	ナデ	内:淡茶褐色 外:淡褐色	金雲母・ 砂粒多	良			10
32	ISK21	陶生	甕	細片	不明					淡灰褐色	淡灰褐色	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	2
32	ISK21	陶生	甕	細片	不明					淡灰茶褐色	淡灰褐色	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	3
32	ISK21	陶生	甕	細片	横ナデ					淡灰褐色	淡灰褐色	良	やや不良	端部に面有 丹塗り	1
32	ISK21	陶生	器台	細片	不明	刷毛?	不明			淡灰褐色	淡灰褐色	不良	上外方に 端部に面有 ひらく	端部に洗拭状況有	4
32	ISK24	陶生	瓶子							淡灰褐色	砂粒多	良			3
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ			淡茶褐色	砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	2
32	ISK24	陶生	甕	7.8	底部細片	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	内:暗茶褐色 外:淡茶褐色	砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	1
32	ISK24	陶生	甕	18.0	口縁部のみ	刷毛					茶褐色	石英・ 雲母片多	良			14
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	不明					淡茶褐色	砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	1
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ			淡茶褐色	砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	4
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	内:暗茶褐色 外:淡茶褐色	砂粒多	良			2
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	3
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	3
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	4
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	2
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	3
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	不良	「く」の字		8
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	不良	「く」の字		19
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	不良	「く」の字	口縁部肥厚	5
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良	逆L字		6
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	やや不良	逆L字		9
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰茶褐色	砂粒多	やや不良	「く」の字		7
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰茶褐色	砂粒多	良	「く」の字	口縁部肥厚	10
32	ISK24	陶生	甕	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰茶褐色	砂粒少	やや不良	「く」の字		11
32	ISK24	陶生	甕	10.0	底部片	不明	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	明歩茶褐色	砂粒多	不良	「く」の字		12
32	ISK24	陶生	甕	底部片	不明	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰茶褐色	砂粒多	不良	「く」の字	口縁部肥厚	13
32	ISK24	陶生	甕	22.2	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	明歩茶褐色	砂粒少	やや良	T字		22
32	ISK24	陶生	高耳	脚部細片	横ナデ	縦ナリ底				淡歩茶褐色	精良	不良	R-21と同一個体		20
32	ISK24	陶生	高耳	脚部細片	横ナデ	縦ナリ底				淡歩茶褐色	砂粒多	不良	「く」の字		23
32	ISK24	陶生	高耳	脚部細片	横ナデ	縦ナリ底				明歩茶褐色	精良	不良	底端部に面有 端部は接地しない		18
32	ISK24	陶生	高耳	11.0	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡歩茶褐色	砂粒少	不良	わずかに 内凹		17
32	ISK24	陶生	器台	14.0	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰茶褐色	精良	良	端部に面有		15
32	ISK24	陶生	器台	底部片	不明	刷毛	横ナデ	横ナデ	横ナデ	淡歩茶褐色	砂粒少	不良			16
32	ISK24	陶生	瓶子							淡茶褐色	砂粒多	やや不良			25

Tab.14 出土遺物観察表⑭

No.	遺構	種別	基種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-N
35	ISK34	鉢生	圓盤										明褐色	細砂粒合	やや良			24
36	ISK36	?	圓盤															1
37	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	不明			内:淡茶褐色 外:暗褐色	金雲母・ 細砂粒合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	4
38	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					金雲母・ 角四石合	良	逆L字	燒成時上げ	8	
39	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					内:淡褐色 外:淡茶褐色	金雲母・ 角四石合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	2
40	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					黒褐色	金雲母・ 角四石合	良	「く」の字	口縁部肥厚	6
41	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					米色	金雲母・ 細砂粒合	良	「く」の字	口縁部肥厚	4
42	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・ 角四石合	良	「く」の字	折曲げ部の内面にゆるい 枝条有	3
43	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・ 角四石合	良	口縁部肥厚	5	
44	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・ 細砂粒合	良	口縁部肥厚	7	
45	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	体部細片	ナテ	ナテ				金雲母・ 角四石合	良	M子次器、三角突巻各1 条有		10	
46	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	体部細片	刷毛	ナテ				淡褐色	金雲母・ 角四石合	良			9
47	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	体部細片	ナテ	ナテ	不明			淡褐色	金雲母・ 細砂粒合	良			12
48	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	体部細片	刷毛	ナテ	ナテ			淡褐色	金雲母・ 細砂粒合	良			11
49	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 角四石合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	5
50	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					内:淡茶褐色 外:淡褐色	金雲母・ 細砂粒合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	4
51	ISK39	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 角四石合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	6
52	ISK39	鉢生	圓盤	29.1	…	…	口縁部 1/8	横ナテ	不明	不明			素面	金雲母・ 角四石合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	1
53	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 角四石合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	3
54	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					内:淡褐色 外:淡褐色	金雲母・ 細砂粒合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	7
55	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・ 角四石合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	10
56	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					内:淡褐色 外:淡褐色	金雲母・ 細砂粒合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	10
57	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・ 角四石合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	8
58	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					素面	金雲母・ 角四石合	良	「く」の字	口縁部に比叡状凹み 胎部に直有	11
59	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒合	良	「く」の字		11
60	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					内:淡褐色 外:淡褐色	金雲母・ 角四石合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	9
61	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・ 角四石合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	2
62	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒合	良	「く」の字		13
63	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					内:淡褐色 外:黑色	金雲母・ 角四石合	良	「く」の字	口縁部に比叡状凹み 胎部に直有	12
64	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 角四石合	良	「く」の字		15
65	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					内:淡褐色 外:黑色	金雲母・ 角四石合	良	「く」の字		17
66	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒合	良	「く」の字		16
67	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					内:淡褐色 外:黑色	金雲母・ 細砂粒合	良	胎部に直有		21
68	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 角四石合	良	わざかに 内凹?		20
69	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					灰褐色	金雲母・ 細砂粒合	良	外土色に ひらく		19
70	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 角四石合	良	全面骨牌		18
71	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	脚底部細片	横ナテ	刷毛	刷毛?			内:淡褐色 外:淡黒色	金雲母・ 細砂粒合	良	胎部に直有		22
72	ISK43	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒合	良	胎部に直有		24
73	ISK43	圓盤	脚底	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	ケズリ	横ナテ			灰色	金雲母・ 細砂粒合	良	外面の一部に模様有		25
74	ISK44	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・ 角四石合	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	2
75	ISK44	鉢生	圓盤	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					薄褐色	金雲母・ 細砂粒合	良	「く」の字		3
76	ISK44	鉢生	圓盤	…	…	…	体部細片	…	刷毛	不明			青黃茶色	金雲母・ 細砂粒合	良			4

Tab.15 出土遺物観察表⑯

No.	遺構	種別	基材	口径	直径	高さ	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-Nr.
46	1SK44	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	刷毛	刷毛	横ナデ	ナデ	淡褐色	砂粒多	はげ良	円曲げ部の内面を内側につまみだす	1	
47	1SK45	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	—	—	—	—	淡灰褐色	砂粒多	良	逆L字	円曲げ部の内面を内側につまみだす	1
48	1SK46	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	—	—	—	—	淡黄褐色	砂粒多	良	逆L字	円曲げ部の内面を内側につまみだす	2
49	1SK47	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	刷毛	ナデ	—	—	淡黄褐色	砂粒多	良	逆L字	円曲げ部の内面を内側につまみだす	3
50	1SK48	陶生	土	—	—	—	体部断片	—	ナデ	不明	—	—	淡赤茶色	粗粒	良	—	M字突起1条有	8
51	1SK49	陶生	土	—	—	—	底部1/8	—	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	明赤茶色	砂粒多	良	—	—	5
52	1SK50	陶生	土	—	—	—	底部1/6	—	不明	ナデ	ナデ	不明	淡黄褐色	砂粒多	良	—	—	6
53	1SK51	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	ナデ	不明	ナデ	—	淡灰黑色	砂粒多	良	—	—	7
54	1SK52	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	刷毛	ナデ	ナデ	不明	淡黄白色	砂粒多	良	—	黒斑有	4
55	1SK46	蛭石	磁片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9
56	1SK47	陶生	土	—	—	—	底部3/4	—	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	暗赤黑色	砂粒合	良	—	—	1
57	1SK47	陶生	土	—	—	—	体部断片	—	ナデ	ナデ	—	—	暗黄茶色	砂粒合	良	—	M字突起1条有	2
58	1SK47	陶生	土	—	—	—	—	—	—	—	—	—	暗黄茶色	砂粒多	良	—	—	3
59	1SK53	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	—	ナデ	横ナデ	—	淡黄白色	砂粒合	良	—	—	3
60	1SK53	陶生	土	31.4	—	—	口縁部1/8	横ナデ	不明	ナデ	—	—	淡赤褐色	砂粒多	良	逆L字	円曲げ部の内面を内側につまみだす	1
61	1SK53	陶生	土	—	—	—	底部断片	横ナデ	—	—	—	—	淡黄白色	砂粒多	良	—	—	2
62	1SK53	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	不明	—	—	—	—	黄茶色	砂粒多	はげ良	直線的に外方へひらく	3	
63	1SK53	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	不明	—	—	—	—	淡黄白色	砂粒多	良	直線的に外方へひらく	4	
64	1SK53	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	不明	—	—	—	—	淡赤黄茶色	砂粒多	はげ良	「く」の字	2	
65	1SK53	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	不明	不明	ナデ	—	赤茶褐色	砂粒多	良	—	—	1
66	1SK53	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	—	—	—	—	湖底白色	砂粒合	はげ良	「く」の字	2	
67	1SK53	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	—	—	—	—	湖底白色	砂粒合	はげ良	二重口縁	3	
68	1SK53	陶生	土	—	—	—	底部断片	横ナデ	不明	不明	ナデ	—	湖底赤色	砂粒多	良	—	—	1
69	1SK53	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	暗赤土色	砂粒多	良	—	—	4
70	1SK53	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	—	—	—	—	湖底土色	砂粒多	良	—	—	6
71	1SK53	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	—	—	—	—	湖底赤色	砂粒多	やや良	—	—	5
72	1SK53	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	—	—	—	—	暗赤褐色	砂粒多	良	—	—	9
73	1SK53	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	—	—	—	—	湖底褐色	砂粒多	良	—	—	8
74	1SK54	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	—	—	—	—	湖底褐色	砂粒合	はげ良	逆L字	円曲げ部の内面を内側につまみだす	2
75	1SK54	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	—	—	—	—	湖底褐色	砂粒多	良	「く」の字	1	
76	1SK54	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	—	—	—	横ナデ	湖ナデ	灰茶色	砂粒少	良	—	3
77	1SK54	陶生	高环	—	—	—	脚部断片	—	不明	ナデ	刷毛	—	白灰茶色	粗粒	はげ良	—	—	4
78	1SK55	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	—	—	—	—	湖底白色	砂粒多	良	「く」の字	1	
79	1SK55	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	—	—	—	—	湖底白色	砂粒多	良	「く」の字	6	
80	1SK55	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	—	—	—	横ナデ	横ナデ	湖底色	砂粒多	良	—	5
81	1SK55	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	—	—	—	—	湖底褐色	砂粒多	良	—	—	9
82	1SK55	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	—	—	—	—	湖底褐色	砂粒多	良	—	—	8
83	1SK56	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	—	—	—	—	湖底褐色	砂粒合	はげ良	逆L字	円曲げ部の内面を内側につまみだす	2
84	1SK56	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	—	—	—	—	湖底褐色	砂粒多	良	「く」の字	1	
85	1SK56	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	—	—	—	横ナデ	横ナデ	湖底色	砂粒多	良	「く」の字	6
86	1SK56	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	—	—	—	横ナデ	横ナデ	湖底色	砂粒多	良	「く」の字	6
87	1SK56	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	—	—	—	—	湖底褐色	砂粒多	良	—	—	2
88	1SK57	陶生	土	—	—	—	底部断片	—	—	—	—	—	湖底白色	砂粒多	良	逆L字	円曲げ部の内面を内側につまみだす	1
89	1SK57	陶生	土	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	—	—	—	—	湖底白色	砂粒多	良	「く」の字	2	

Tab.16 出土遺物観察表⑯

No	造様	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	外表面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形狀	備考	R-No
54	ISK70	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	横ナデ					淡黃白赤色	砂粒多	良	「く」の字		3
55	ISK70	弥生	實	21.2	—	—	口縁部 1／6	横ナデ	不明				暗赤茶褐色	砂粒多	やや良	「く」の字		6
56	ISK70	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	刷毛	ナデ				黃赤茶褐色	砂粒多	良			4
57	ISK70	弥生	實	—	—	—	口縁部断片		不明	不明	不明	不明	淡黃白色	砂粒多	良			5
58	ISK70	弥生	器台	—	10.9	—	底部1／2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	淡灰茶褐色	砂粒多	良			7
59	ISK70	912 (+)	削片															9
60	ISK71	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	横ナデ					淡褐色	金雲母・ 角閃石	良	逆し字	折曲げ部の内側を内側に つまみだす	2
61	ISK71	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	横ナデ					淡褐色	金雲母・ 角閃石	良	逆し字	折曲げ部の内側を内側に つまみだす	1
62	ISK71	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					淡褐色	金雲母・ 砂粒合	良	逆し字端部 反上げ	折曲げ部の内側を内側に つまみだす	3
63	ISK71	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					淡褐色	金雲母・ 砂粒合	良	「く」の字		5
64	ISK71	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					淡褐色	金雲母・ 角閃石	良	「く」の字 端部肥厚		4
65	ISK71	弥生	器台	—	10.6	—	底部1／10		不明	不明	不明	不明	灰褐色					6
66	ISK71	弥生	面子										廢褐色		良			7
67	ISK74	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					淡褐色	金雲母・ 角閃石	良	逆し字	折曲げ部の内側を内側に つまみだす	2
68	ISK74	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					淡褐色	金雲母・ 砂粒合	良	逆し字	口縁部の間に沈澱1条 有	1
69	ISK74	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	横ナデ	不明	ナデ	ナデ	ナデ	淡褐色	金雲母・ 砂粒合	良	「く」の字 浅い 「く」の字		3
70	ISK74	弥生	實	—	10.5	—	底部1／6	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	乳白色	金雲母	良	逆し字		6
71	ISK74	弥生	實	—	8.0	—	底部1／4		不明	不明	不明	不明	淡素褐色	金雲母・ 砂粒合	良	「く」の字		5
72	ISK74	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	廢褐色	金雲母	良	「く」の字		4
73	ISK74	弥生	器台	—	—	—	口縁部断片	不明					廢褐色	金雲母・ 角閃石	良			8
74	ISK74	弥生	面子										廢褐色	金雲母	良			9
75	ISK74	弥生	面子	—	11.0	—	5.0	口縁部 1／8	横ナデ	刷毛	刷毛		废色	金雲母合	良	直筋的に外 方へひらく		7
76	ISK74	弥生	面子										废褐色	金雲母	良	端部外方へ つまみ出し		2
77	ISP42	弥生	跡	—	—	—	口縁部断片	不明					廢褐色	金雲母・ 細粒合	良	?		1
78	ISP42	弥生	跡	—	—	—	口縁部断片	不明					廢褐色	金雲母	良	複合部は後に栓で埋めて 成形		3
79	ISD05	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					淡褐色	金雲母・ 細粒合	良	逆し字	折曲げ部の内側を内側に つまみだす	1-30
80	ISD05	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					淡褐色	金雲母・ 細粒合	良	逆し字	折曲げ部の内側を内側に つまみだす	1-31
81	ISD05	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					淡褐色	金雲母・ 細粒合	良	「く」の字		1-35
82	ISD05	弥生	實	—	26.8	—	—	口縁部 1／8	横ナデ	不明	不明	不明	暗褐色	金雲母・ 角閃石	良	口縁部に沈殿物の凹み 1条有		1-43
83	ISD05	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					内:淡褐色 外:黑色	金雲母・ 砂粒合	良	「く」の字		1-47
84	ISD05	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					内:淡褐色 外:暗褐色	金雲母・ 砂粒合	良	「く」の字		1-46
85	ISD05	弥生	實	—	25.5	—	—	口縁部 1／8	横ナデ	不明	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 砂粒合	良	「く」の字		1-44
86	ISD05	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					淡褐色	金雲母・ 砂粒合	良	「く」の字		1-34
87	ISD05	弥生	實	—	28.7	—	—	口縁部 1／4	横ナデ	刷毛	刷毛		淡褐色	金雲母	良	「く」の字		1-46
88	ISD05	弥生	實	—	28.2	—	—	口縁部 1／4	横ナデ	刷毛	刷毛		淡褐色	金雲母	良	「く」の字		1-45
89	ISD05	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					废色	金雲母・ 細粒合	良	「く」の字		1-33
90	ISD05	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					废色	金雲母・ 細粒合	良	「く」の字		1-32
91	ISD05	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					内:淡褐色 外:淡褐色	金雲母・ 砂粒合	良	「く」の字		1-35
92	ISD05	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					淡褐色	金雲母・ 砂粒合	良	「く」の字		1-36
93	ISD05	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					内:淡褐色 外:淡褐色	金雲母・ 砂粒合	良	「く」の字		1-37
94	ISD05	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					淡褐色	金雲母・ 砂粒合	良	「く」の字		1-38
95	ISD05	弥生	實	—	—	—	口縁部断片	不明					白色	金雲母・ 砂粒合	良	「く」の字	口縁部に剥み日有	1-39
96	ISD05	弥生	實	—	28.6	—	—	口縁部 1／8	刷毛				淡褐色	金雲母・ 砂粒合	良	「く」の字	口縁部に剥み日有	1-40

Tab.17 出土遺物観察表(17)

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部 1/2	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形・状	備考	R-Na	
06	ISD05	飾生	甕	22.4	—	—	—	口縁部 1/2	刷毛	—	—	—	淡褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	「く」の字	口縁部に刷毛目有	後-41	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	口縁部断片	不明	—	—	—	暗茶褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	「く」の字	口縁部に刷毛目有	後-38	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	体部断片	刷毛	刷毛	—	—	淡褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	台形突起に刷毛目有	後-40		
06	ISD05	飾生	甕	—	—	6.6	—	底部1/3	刷毛	—	ナテ	—	淡褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-14	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	刷毛	ナテ	ナテ	—	暗褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-20	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	不明	不明	不明	不明	内:暗褐色 外:棕褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-19	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	6.6	—	底部1/4	不明	不明	不明	不明	内:暗褐色 外:赤褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-13	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-21	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	不明	不明	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-4	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-6	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	6.4	—	底部1/2	刷毛	ナテ	ナテ	—	内:暗褐色 外:浅褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	底部に堆積層、内外両面から穿孔	後-12		
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-22	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:暗褐色 外:棕褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-23	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:暗褐色 外:棕褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-17	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-24	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	7.5	—	底部1/3	刷毛	不明	不明	ナテ	暗褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-1	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	7.7	—	底部1/6	刷毛	不明	不明	ナテ	内:暗褐色 外:灰褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-3	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:暗褐色 外:灰褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-5	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:灰褐色 外:灰褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-2	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-18	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	8.0	—	底部1/4	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-8	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	6.6	—	底部1/3	ナテ	不明	不明	ナテ	内:暗褐色 外:黑褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-10	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	10.9	—	底部1/4	ナテ	不明	不明	ナテ	内:茶褐色 外:黑褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-2	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	8.4	—	底部1/4	不明	不明	不明	不明	内:深褐色 外:赤褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-9	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	4.9	—	底部のみ	ナテ	不明	不明	ナテ	暗褐色	金雲母	良	—	—	後-11	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	8.0	—	底部1/4	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-15	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	5.7	—	底部1/4	不明	不明	不明	不明	暗褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-27	
06	ISD05	飾生	甕?	—	—	29.7	—	口縁部 1/10	不明	不明	刷毛	—	—	淡褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	「く」の字	—	後-47
06	ISD05	飾生	甕	—	—	4.9	—	底部1/4	不明	指紋板 有	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-7	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	口縁部断片	横ナテ	刷毛	不明	—	淡褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	縫やかに 内凹	—	後-59	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	口縁部断片	横ナテ	刷毛	不明	—	暗褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	縫やかに 内凹	口縁直下に堆成後穿孔有	後-60	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	14.0	—	口縁部 1/8	不明	不明	不明	—	暗褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	外方に ひらく	—	後-48	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	ナテ	不明	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	底部断片の面は後地する	—	後-50	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	ナテ	指紋板	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	底部断片の面は後地する	—	後-49	
06	ISD05	飾生	甕	—	—	—	—	底部断片	不明	不明	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	底部断片の面は後地する	—	後-52	
06	ISD05	飾生	甕合	—	—	—	—	底部断片	不明	不明	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-51	
06	ISD05	飾生	甕合	—	—	—	—	口縁部断片	丹斐リ	丹斐リ	—	—	乳茶褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	T字	—	後-57	
06	ISD05	飾生	甕合	—	—	26.8	—	口縁部 1/4	ナテ	不明	不明	—	淡褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	T字 端部に面有	—	後-56	
06	ISD05	飾生	甕合	—	—	—	—	脚部- 底合部	不明	絞り瓶 有	—	—	淡褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-58	
06	ISD05	飾生	甕合	—	—	—	—	脚部のみ	不明	不明	—	明褐色	金雲母・ 砂粒含 有	良	—	—	後-55		
06	ISD05	飾生	甕合	—	—	—	—	脚部	不明	絞り瓶 有	—	—	淡茶褐色	金雲母	良	—	—	後-77	

Tab.18 出土遺物観察表⑯

No	遺構	種別	基準	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外側	体内面	内底面	外底面	色調	釉土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No
78	1SD35	器生	高環	…	…	…	底部断片		不明	不明	不明	不明	淡茶褐色	金雲母・ 砂鉄粒合	良			8-53
79	1SD35	器生	高環	…	…	…	底部断片		不明	不明	不明	不明	明灰褐色	金雲母・ 砂鉄粒合	良			8-54
80	1SD35	器生	有?										乳褐色	金雲母・ 砂鉄粒合	良			8-55
81	1SD35	器生	有?										乳茶褐色	金雲母・ 砂鉄粒合	良			8-56
82	1SD35	器生	圓子										暗褐色	金雲母・ 砂鉄粒合	良			8-57
83	1SD35	器生	圓子										暗褐色	金雲母・ 砂鉄粒合	良			8-58
84	1SD35	器生	圓子										褐色	金雲母・ 角閃石合	良			8-59
85	1SD35	器生	圓環										淡灰褐色	金雲母・ 砂鉄粒合	良			8-60
86	1SD35	輕石																8-79
87	1SD35	土師	甕	…	…	…	口縁部断片	不明					褐褐色	金雲母・ 砂鉄粒合	良	「く」の字		8-70
88	1SD35	土師	甕	…	…	…	口縁部断片	横ナデ					淡褐色	金雲母・ 角閃石合	良	「く」の字 端部つまむ		8-80
89	1SD35	土師	甕	…	…	…	口縁部断片	不明					褐褐色	精良	良	「く」の字		8-71
90	1SD35	土師	甕	15.6	…	…	口縁部 1/8	横ナデ	不明	タズリ			淡褐色	金雲母・ 砂鉄粒合	良	「く」の字 端部つまむ		8-66
91	1SD35	土師	甕	…	…	…	底部のみ	ナデ	黒褐色	刷毛	ナデ	ナデ	淡褐色	金雲母・ 角閃石合	良			8-67
92	1SD35	土師	甕	13.4	…	…	口縁部 1/4	不明	不明	不明			浙褐色	金雲母合	良	「く」の字		8-72
93	1SD35	土師	甕	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	刷毛	刷毛			淡褐色	金雲母合	良	外方に ひらく	端部に面有	8-73
94	1SD35	土師	甕	6.2	…	…	底部のみ	不明	横開口 瓶	不明	不明	内・淡灰褐色 外・淡褐色	金雲母・ 砂鉄粒合	良				8-74
95	1SD35	土師	甕	…	…	…	底部断片	不明	不明	不明	不明		淡褐色	金雲母合	良			8-75
96	1SD35	土師	甕	…	…	…	横片	不明	不明	刷毛	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 砂鉄粒合	良	丸く おきめる		8-76
97	1SD35	中空 (1)	断片															8-80
98	1SD35	中空 (1)	断片															8-81
99	1SD35	陶器	石纏															8-85
100	1SD35	陶器	断片															8-83
101	1SD35	陶器	断片															8-84
102	1SD35	陶器	断片															8-82
103	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	不明					明茶褐色	砂鉄粒多	不良	逆L字	舟曲げ部の内面を少し内側につまぶすだけ	28
104	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	不明	不明	横ナデ			淡灰褐色	砂鉄粒多	不良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側につまぶすだけ	23
105	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	不明					淡黃褐色	砂鉄粒少	不良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側につまぶすだけ	30
106	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	横ナデ					淡黃褐色	砂鉄粒多	不良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側につまぶすだけ	14
107	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	不明	ナデ			内・墨灰色 外・茶褐色	砂鉄粒多	やや不良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側につまぶすだけ	24
108	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	横ナデ	刷毛	不明			淡灰褐色	砂鉄粒多	やや不良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側につまぶすだけ	18
109	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	横ナデ					淡茶褐色	砂鉄粒多	やや不良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側につまぶすだけ	25
110	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	不明					淡茶褐色	砂鉄粒少	やや不良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側につまぶすだけ	27
111	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	不明					淡茶褐色	砂鉄粒少	不良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側につまぶすだけ	19
112	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	横ナデ					淡灰褐色	砂鉄粒少	不良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側につまぶすだけ	15
113	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	横ナデ					淡灰褐色	砂鉄粒少	やや不良	逆L字	堤部反上り	17
114	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	不明					淡灰褐色	砂鉄粒合	やや不良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側につまぶすだけ	21
115	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	横ナデ					明茶褐色	砂鉄粒合	不良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側につまぶすだけ	20
116	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	舟便り					茶褐色	砂鉄粒合	やや不良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側につまぶすだけ	90
117	1SD35	器生	甕	…	…	…	口縁部断片	横ナデ		不明			茶褐色	砂鉄粒多	不良	逆L字	舟曲げ部の内面を内側につまぶすだけ	26

Tab.19 出土遺物観察表⑯

No.	遺核	種別	基種	口径	底径	高さ	残存	口縁部	体外側	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形 状	備考	R-No.
77	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	口縁部細片	横ナデ	刷毛	不明				淡灰褐色	砂粒少	やや不良 施釉肥厚	16
78	1SD35	衛生	甕	24.0	…	…	…	口縁部細片	不明	不明	不明				淡灰褐色	細砂粒含	やや不良 施釉肥厚	5
79	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	口縁部細片	不明						淡灰褐色	細砂粒多	不良 口縁部肥厚	10
80	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	口縁部細片	不明						淡茶褐色	細砂粒多	不良 「く」の字	11
81	1SD35	衛生	甕	29.0	…	…	…	口縁部細片	不明	不明	不明				淡茶褐色	砂粒少	不良 「く」の字	4
82	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	口縁部細片	不明						淡灰褐色	砂粒少	不良 「く」の字	22
83	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	口縁部細片	不明						淡茶褐色	砂粒多	不良 「く」の字	12
84	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	口縁部細片	不明						淡茶褐色	砂粒多	不良 「く」の字	1
85	1SD35	衛生	甕	25.3	…	…	…	上半部	横ナデ	刷毛	不明				内・淡茶褐色 外・淡褐色	砂粒多	不良 胎部に斑有 施釉肥厚	9
86	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	口縁部細片	横ナデ	不明	刷毛				暗茶褐色	細砂粒多	不良 胎部に斑有	13
87	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	口縁部細片	不明						淡灰褐色	砂粒少	不良 「く」の字	77
88	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	口縁部細片	横ナデ						内・淡茶褐色 外・淡褐色	砂粒多	胎部に斑有 施釉肥厚	29
89	1SD35	衛生	甕	27.0	…	…	…	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ				淡灰褐色	砂粒多	不良 「く」の字	2
90	1SD35	衛生	甕	30.0	…	…	…	口縁部	横ナデ	刷毛	不明				暗褐色	細砂粒含	不良 「く」の字	3
91	1SD35	衛生	甕	32.0	…	…	…	口縁部細片	横ナデ						淡茶褐色	砂粒少	やや不良 「く」の字	6
92	1SD35	衛生	甕	32.0	…	…	…	口縁部細片	横ナデ	刷毛					暗褐色	砂粒多	不良 「く」の字	7
93	1SD35	衛生	甕	34.0	…	…	…	口縁部細片	横ナデ						淡灰褐色	細砂粒多	不良 「く」の字	8
94	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	体部細片	不明						淡灰褐色	細砂粒含	不良 口縁部肥厚	34
95	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	体部細片	不明						淡茶褐色	砂粒少	やや不良 「く」の字	33
96	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	体部細片	不明						暗褐色	砂粒多	不良 「く」の字	35
97	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	体部細片	不明						淡茶褐色	細砂粒含	不良 「く」の字	41
98	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	体部細片	不明						淡茶褐色	粗	不良 「く」の字	39
99	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	体部細片	不明						淡灰褐色	細砂粒含	不良 突堤1条有	26
100	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	体部細片	不明						淡茶褐色	砂粒少	不良 突堤1条有	40
101	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	体部細片	不明						淡茶褐色	砂粒少	不良 突堤1条有	38
102	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	体部細片	横ナデ						淡灰褐色	細砂粒多	やや不良 胎部に斑有	32
103	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	体部細片	不明						淡茶褐色	砂粒少	不良 胎部に斑有	37
104	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	体部細片	不明						淡灰褐色	砂粒多	やや不良 胎部に斑有	31
105	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	底部のみ	刷毛		ナデ	ナデ			淡茶褐色	細砂粒含	不良 底部は上げ瓶状 (台付型?)	42
106	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	底部1/4	不明	ナデ	ナデ	ナデ	未調整		淡茶褐色	細砂粒含	不良 「く」の字	32
107	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	底部細片	刷毛		ナデ				淡灰褐色	細砂粒含	やや不良 内面に薄く覆着	71
108	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	底部1/3	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	未調整		淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	56
109	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	底部1/8	不明	ナデ	ナデ	ナデ	未調整		淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	54
110	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	底部1/8	不明	ナデ	ナデ	ナデ	未調整		淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	69
111	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	底部のみ	不明	不明	不明				淡茶褐色	砂粒多	不良	46
112	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	底部1/8	不明	ナデ	ナデ	ナデ	未調整		淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	66
113	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	底部1/6	不明	ナデ	ナデ	ナデ	未調整		淡茶褐色	砂粒少	不良	53
114	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	底部1/3	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	未調整		淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	65
115	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	底部1/6	不明	ナデ	ナデ	ナデ	未調整		淡灰褐色	細砂粒含	不良	68
116	1SD35	衛生	甕	…	…	…	…	底部1/4	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	未調整		淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	50

Tab.20 出土遺物観察表⑩

No	遺構	種別	基材	口径	底径	基高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形 状	備考	R-No
86	1SD35	角生	甕	—	7.0	—	底部1/4	刷毛	ナデ	ナデ	不明	淡灰褐色	細砂較多	不良			66	
87	1SD35	角生	甕	—	11.0	—	底部1/6	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰褐色	砂粒・ 角閃石合	やや不良			67	
88	1SD35	角生	甕	—	9.0	—	底部1/4	刷毛	ナデ	ナデ	不明	内:淡灰色 外:淡褐色	細砂較合	やや不良			57	
89	1SD35	角生	甕	—	6.4	—	底部のみ	ナデ	ナデ	ナデ	未調整	茶褐色	細砂較多	やや不良			47	
90	1SD35	角生	甕	—	6.6	—	底部1/3	不明	不明	不明	不明	淡茶褐色	砂粒多	やや不良			49	
91	1SD35	角生	甕	—	9.0	—	底部1/6	不明	ナデ	ナデ	未調整	淡茶褐色	砂粒多	不良			51	
92	1SD35	角生	甕	—	7.0	—	底部1/4	ナデ	ナデ	ナデ	未調整	淡灰褐色	砂粒合	やや良			62	
93	1SD35	角生	甕	—	6.4	—	底部1/2	不明	不明	不明	不明	茶褐色	細砂較多	不良			46	
94	1SD35	角生	甕	—	11.0	—	底部1/6	刷毛	不明	不明	未調整	淡灰褐色	砂粒少	やや不良			63	
95	1SD35	角生	甕	—	6.0	—	底部1/3	不明	不明	不明	不明	淡灰褐色	砂粒多	不良			59	
96	1SD35	角生	甕	—	8.4	—	底部のみ	不明	不明	不明	不明	淡褐色	砂粒多	不良			45	
97	1SD35	角生	甕	—	8.6	—	底部のみ	不明	不明	不明	不明	淡褐色	砂粒多	不良			44	
98	1SD35	角生	甕	—	7.8	—	底部1/4	ナデ	不明	不明	ナデ	暗褐色	砂粒多	不良			61	
99	1SD35	角生	甕	—	5.2	—	底部2/3	ナデ	不明	不明	未調整	淡黃灰褐色	砂粒多	不良			58	
100	1SD35	角生	甕	—	9.0	—	底部1/6	不明	不明	不明	不明	淡灰褐色	砂粒少	不良			55	
101	1SD35	角生	甕	—	6.0	—	底部のみ	不明	不明	ナデ	不明	淡乳褐色	精良	やや不良			43	
102	1SD35	角生?	甕?	—	—	—	—	刷毛 横ナデ	不明			内:淡茶褐色 外:淡黑色	精良	やや不良			110	
103	1SD35	角生?	甕?	—	12.0	—	底部細片	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	内:淡茶褐色 外:淡黑色	細砂較合	やや不良			70	
104	1SD35	角生?	甕?	—	8.0	—	底部1/6	不明	不明	不明	不明	淡灰褐色	砂粒多	不良			64	
105	1SD35	角生?	甕?	—	—	—	—	不明				淡灰褐色	砂粒少	不良			91	
106	1SD35	角生?	高环	—	—	—	—	口縁部細片	不明			暗茶褐色	細砂較合	不良	内:薄		93	
107	1SD35	角生?	高环	—	—	—	—	脚底部細片	丹筆り	破り痕		淡茶褐色	砂粒少	不良			93	
108	1SD35	角生?	高环	—	—	—	—	脚部上半	刷毛	破り痕		淡乳色	精良	やや不良			94	
109	1SD35	角生?	高环	—	—	—	—	脚部細片	不明	破り痕		淡紫茶色	細砂較多	不良			95	
110	1SD35	角生?	高环	—	—	—	—	脚部細片	丹筆り	破り痕		明赤褐色	砂粒少	不良			92	
111	1SD35	角生?	高环	—	—	—	—	脚底部細片	不明	不明	不明	不明	淡灰褐色	細砂較多	不良	底端部に面有 底端部の 面は接地しない	79	
112	1SD35	角生?	高环	—	—	—	—	脚底部細片	不明	不明		明赤褐色	砂粒合	不良			96	
113	1SD35	角生?	器台	—	11.0	—	—	口縁部細片	横ナデ	刷毛	不明	淡茶褐色	細砂较少	やや不良	端部に面有		82	
114	1SD35	角生?	器台	—	—	—	—	口縁部細片	不明	不明	不明	淡茶褐色	砂粒多	不良			88	
115	1SD35	角生?	器台	—	—	—	—	口縁部細片	不明	刷毛	不明	淡茶褐色	細砂較合	不良	端部に面有		85	
116	1SD35	角生?	器台	—	—	—	—	口縁部細片	不明	横ナデ	ナデ	淡灰褐色	砂粒合	やや不良	端部に面有		89	
117	1SD35	角生?	器台	—	—	—	—	口縁部細片	不明	不明	不明	淡茶褐色	細砂較多	不良	端部に面有		86	
118	1SD35	角生?	器台	—	12.6	—	—	口縁部細片	横ナデ	刷毛	不明		淡灰褐色	細砂較多	不良	端部に面有		80
119	1SD35	角生?	器台	—	—	—	—	底部細片	不明	不明	不明	淡茶褐色	砂粒多	やや良			87	
120	1SD35	角生?	器台	—	—	—	—	底部細片	刷毛	横ナデ	横ナデ	淡灰褐色	細砂較合	やや不良			78	
121	1SD35	角生?	器台	—	—	—	—	底部細片	刷毛	横ナデ	横ナデ	淡茶褐色	砂粒少	やや不良			81	
122	1SD35	角生?	器台	—	—	—	—	底部細片	不明	刷毛	横ナデ	横ナデ	淡灰褐色	細砂較合	やや不良			83
123	1SD35	角生?	器台	—	—	—	—	底部細片	不明	刷毛	横ナデ	横ナデ	淡灰褐色	砂粒少	やや不良			84
124	1SD35	角生?	器台	—	14.2	—	—	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ		淡灰褐色	細砂較多	不良	内:薄		99
125	1SD35	角生?	器台	—	—	—	—	口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ		淡灰褐色	砂粒少	やや良	内:薄		101
126	1SD35	角生?	器台	—	—	—	—	口縁部細片	横ナデ	刷毛	不明	内:茶褐色 外:黑褐色	細砂較合	不良	内:薄		100	

Tab.21 出土遺物観察表(2)

No.	遺物	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外観	体内面	内底面	外底面	色調	粘土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No.
四	1SD05	陶生	鉢	8.6	口縁部断片	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰褐色	細良	やや良	わざかに内凹		98
四	1SD05	陶生	鉢	下平部 1/4		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	内:淡黒灰色 外:茶褐色	砂粒多	不良			102
四	1SD05	陶生	?	口縁部断片	不明					淡茶褐色	砂粒含	不良	跳ね上げ		97
四	1SD05	陶生	蓋	つまみ 部のみ	刷毛 ナデ	刷毛 ナデ				暗褐色	砂粒含	やや不良	つまみ部径5.2cm		75
四	1SD05	陶生	蓋	1/3	丹波り	ナデ				淡茶褐色	細良	やや不良	つまみ部径5.0cm		76
四	1SD05	陶生	蓋子										淡茶褐色	砂粒多	やや良			107
四	1SD05	陶生	蓋子										淡灰褐色	砂粒含	不良			109
四	1SD05	陶生	蓋子										淡茶褐色	砂粒含	やや不良			108
四	1SD05	陶生	蓋子										内:淡茶褐色 外:暗褐色	砂粒多	不良			105
四	1SD05	陶生	蓋子										内:淡茶褐色 外:暗褐色	砂粒多	不良			104
四	1SD05	陶生	蓋子										内:淡茶褐色 外:淡褐色	砂粒多	不良			106
四	1SD05	陶生	蓋子										内:淡茶褐色 外:淡褐色	砂粒多	不良			103
四	1SD05	鉢?	鉢										淡茶褐色	細良	良			112
四	1SD05	鉢?	鉢										淡茶褐色	細良	良			111
四	1SD05	陶片	陶片															113
四	1SD05	陶片	陶片															115
四	1SD05	陶片	陶片															114
四	複数	陶生	蓋	口縁部断片	不明					淡茶褐色	砂粒含	良好	「く」の字状 端部の面に刷毛目有		2
四	複数	陶生	蓋	...	7.4	...	底部1/2		不明	不明	不明		乳黃褐色	砂粒多	良好			1
四	表土	陶片	陶片															1

Tab.22 出土遺物観察表(2)

第Ⅲ章 考察

1：遺跡の全体像

今回の調査は、第Ⅱ章の冒頭に述べたとおり水路部分のみの調査であったため、遺跡の全体像をつかむには資料不足の感は否めない。しかし、周辺の調査成果とあわせて、若干の考察を試みたい。

今回調査した津島皿ヶ町遺跡は、弥生時代中期中葉から古墳時代初頭の遺構が中心をなしている。主要な遺構は、大溝・廐棄土壠・掘立柱建物等であり、前述した時期においては生活空間であったことが窺い知れる。しかしながら、当時の住居の基本形態といえる竪穴式住居は、今回の調査では検出できなかった。本遺跡の西側に隣接する津島北石伏遺跡では弥生時代後期の集落が展開するが、その中に竪穴式住居が1棟確認されている。(註1)出土遺物が乏しく、遺構の残存状況も悪いため、調査担当者は時期の確定を避けているが、他の遺構の時期を考えると弥生時代中期後半から後期のものと考えて大過なからう。

したがって、本遺跡でも調査区外に竪穴式住居が存在したり、削平により消滅したりした可能性は否定できないが、集落の構造として竪穴式住居を主体としない在り方も視野に入れておく必要がありそうである。佐々木隆彦氏は、三浦町の塚崎東畑遺跡や大川市の酒見貝塚の調査報告書の中で、この問題について若干の見解を述べている。(註2・註3)それによれば、筑後川下流域では内陸部と低湿地帯とで集落の在り方が異なり、三浦町の高三浦遺跡付近がその境界にあたるとしている。つまり、内陸部の集落では竪穴式住居が基本住居形態であるのに対し、低湿地帯では掘立柱の平地式住居が基本住居形態となり、その境界が標高10m前後にあたるようである。低湿地帯の集落の例としては、前述の酒見貝塚や同じく大川市の下林西田遺跡(註4)がある。筑後川右岸にあたる佐賀県側では、神埼町の川寄吉原遺跡(註5)等が知られている。

今回調査した津島皿ヶ町遺跡は、標高約9mに展開し、2者の境界付近か、やや低湿地帯よりもあたるものと考えられる。したがって、津島北石伏遺跡のように竪穴式住居が存在する可能性も否定できないものの、竪穴式住居によらずに掘立柱建物を基本住居形態とする集落であった可能性もまた否定できない。

また、廐棄土壠もあり、煮沸具である甕の出土比率も高いことから、この場所で日常生活が営まっていたことは理解される。さらに、常用日田行遺跡第3次調査や常用長田遺跡第2次調査の廐棄土壠の調査例からしても、今回調査した廐棄土壠は基本的に貯蔵穴の転用であると考えるのが妥当であろう。(註6・註7) そう考えると、竪穴式住居と墓域を欠くものの、日常の生活を営む集落として認識することが、もっとも自然である。

本遺跡を、弥生時代中期中葉から古墳時代初頭の集落として認知した場合、もうひとつ問題として浮上するのが、墓域を何處にもとめるのかという問題である。この問題について、確定的なことを論じることはもちろん、具体的なデータに基づいて検討することも無理であるが、担当者の私見・想像を述べてみたい。周辺で弥生時代の埋葬施設が確認されているのは、水田上平塗石遺跡(註8)・常用長田遺跡である。水田上平塗石遺跡では支石墓の主体部とみられる中期前半の甕棺が、常用長田遺跡では甕棺・木棺墓が確認されている。両遺跡とともに、本遺跡からは500m以上北にある。ひとつの考え方として、1集落に1つの墓域が存在するのではなく、複数の集落で墓域を共有していたのではないかだろうか。集落の連合体としてのクニが存在していたと考えるならば、集落の立地状況によっては墓域の共有化は想像に難くない。皿ヶ町遺跡の周辺は、竪穴式住居に不向きであるような低湿地である。とすれば、当然墓壙を穿つて遺体を埋葬するのにも不向きであるはずで、より適地に共同墓地を営むほうが適当である。この問題は、本遺跡の構造にとどまらず、当該期のクニの在り方

にも影響が及ぶと考えられるので、本報告ではこれ以上の論及は行わないが、墓域を持たない集落を理解する一方法として提示しておく。

また本遺跡は、弥生時代中期中葉から古墳時代初頭にかけての集落遺跡であると考えているが、周辺遺跡との係わりも若干ではあるが考えてみたい。今回の調査から、この土地に集落が営まれるのは弥生時代中期中葉であることが判明したが、周辺の遺跡では、常用長田遺跡・常用日田行遺跡・梅島遺跡・下北島久清遺跡・上北島平塚遺跡等で弥生時代前期の土器が出土し、当該時期から集落が営まれていた可能性が高い。特に、常用長田遺跡と梅島遺跡では夜臼式土器の甕も出土していて興味深い。

以前に、筑後市域に於ける弥生時代前期の遺跡は市の南部域に集中することを指摘した（註8）が、集落の展開状況からみても、この考え方は大過ないと思われる。また、立石真二は、最も古い段階の弥生時代集落は常用地区のそれであり、中期以降周辺へ拡大していくという考え方を示した。

（註9）この考えは、弥生時代前期の集落を常用地区に限定して考える点を除いて、弥生時代集落の展開状況を理解するものとして評価できる。

しかも、土器の器形変化も中期初頭の城ノ越式土器は、前期の板付式・亀ノ甲式土器の器形を概ね踏襲し、以降の須久式土器との間により大きな画期をもたらす。特に壺型土器の器形変化はその傾向が顕著である。したがって、集落造営の画期が中期初頭と中期中葉の間にまとめて大きな混乱はない。むしろ、竪穴式住居の平面プランが円形から方形へと変化することとも符合する。

では、本遺跡で弥生時代前期の集落が営まれなかつた理由について考えてみたい。まず、前期の土器が出土した4遺跡の立地について概観する。まず、常用長田遺跡は約標高9mの微高地上にあり、遺構検出面は暗茶褐色粘質土であった。水はけは良好であるが、明確な竪穴式住居は確認できなかつた。次に、常用日田行遺跡であるが、常用長田遺跡の北隣の微高地上にあり、状況は常用長田遺跡と同様であった。梅島遺跡も常用長田遺跡と同様の立地条件のところを中心に展開している。下北島久清遺跡では少し状況が異なり、東から延びる低丘陵の先端付近の南斜面に展開する。ここでも竪穴式住居は確認できなかつた。上北島平塚遺跡は下北島久清遺跡と同様の立地環境である。弥生時代中期初頭のものと考えられる大型の竪穴式住居を、1基確認している。

以上のように、弥生時代前期の遺跡の立地環境について概観してみると、1つのことに気がつく。弥生時代前期の集落は、いずれも水はけのよいところを選んで展開している。津島皿ヶ町遺跡の状況とは大きく異なる。津島皿ヶ町遺跡は、掘立柱や礎板が遺存するほど湿潤な土壤のうえに展開している。筑後市域での弥生時代前期の集落では、竪穴式住居が確認されていないため、当時の住居も掘立柱の平地住居を中心に考えるほかないが、その場合でも湿潤な土壤よりも水はけのよい土地の方が集落の設営は容易であったためと考えるのが妥当であろう。その後、南部域に比べて水の確保がやや困難な北部域への開発の進展が行われたところと前後して、より南の湿潤な土地への進出も行われたのではないだろうか。その際につくられた集落の1つが、この津島皿ヶ町遺跡であろう。

2：柱根と礎板

1SB26で出土した柱根と礎板は、本遺跡が低湿地帯に展開し地下水位が比較的高いという好条件に恵まれて遺存状態が比較的良好であった。ここでは、柱根と礎板の組み合わせ方法とその意義について考えてみたい。

今回出土した柱根は、面取りを行って断面八角形に仕上げていて、底部は礎板と組み合わせるために切り欠きがある。また、礎板は丸太材を2つに割って蒲鉾状の断面をしている。その上で柱の底部の切り欠きに合わせるために、中央部を細く加工している。組み合わせかたは、第Ⅱ章でも報告したとおり、礎板の平坦面を下にして、両者の切り欠きを合わせている。切り欠き以外には、特

に固定のための措置はとられていない。

今回出土した柱と礎板の例は、筑後市内では下北島久清遺跡で確認されている。(註10) 時期も弥生時代後期頃と考えて問題ないと思われるが、詳細は本報告をもって正とする。ただ、出土した時点では遺存状況が悪かったため、保存中の劣化も激しく、ここに図示できない。調査時点の記録から復原すると、柱はなく、礎板のみが2点出土している。礎板の法量も、今回報告するものとほぼ同等である。ただし、礎板を出土した柱穴は、津島

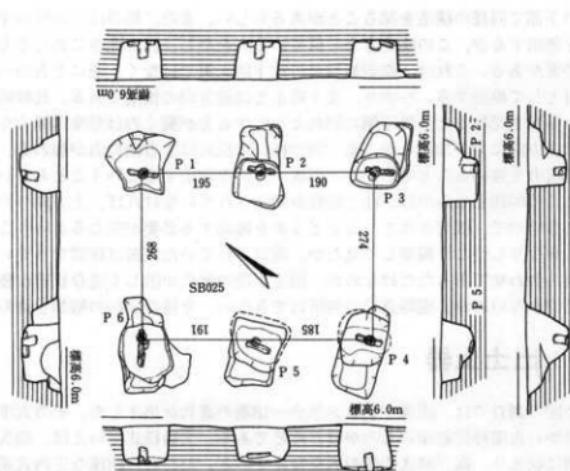


Fig. 79 村徳永遺跡F調査区SB25 (1/80)
(報告書から転載)

皿ヶ町遺跡でのそれよりも大きく、 $1.2m \times 0.8m$ ほどもある。しかも、柱穴の底は礫混じりの固い地盤に達している。

また、筑後市周辺の調査例は管見の及ぶかぎり、福岡県下では判然としない。しかし、隣接県である佐賀県では、佐賀平野に分布する遺跡で出土例が知られている。その中で最も著名なのが、佐賀市の村徳永遺跡である。村徳永遺跡は現在第12次調査まで実施されている。その中で、同様の礎板が多く出土したのはF調査区(第6次調査)である。(註11) F調査区では礎板を使用した建物は合計19棟確認されている。いずれも形状・法量は、津島皿ヶ町遺跡のものとほぼ同等である。代表例としてSB25を図示する(Fig.79)。出土した柱穴の状況は、下北島久清遺跡のそれと酷似していて、やはり柱穴底面は固い地盤に達している。調査を担当した木嶋眞治氏によれば、柱穴底面は固くしまった土質であり、沈下防止策をとるような必要性はないとの判断であるらしい。また、柱と礎板の固定方法については、本報告では明言していないものの、組み合わせ以外に特段の固定措置はとられていないと判断される状況であったという。

九州島を離れて類例を見てみると、近畿地方の例に目を引かれる。しかし、近畿地方で礎板が一般的になるのは5世紀以降で、特に難波宮での例は著名である。規模は拡張しているが、構造自体は極めて近似している。大阪平野の軟弱地盤上の大規模建物に対する沈下防止策として採用されたと考えるのが妥当、津島皿ヶ町遺跡の状況に近いものがある。

一般的に礎板の機能については、軟弱地盤での沈下防止と考えられている。礎板が平面を下にして据えられることは、この意見に対し説得力を生んでいる。津島皿ヶ町遺跡の状況だけを考えれば、まさにその意見は説得力をもっている。しかし、下北島久清遺跡や村徳永遺跡の例を加えて考えると、沈下防止だけでは十分な説明とはならない部分がでてくるのも事実である。

下北島久清遺跡の調査中に、偶然に調査現場を実見していただいた建築士の方(1991年当時御アーバンデザイン勤務)から、興味深い話を伺ったので、ここに紹介しておきたい。現代の建築工法のなかで、類似する工法があるという。工法の名称は忘れてしまったが、ビルの建築の際などに、基

礎の下部で同様の構造を探ることがあるらしい。また、鯉のはりの柱の下部にも十字型に組んだ木材を使用するが、この構造もよく似ている。ただし、柱と礎板にあたるものはしっかりと固定される必要がある。これは、軟弱地盤での沈下防止策ではなく、逆に上方向へ引っ張る力に対しての抵抗材として機能する。つまり、沈下防止とは逆方向の機能である。比較的高さのある建物は、横方向から風を受けると、風下側に倒れようとする力が働くのは想像に難くない。その際、風下側の柱には下方向に力が加わるが、風上側の柱には反対に上方向に力が加わる。この上方向の力に対しての抵抗力を強めることで、建物が倒壊するのを防止するということらしい。

ここで問題となるのは、柱と礎板が固定されていなければ、上方向への力に対しての抵抗力は生まれないので、固定されているかどうかを確認する必要が生じるということである。今回の調査でも、かなりしつこく観察して見たが、固定されていた痕跡は確認できていない。はたして、当初から組み合わせてあっただけなのか、固定手段の風化が激しく遺存状態が極めて劣悪であったために確認できないのか、現時点での判断はできない。今後の資料の増加を待ちたい。

3：出土土器

今回の調査では、総量パンコンテナー18箱の遺物が出土した。その大半は土器で、弥生時代中期後半から古墳時代初頭のものがほとんどである。土器様式でいえば、須久式から布留式土器までの範疇に収まり、高三溝式や西新式を含んでいる。ただし、明確な庄内式系のものは確認できていない。また、二重口縁を模したものや、鼓型器台も出土しており、瀬戸内地方の影響もみられる。また、口縁形態から熊本地方の影響もみられて、活発な交流・交易が想像できる。

今回の調査で出土した土器を、甕の形態変化に重点をおきながら分類してみると、A群からD群までの4群に大別できる。各群はさらに細分可能である。以下、順に説明したい。

A群 甕の口縁部が逆L字状となるタイプである。

A-1

A群のうち、甕の口縁部がT字状を呈するか、その面影を強く残すタイプである。甕は61等がこれにあたる。

A-2

甕は口縁部が完全に逆L字状となるもので、逆L字状口縁を持つタイプでは最も完成された器形である。底部は広く安定している。体部に突帯が貼り付けられることは少ない。235・238等がこれにあたる。

壺は、まさに須久式土器の壺で、頸部はよくしまり、頸部から口縁部にかけては直立して立ち上がってから緩やかにひらく。

A-3

甕の口縁は逆L字状を保ってはいるが、端部が垂れ下がってくる。体部に三角突帯を貼り付けるものがみられるようになる。297・301等がこれにあたる。

A-4

甕の口縁は逆L字状ではあるが、端部を跳ね上げるタイプで、一部は小さなキャリバー状となるものもある。136・487等がこれにあたる。

B群 甕の口縁部が「く」の字状となるタイプである。

B-1

B群のうち、甕の口縁端部に面を持たず、口縁端部を肥厚させることもしない類型である。315・317等がこれにあたる。

B-2

甕の口縁端部が肥厚するタイプである。

B-3

甕の口縁端部に面を持つタイプである。刻み目はない。

B-4

甕の口縁端部に面を持ち、刻み目を施すタイプで、器壁が厚い。

C群 小型の甕で、口縁部は如意形とよく似た「く」の字状をしている。

C-1

C群のうち、器壁の厚いタイプである。

D群 土師器である。甕の口縁部が「く」の字状となるタイプである。体部外面は叩きのち刷毛目、内面は窓ヶズリを施す。底部は丸底となる。

D-1

甕の口縁端部が二重口縁状になるタイプである。

D-2

甕の口縁端部直線的にのびるものである。

D-3

B群のうち、甕の口縁端部を上方向につまみあげるものである。

大きな流れとしては、A群→B群→D群となり、C群はB群の段階の一部に伴うようである。「く」の字状の口縁をもつ甕は須久I式の段階から伴うことがある。しかし、武末純一氏も指摘しているように、遠賀川以西の地域では出土例も少なく(註12)、おむね須久II式の段階から現われると考えた方が理解しやすい。

以上の分類から、津島皿ヶ町遺跡のなかで、甕を中心に土器の時期的変遷を整理したい。概ね1類から5類への変遷を考えている。

1類

A群のうち、A-1・A-2のみで構成される。基本となる器形はA-2で、所謂「須久I式」と併行となる可能性が高い。A-1は地域的な器形変化か。

壺は出土をみなかった。「亀ノ甲式」や「城ノ越式」はみられない。

2類

A群のうち、A-2・A-3・A-4・B-1が混在する。基本となる器形はA-3で、所謂「須久II式」と併行となる可能性が高い。A-4は肥後地方の土器に類例を認められる。熊本県矢諏川日向遺跡で同様の器形の甕が確認できる。(註13)

3類

A-3・B-1・B-2・B-3・C-1が混在する。基本となる器形はB-3で、所謂「高三諸式」にあたる。底部は、まだしっかりとした平底を保っている。B-2はB-1・B-3の変化したものと理解すべきであろう。C-1はこの時期特有のものと考えているが、2類と4類には一部存在することは否定しない。前後に属性のない器形といえる。ただし、今後の資料増加で見解がかかる可能性は否定できない。代表例として、三崎町の玉満松木ソノ遺跡のSX01出土の60をあげておく。(註14)

壺は、特徴的な袋状口縁となり、一見してそれとわかる。鉢は直線的に立ち上がる口縁部を特徴としている。

4類

B-3・B-4を主体とする。基本器形はB-4で、「西新式」と併行すると思われ、「狐塚I式」にあたる。底部はかなり小型化し、全国的な弥生終末期の土器様式と合致する。

壺は、袋状口縁が退化した二重口縁となり、頸部が伸びる。(631)鉢は土器器へ移行する前段階にあたり、口縁部の内湾がみられる。

5類

D-1・D-2・D-3を主体とする。基本器形はD-3で、「布留式」系統の土器である。このうち、体部の最大径が体部中位にあるものはやや古相を示し、その中に二重口縁のD-1がみられる。体部の最大径が体部上位にある新相では、D-1はみられない。

註

- 1 筑後市文化財調査報告書第21集「筑後西部第2地区遺跡群(I)」 筑後市教育委員会 1999
- 2 福岡県文化財調査報告書第127集「塚崎東畠遺跡」 福岡県教育委員会 1997
- 3 大川市文化財調査報告書第2集「酒見貝塚」 大川市教育委員会 1994
- 4 福岡県文化財調査報告書第132集「下林西田遺跡」 福岡県教育委員会 1998
- 5 佐賀県文化財調査報告書第61集「川寄吉原遺跡」 佐賀県教育委員会 1981
- 6 「筑後遺跡だより 第11号」 筑後市教育委員会 1999
- 7 「筑後遺跡だより 第15号」 筑後市教育委員会 1999
- 8 永見秀徳 「筑後の古代遺跡」 教育筑後第37号所収 1993
- 9 (註1に同じ)
- 10 平成3年度 筑後市教育委員会調査
- 11 佐賀市文化財調査報告書第32集「村德永遺跡-E・F・G・H地区的調査-」 佐賀県教育委員会 1990
- 12 武末純一 「須久式土器」 日本土器事典所収 雄山閣 1996
- 13 佐藤伸二 「黒髮式土器」 日本土器事典所収 雄山閣 1996
- 14 三潴町文化財調査報告書第6集「玉満松木ソノ遺跡」 三潴町教育委員会 1999

終章 結語

今回の報告をもって、筑後西部第2地区遺跡群のうち津島地区的遺跡群の報告が完了する。一連の調査で、津島地区的遺跡群の一部が明らかになったといえる。

津島地区的遺跡群は筑後市域の最南端に位置する。しかし、さらに南側には瀬高町本郷地区的遺跡群が展開している。したがって、津島地区的遺跡群について考える際に本郷地区的遺跡群を抜きにすることはできない。本郷地区的本報告がなされた後に、筑後市域の弥生時代集落の展開について論考を加える機会を得たいと考えている。

また、序章にも記したとおり、筑後西部第2地区遺跡群の調査は、県営担い手育成農地整備事業筑後西部第2地区の事前調査として実施している。現状保存を行えない部分についてのみ記録保存の措置をとることとしているため、ほとんどの調査対象地が水路予定地となった。そのため、細い線状の調査区設定を余儀なくされ、遺跡全体像の窺い知るには程遠いものとなっている。本章の冒頭に「一部が明らかになった」と書いた所以である。

上記の事情から、集落の面的なひろがりや、居住域・墓域・生産域といったゾーニングについても、今回論及できない。今後の調査事例の増加を待ちたい。

津島皿ヶ町遺跡の調査では、降雨による調査区水没等により調査計画に遅延が生じた。その間、福岡県筑後川水系農地開発事務所・筑後西部第2土地改良区および施工担当の柳西田組には、終始調査に御助力をいただいた。本書を締めくくるにあたり、末筆ながら御礼申し上げたい。

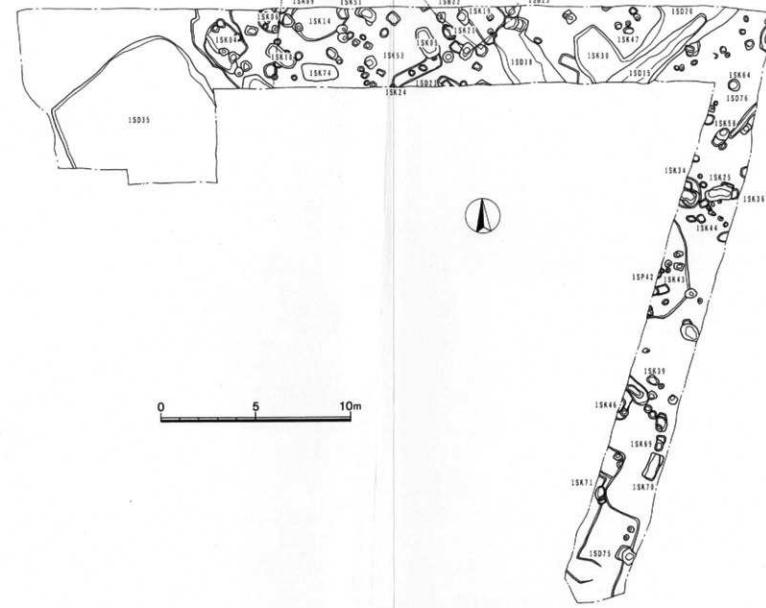


Fig. 80 津島皿ヶ町遺跡調査区全体図（1/200）

写真図版

PLATE

凡 例

遺物図版の遺物番号は、本文中の
遺物番号と一致する。